

林野庁委託事業

令和5年度
山の炭素吸収応援プロジェクト

報告書

令和6年3月

林野庁

目次

1. 本事業の目的及び実施事項.....	2
(1) 目的.....	2
(2) 実施事項.....	3
(3) 実施内容.....	3
2. 結び.....	7

【添付資料一覧】

別紙1: 報告書別紙

報告事項: ポータルサイトアンケート(企業向け・地方自治体向け)、カーボン・クレジット取引プラットフォーム事例調査、GX リーグ参画企業向け森林吸収系 J-クレジット活用意向調査、森林吸収系 J-クレジット創出支援ツールの開発、森林吸収系 J-クレジット説明動画、リーフレット、シンポジウムの開催、事例集の作成

別紙2: 森林吸収系 J-クレジット創出支援ツール

別紙3: 森林吸収系 J-クレジット_リーフレット

別紙4: 森林吸収系 J-クレジット_事例集

別紙5: ポータルサイト事前登録フォーム(自治体)

別紙6: ポータルサイト事前登録フォーム(企業)

別紙7: 事務局向け_山の炭素吸収応援ポータルサイト 操作マニュアル(2024_03_15 版)

別紙8: 自治体向け_山の炭素吸収応援ポータルサイト 操作マニュアル(2024_03_15 版)

別紙9: 企業向け_山の炭素吸収応援ポータルサイト 操作マニュアル(2024_03_15 版)

1. 本事業の目的及び実施事項

(1) 目的

2050年カーボンニュートラル実現に向け、あらゆるセクターで大幅な排出削減に取り組むとともに、残余排出をオフセットするための森林等によるCO₂吸収を確保することが不可欠となる中、産業界から森林整備への参画に対する関心がますます高まっている。こうした背景を受け、今後CO₂の吸収確保のための森林整備を積極的に進めていく上では、民間資金の更なる活用を図り、経済と環境の好循環を促進することが重要である。

民間資金の活用による森林整備には、J-クレジット制度の活用やCSR活動、寄付(企業版ふるさと納税やクラウドファンディング)など様々な形態があるが、これらの取組を加速していくには、制度の存在や仕組み、メリット等を資金拠出側の企業等が十分に認知するとともに、資金受け入れ側の地方自治体やクレジット創出者等も効果的な情報発信を行っていく必要性が高まっている。

特に、政府による2050年カーボンニュートラル宣言以降、経営戦略としてカーボンニュートラルを掲げ、SBTiやCDP等の国際的なイニシアチブへ参加する企業が増加する中、スコープ3も含めた排出量のオフセット手段やカーボンフットプリントに基づきオフセットされた商品のプロモーション手段として、カーボン・クレジットの活用に対する関心は急速に高まっている。一方、森林吸収系J-クレジットの創出側の動きは、昨年の制度改正も後押しとなって自治体等の公的セクターを中心に活発化しているが、こうした機運を今後も継続的に発展させるためには、民間セクターに対しても、J-クレジット制度への参加に向けた心理的ハードルや実務上の障害を取り除くとともに、創出された森林吸収系J-クレジットの独自性(地域貢献やストーリー性等)を踏まえた需要家サイドとの効率的なマッチングの促進に向けた情報発信を強化する必要がある。

また、企業からの民間資金を募る上では、地方自治体や企業等が比較的取り組みやすい手段としては、法人税の免除といったメリットもある企業版ふるさと納税制度もあるが、現状のふるさと納税サイト等では森林整備に係る特集は存在せず、その他多くの取組の一つとして紹介されている状態となっており、情報不足のために取組が進んでいないことも課題となっている。

これらのことから、企業版ふるさと納税といった比較的取組の難易度が低いと思われる取組からJ-クレジットに至る多様な民間資金を活用した森林整備の取組の仕組みや実際の森林整備案件等を取りまとめた網羅的な情報をより強力に発信していくことで、様々な民間資金活用の選択肢についての認知度を高めるとともに、現場の事業者等が、難易度が低い取組から難易度が高い取組に段階的に移行することも可能とするなど、森林整備への民間資金活用の裾野を拡大していく必要がある。

このような背景から、本事業では、以下に示す事業内容を実施し、森林整備への応援団となる企業に対して民間資金投入を促進することで、取組の裾野を拡大するとともに、森

林吸収系 J-クレジットの創出やその後の販売を通じた収入機会の拡大を図ることにより、再造林の推進等、林業経営基盤の強化へとつながっていく好循環を生み出す環境を整備し、森林による炭素吸収の更なる促進を図ることを目的とする。

(2) 実施事項

本事業では、主に下記の事項を実施した。

- ① 民間資金活用促進に向けたニーズ等の動向調査
 - (ア) 地方自治体等への需要調査・情報整理
 - (イ) 森林吸収系 J-クレジットのマッチング手法の検討
- ② 民間資金活用促進に向けた情報発信サイトの構築等
 - (ア) ポータルサイトの構築
 - (イ) 森林吸収系 J-クレジット創出支援ツールの開発
- ③ 民間資金活用促進に向けた普及活動
 - (ア) 普及・説明用ツールの作成等
 - (イ) シンポジウムの開催
 - (ウ) 事例集の作成

(3) 実施内容

- ① 民間資金活用促進に向けたニーズ等の動向調査
 - (ア) 地方自治体等への需要調査・情報整理
 - 地方自治体や企業等で実施している民間資金(J-クレジット、企業版ふるさと納税、クラウドファンディング等)を活用した森林整備の取組状況や今後の取組の意向、ポータルサイトへの登録の意向などについてのアンケート調査等を行った。
 - アンケート結果については、別紙1ポータルサイトアンケート結果にとりまとめた。
 - アンケート結果より、以下の結果が示唆されたことにより、ポータルサイトの設計において対応した。
 - 【示唆例①】企業と地方自治体との森林整備の連携においては、企業・地方自治体とも「関心はあるが、どのように取り組めばよいかわからない」という意見が多数回答された
→【対応】企業と自治体との優良事例集を作成し、連携における実務プロセスを記載するなど、これから取り組もうとする企業や自治体の担当者が参考になる情報を盛り込むこととした
 - 【示唆例②】ポータルサイトは、取組意向のある地方自治体のみが情報を掲載する形態も考えられたが、企業アンケートでは「ポータルサイトでの情報発信について前向きに検討したい」という回答が多かったこと

→【対応】企業情報も掲載するポータルサイトを設計することとした

(イ) 森林吸収系 J-クレジットのマッチング手法の検討

(GXリーグ向けアンケート)

- 森林吸収系 J-クレジットの取引の実態の事例を調査するため、GX リーグ参画企業を対象に、これまでのカーボン・クレジットの活用実績、クレジットの購入量・価格、購入動機、及び GX-ETS における森林 J-クレジットの活用の意向についてアンケート調査を行い、需要家サイドから見た森林 J-クレジット活用に関する課題・問題点を分析した。
- アンケート結果については、別紙1GXリーグ参画企業向けアンケート結果にとりまとめた。

(カーボン・クレジット取引プラットフォーム事例調査)

- 国内外のカーボン・クレジットの取引プラットフォーム(例: Xpansiv、Choose、Nori、Net Zero Marketplace、EVI 等)を対象とし、森林吸収系 J-クレジットの取引の状況、マッチング手法、レーティングや決裁等の方法を調査し、非炭素便益を有する森林吸収系 J-クレジットの特性や強み(地域貢献やストーリー性)を踏まえた我が国における効率的・効果的なマッチング・取引手法について検討した。
- 調査結果については、別紙1カーボン・クレジット取引プラットフォーム事例調査にとりまとめた。

② 民間資金活用促進に向けた情報発信サイトの構築等

(ア) ポータルサイトの構築

- ①(ア)で実施したポータルサイト構築に向けたアンケート調査結果を踏まえ、各種民間資金の制度概要やこれらによる森林整備を進めたい地方自治体等を紹介し、森林整備に投資や寄付等を行いたい企業のニーズに沿った情報の取得を可能とすることで、これらの取組の推進に資するポータルサイトを構築することとした。
- サイトの構築に当たっては、本事業の趣旨が取組の裾野を拡大していくというものであることから、これまで森林整備に関心を持っていなかった企業等が森林整備にも目を向け選択肢として検討することも可能となるよう、既存の企業版ふるさと納税、クラウドファンディング等の取組について、サイト内に優良事例をとりあげた。
- また、ポータルサイトの掲載情報に、自治体情報だけでなく、森林整備について取組意向のある企業情報も掲載するかは一つの論点であったが、アンケート回答のあった企業の多くから、「情報発信について前向きに検討したい」という回答が多かったことから、企業情報も掲載するサイト構成とした。
- ポータルサイトは、オープンソースアプリケーションである「WordPress」を用いて構築することに決定した。ポータルサイトのサイトマップ案をベースに、各ページのデザ

イン、掲載内容等を林野庁との協議の上、確定した。

- ポータルサイトの構築においては、農林水産省との協議の末、「農林水産省クラウド（以下、MAFF クラウド）」に環境を構築することに決定した。
- MAFF クラウドに環境構築を行う上では、クラウドサービスである AWS や Azure に対応する必要があるため、今年度は AWS での環境構築を実施する方針で作業を進めた。しかし、AWS での環境構築には、デジタル庁との確認作業等に時間・工数を要することから、実施スケジュール上、令和 5 年度中の構築は困難となったため、次年度に持ち越すとともに、サイトの一般公開も次年度以降に持ち越しとした。
- ポータルサイトは、登録者が自ら情報を登録し、それがそのまま掲載される仕組みとしており、登録者の掲載情報を事前に事務局で確認する構成とはしていない。このため、ポータルサイト公開前にいくつかの自治体及び企業に事前登録を呼びかけ、サイトとは別の登録フォームに情報を登録してもらい、林野庁が情報を事前に確認し、必要に応じて修正を依頼するなど、掲載情報のばらつきを小さくしサイト掲載情報の粒度を一定水準に高める工夫を行った。
- サイト登録フォームは、別紙 5_ポータルサイト事前登録フォーム(自治体)、別紙 6_ポータルサイト事前登録フォーム(企業)にてとりまとめた。
- ポータルサイトについては、別紙 1 にリンクを示しているポータルサイトデモサイトにて、現時点版のサイト構成が確認できるようになっている。また、本年度実施した MAFF クラウド環境構築までの途中経過作業についても別資料にとりまとめた。
- 概要については、別紙 1 ポータルサイトの構築にとりまとめた。
- ポータルサイトのサイトのマニュアルについては、事務局向け、自治体向け、企業向けの 3 種類を別紙 7～9 山の炭素吸収応援ポータルサイト 操作マニュアル (2024_03_15 版)にとりまとめた。

(イ) 森林吸収系 J-クレジット創出支援ツールの開発

- 本事業では、森林管理プロジェクトへの登録を検討している者が、所有・管理する森林の情報(所在、樹種、林齢、面積)等を入力し、プロジェクト実施による吸収見込み量及び伐採木材による炭素固定量を簡易に試算できる計算ツールを開発した。
- 開発にあたっては、J-クレジット制度における最新のモニタリング・算定規程(森林管理プロジェクト用)におおむね準拠する形とし、簡易な操作によりおおその目安となる吸収見込み量の試算ができるものとした。
- 「森林吸収系 J-クレジット創出支援ツール」は、Excel 形式で作成し、J-クレジット創出者が簡易に利用しやすい形態とした。ツールは、試作版ができた時点で、複数の J-クレジット創出を試みる都道府県に配布し、使用感や算定結果の検証等を依頼、そのフィードバックを受け、ツールを最終化した。
- 「森林吸収系 J-クレジット創出支援ツール」は、別資 2 のとおり。概要は、別紙 1 森

林吸収系 J-クレジット創出支援ツールの開発にとりまとめた。

③ 民間資金活用促進に向けた普及活動

(ア) 普及・説明用ツールの作成等

- J-クレジット制度における森林吸収系 J-クレジットの創出・購入に対して興味を持った者(潜在的な創出者・需要者)のための導入資料として、「森林吸収系 J-クレジット_リーフレット」及び「森林吸収系 J-クレジット説明動画」を作成した。
- 「森林吸収系 J-クレジット_リーフレット」は、別紙 3 のとおり。概要は、別紙1普及・説明用ツールの作成等にとりまとめた。
- 「森林吸収系 J-クレジット_説明動画」は mp4 形式で納品の後、Youtube にて公開する形とした。概要は、別紙1普及・説明用ツールの作成等にとりまとめた。

(イ) シンポジウムの開催

- 「森林整備への民間資金活用促進」及び「森林吸収系 J-クレジットの創出・活用の拡大」の2つのテーマによる二部構成のシンポジウムを1回開催した。第一部では、森林吸収系 J-クレジットの創出者、仲介者、活用者の事例紹介やトークセッション、本事業で作成した森林吸収系 J-クレジット創出支援ツールやリーフレット、説明動画などの説明を行った。第二部では、ポータルサイトの趣旨や具体的な内容、優良事例などを紹介し、ポータルサイトの認知度向上を図った他、企業・自治体による取り組み連携のマッチング呼びかけの機会を設けるなどの工夫を行った。
- 開催報告については、別紙1シンポジウムの開催にとりまとめた。

(ウ) 事例集の作成

- 事例集は、森林吸収系 J-クレジットのプロジェクト登録、クレジット認定申請における手続きが煩雑であることや相対取引が中心で取引形態が見えない等から、クレジット創出・販売の双方に初めて取り組む者にとってハードルが高くなっていることを踏まえ、それらの取組を先進的に取り組む自治体・企業等にヒアリングを実施し、クレジット創出に取り組むことになった背景、取組みの進め方、実施体制、クレジット販売収益の活用状況をまとめ、クレジット創出と販売のノウハウをまとめた。
- 森林吸収系 J-クレジットの創出・販売に先進的に取り組む自治体、森林組合、企業等7団体に対しヒアリングを実施し、クレジットの創出に取り組むことになった背景、創出から販売までの各段階における取組の進め方、実施体制、クレジット収益の活用状況等を把握し、他団体への横展開を念頭に、各団体 A4版2ページの事例資料としてとりまとめた。
- 事例集は、別紙 4 のとおり。概要は別紙1事例集の作成にとりまとめた。

2. 結び

本年度は、森林吸収系 J-クレジット創出に関する各種ツールの開発、森林吸収系 J-クレジット創出・販売等に資する事例等の情報整理・発信、ポータルサイトの構築を実施した。次年度以降は、森林吸収系 J-クレジットの更なる普及拡大に向けた取り組みや、ポータルサイトの MAFF クラウド環境下での構築・一般公開に向けて取り組んでいく必要がある。

令和5年度
山の炭素吸収応援プロジェクト
報告書

令和6年3月
発行：林野庁
作成：有限責任監査法人トーマツ(受託者)

令和5年度 山の炭素吸収応援プロジェクト 報告書

1 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

目次

①民間資金活用促進に向けたニーズ等の動向調査	3
ア 地方自治体等への需要調査・情報整理	
・ポータルサイトアンケート（地方自治体向け）	
・ポータルサイトアンケート（企業向け）	24
イ 森林吸収系J-クレジットのマッチング手法の検討	35
・GXリーグ参画企業向け森林吸収系J-クレジット活用意向調査	
・カーボンクレジット取引プラットフォーム事例調査	46
②民間資金活用促進に向けた情報発信サイトの構築	59
アポータルサイトの構築	
イ森林吸収系J-クレジット創出支援ツールの開発	63
③民間資金活用促進に向けた普及活動	66
ア普及・説明用ツールの作成等	
・リーフレット	
・森林吸収系J-クレジット説明動画	69
イシンポジウムの開催	73
ウ事例集の作成	90

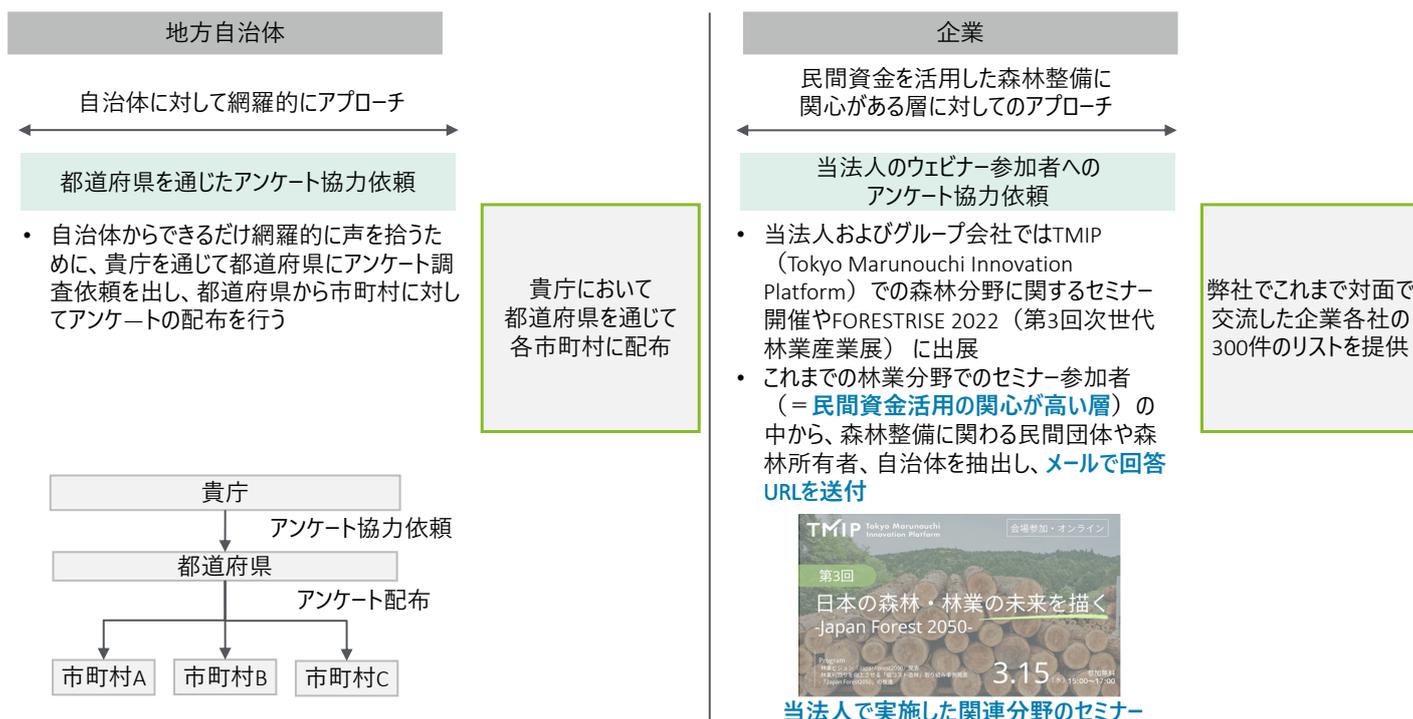
2 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

① 民間資金活用促進に向けたニーズ等の動向調査 ア 地方自治体等への需要調査・情報整理

- ・ ポータルサイトアンケート（地方自治体向け）
- ・ ポータルサイトアンケート（企業向け）

ポータルサイト向けアンケートの発出先について下記の通りいたしました

ポータルサイト向けアンケートの発出先



【ポータルサイトアンケート（自治体向け）】 ポータルサイト構築に向けた自治体向けアンケート結果概要

アンケートの実施概要

アンケートの目的

- 本アンケート調査では、自治体におけるこれまでの民間資金を活用した森林整備の取組実績や今後の意向等をお伺いすることで、さらなる民間資金の活用に向けて、自治体が抱える課題等を明確化することとした。本調査の結果を踏まえて、ポータルサイトの在り方の検討を実施

アンケートの対象者

- 委託事業者にて

回答数

- N=534
➢ 地方自治体534団体よりアンケート結果を回収

実施期間

- 2023年8月17日から9月22日

5 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

アンケートの結果のポイント

ポータルサイトの構築に向けた示唆

【企業と自治体とのマッチングについて】

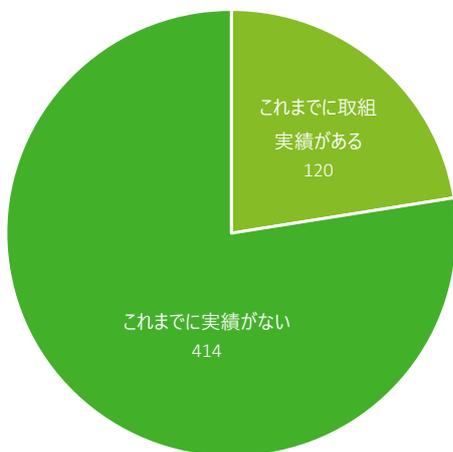
- 今回アンケートにより、問6において、企業と自治体とどのようにつながったかについて尋ねたが、「企業から森林整備活動・資金協力に関する提案や問い合わせがあった」という回答が最多であった。
- このことから、自治体から企業側への呼びかけをしていくことができれば、森林整備に意欲的な企業は、パートナーとなりうる自治体をより容易に探しうるようになると考えられる

【取組を進める上での課題】

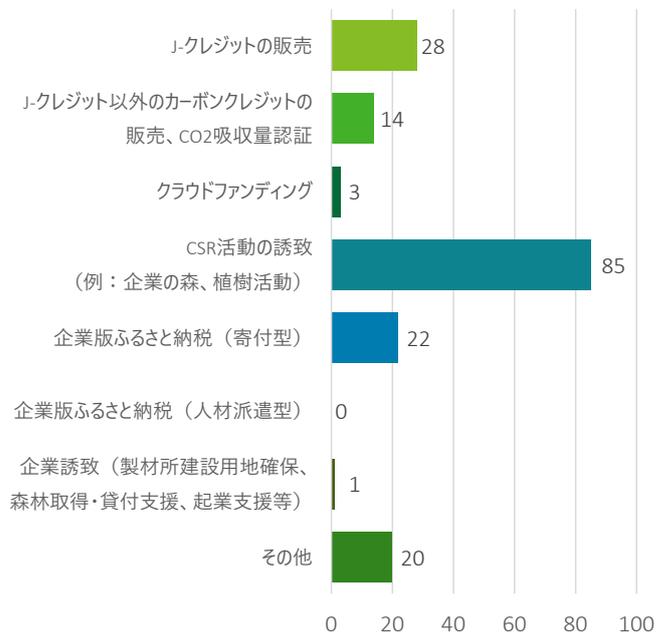
- 問9、では、取組を進める上での課題を質問したが、ここでは企業と具体的に取組を進めていくうえでの調整に苦労したという声が多かった。
- また、問11で、これまでに企業と連携しての森林整備の実績がない自治体に「なぜこれまで実施していないか」を質問したところ、「関心はあるが、検討・実行する人材がない」「関心はあるが、何をとりくんだらよいかわからない」という回答が多かった
- 自治体側では、企業と連携して取組を進める人材やノウハウが不足していることが考えられ、ポータルサイトでは事例集において、企業と自治体の連携の取組の進め方の具体的なプロセスを例示することが必要になると考えられる

森林整備における民間資金活用の過去実績と今後の意向（1）

1. 企業等と連携した森林整備や、森林整備のための資金確保について、取組実績があるか（単一選択）



2. 企業等と連携した森林整備や、森林整備のための資金確保について、これまでどのような取組実績があるか（複数選択可）



6 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

森林整備における民間資金活用の過去実績と今後の意向 (2)

3. 取組を行うに当たり、自治体以外で主体的に関与した団体名 (例：森林組合、林業事業体含む民間企業、NPO法人等)

森林組合 (同回答49件)
林業事業体含む民間企業 (同回答10件)
NPO法人 (同回答9件)
公益社団法人 (同回答9件)
その他協会、協議会、組合、センター等 (同回答7件)
公益財団法人 (同回答3件)
一般社団法人 (同回答2件)
協同組織金融機関 (同回答2件)

森林組合連合会
森林整備を行うボランティア団体
学校法人
一般財団法人
振興局
財産区
同窓会
地域住民・団体

7 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

森林整備における民間資金活用の過去実績と今後の意向 (3)

4. 企業等との連携 (資金協力) について、どの程度継続的に実施しているか (例：平成○年度以降毎年行っている、令和○年度の○○の際に単発で実施した 等) (自由記述)

企業から問い合わせ等があれば単発的に実施
平成14年度の制度創設以降、協定期間が途切れることなく継続している
企業等から要望がある都度実施(単発)
平成21年度以降毎年
年1~2件程度(CO2吸収量認証)、3年に1件程度(企業との森づくり)
平成29年度以降毎年行っている。
平成31年度以降毎年行っている。
平成24年度以降毎年行っている。
例年、2か所程度ずつ企業等と協定を締結している
各種取組により異なるが、古いものでは昭和の時代から継続されている
5年以上
企業の森植樹活動の際に単発で実施
令和4年度以降継続して行っている(J-クレジット販売)
平成20年度以降毎年行っている
平成21年度の森の里親事業から実施
令和4年度より毎年実施(令和10年度まで継続予定)
町有地での植樹活動を平成4年度から令和元年度まで実施した。
令和4年度に単発で、2社実施した。
平成14年度以降毎年行っている
令和3年度から現在まで継続中
平成19年度以降毎年行っている
令和4年度企業の森植樹実施
平成21年度以降毎年行っている。平成24年度以降毎年行っている。令和3年度に単発で実施。

A社とはH23年度に単発で実施。B社とはH23~R2, R3~R5で継続的に実施。
5年以上毎年行っている
令和4年度に企業との協働宣言を発してより、毎年行っている。
平成20~24年度頃まで実施
平成30年度以降 毎年実施
平成19年度以降毎年実施
平成20年度から毎年行っている
平成16年度以降毎年行っている。
平成29年度、令和3・5年度の3回
企業版ふるさと納税を利用した事業については、令和4年度以降継続実施。
CSR活動による森林整備については、令和2年度、令和4年度に実施。
平成27年度から令和4年度
令和2年度の企業版ふるさと納税の際に単発で実施
約20年前から計5社と協定を結んでいる。
平成20年度以降、毎年行っている。
平成21年度より事業継続しています
令和4年から企業と連携して植樹事業を開始。令和5年度も実施予定。
J-クレジット関係企業とは毎年、売買等取引がある。企業と連携した森林整備は平成23年度頃の単発実施。
平成11年1月より「水源林パートナー」制度を開始、その後平成21年3月末に「森林再生パートナー」制度へと移行し、現在も継続的に参加企業が増えている。
令和4年度10月に実施した

8 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

森林整備における民間資金活用の過去実績と今後の意向 (4)

4. 続き

令和4年度に企業の森に関して協定を締結し、R5～R10の間、継続的に実施予定。
 森林の里親事業にて H23から森林の里親事業協定を提携し、資金協力を得て森林整備を行っている
 H18年度以降より1企業による「企業の森」3協定で実施及び一部実施中。R4年度より1企業による寄付金で実施中。
 平成21年度から継続的
 平成19年度以降毎年行っている。
 平成20年度以降(コロナ禍を除く)毎年行っている。
 県による「企業の森」制度の開始以降(市としては平成15年度以降)J-クレジットの販売を開始した令和元年度以降毎年行っている。
 令和5年度開始し、令和7年度末まで継続予定。
 平成17年度以降、コロナ期間(3年間)を除き毎年行っている
 令和4年度から開始
 平成18年度以降毎年行っている
 平成24年度に協定を締結し、平成29年度までの5年間実施
 2010年以降毎年行っている
 平成23年以降毎年実施している場所がある
 平成19年に「FSC森林認証における企業の森設定に関する協定」を締結し、継続して実施している。
 令和4年度森林保全・管理協定
 平成27年度～令和3年度
 令和4年度のみ(令和5年度以降は不明)
 平成19年度以降毎年行っている
 令和3年度以降、毎年行っている。

令和5年度の里山整備に係る事業に単発で企業版ふるさと納税をいただいた
 平成22年度から令和4年度まで
 平成27年度から5年間
 平成20年度に企業の森で10年間の協定締結。その後、平成30年度に再度3年間の協定締結を行った。
 企業と協定を結んでいる期間内
 平成23年度以降、毎年おこなっている。
 平成30年度に協定を締結して以降毎年行っている。(令和2年度、3年度についてはコロナ感染防止のため活動は未実施)
 平成26年4月から5年間継続して協定を結び、森づくり活動を実施している
 平成30年度から企業版ふるさと納税の募集を行っている。
 平成20年以降毎年実施されている(企業の森)、平成23年度以降毎年行っている(J-クレジット)、平成27年度以降毎年行っている(ネーミングライツ)
 平成25年度以降毎年取り組んでいる
 平成21年度から始まり年に2回(CSR活動) 平成25年度以降毎年行っている(Jクレジット販売)
 平成21年度から毎年行っている
 令和2年度から令和12年度まで
 平成27年度以降毎年行っている。
 一つの企業とは平成21年度に植樹を行った後に毎年維持管理を行っている。
 平成22年度から平成26年度の期間に実施されたが、それ以降は実施されていない。

森林整備における民間資金活用の過去実績と今後の意向 (5)

4. 続き

平成19年8月に県内初となる「企業の森づくり活動協定」を締結し、現在は8企業等と協定を締結している。(令和4年度末現在)平成22～24年度に、クレジット発行事業体(地元森林組合等)に対して発行手数料や調査費用に対する支援を実施した。
 平成25年度以降毎年
 平成21年度以降継続的に実施
 令和3年3月～令和6年2月、平成24年～現在
 令和23年度以降
 平成27年2月4日以降、毎年実施している。
 平成26年度以降継続して行っている
 H18以降、継続的に実施し現在に至る
 平成20年度から毎年度行っている
 R4年度よりやりとり開始
 J-クレジット販売を平成22年度から令和5年度まで単発で実施
 平成17年度以降「企業の森づくり」促進
 平成31年度から3年にわたり森林整備やその普及についての資金協力があつた
 平成21年度と平成27年度に資金協力があつた。
 令和3年以降毎年行っている。
 平成20年度以降、毎年、超過課税(森林湖沼環境税)への寄付を受けている。
 企業の森協定締結を通じ令和2年度以降継続し行っている
 平成19年以降、フォレストマッチング推進事業(企業との協働の森づくり)を行っている。
 平成20年度以降毎年行っている。
 平成21年度以降毎年行っている

森林の里親の取組として、平成15年度以降毎年行っており、R4年度末で163件の取組を実施している。J-クレジット(J-VER)の販売は平成24年から現在(令和4年)まで継続して実施している。
 令和元年以降毎年行っている。
 打診等があつたときに実施しており、継続して実施しているものはない
 平成23年から継続的に販売
 2011年度以降毎年行っている
 風倒木被害地再生のため、平成20年度以降毎年行っている企業もある。

森林整備における民間資金活用の過去実績と今後の意向（6）

5. 企業等に連携（資金協力）を求めるに当たり、取組内容の独自性や他の自治体との違いを示すために、企業等に対し提案やPRしたことはあるか（自由記述）

資金協力による森林整備後のCO2吸収量を県が認証
森林に名前を付けることができ、看板も設置できる等、企業のイメージアップにつながる点など
各種取組により異なる（整備する地域、参加する団体等の意向による）
今は無いが、将来「J-クレジット販売やカーボンオフセット還元」など独自性を模索中。
環境教育や地域との交流など
開発を抑制し、良好な自然環境を残す政策方針
本県の森林・林業の特徴や森林整備の意義などを分かりやすくPR
希少生物の生息
広大な町有地
森林認証を取得し、認証材として出していること。
森林整備協定を締結し、町有林の植樹活動に出資協力していただいている
地元と縁のある地域の里山林整備によって、地元で喜ばれ企業のCSR活動の推進に繋がる。
源流地の村として、下流でその水を使い産業を営む下流企業に対して、「水を使うものは自ら水を守れ」という言葉より水の大切さや森林の働き、またそれらの重要性についてPRした。
企業連携事業については、事業のきっかけが企業側からのアプローチであった。本村におけるFSCに関する取組等に理解をいただいたものと思われる。
先進的なJ-クレジットへの取り組み
県が開催する「水と緑の森林祭」での表彰を実施
緑の循環森林認証の取得、森林J-VERへの取組をPR
ボランティアフィールドでの森林づくり活動、ネーミングライツ森林の設定、CO2吸収量算定書の発行（オフセットやクレジットとして使用できることを保証するものではない）
地区コミュニティセンターに利用するために伐採したリンチへの再造林の費用として、資金を活用する。
対象地の森林を企業側の担当者に紹介し、アクセスの良さ、森林の概要等の説明を行った。
都市部や温泉街に近いこと
連携企業の社員教育として森の整備を通じたボランティア活動や交流事業等の実施
森の恵みを受けている市民で森を育む運動への参画。

11 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

森林整備における民間資金活用の過去実績と今後の意向（7）

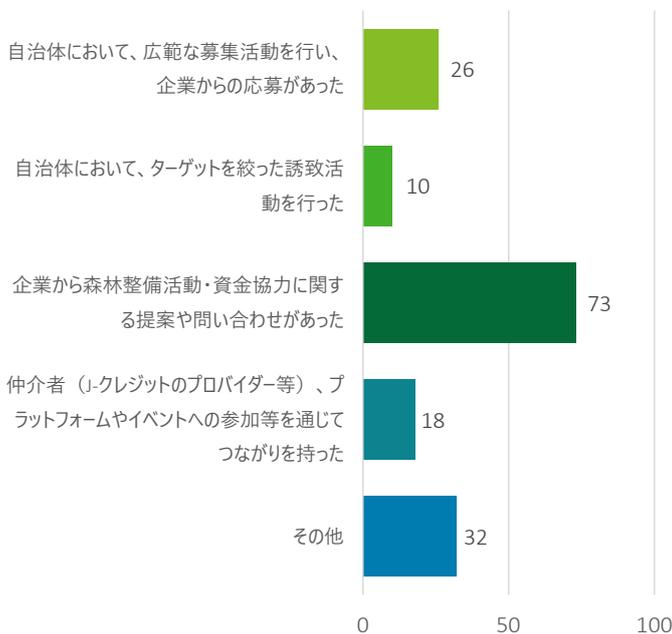
5. 続き

森林整備が行われていない森林であり、更新伐からスタートできること、都市部・空港へのアクセス良さ、森林整備ボランティアとともに福利厚生を兼ねることができることをPRした。
ユネスコエコパークに登録されている。
企業に対する提案ではないが、本県の県有林におけるJ-クレジットの売れ行きが悪く、販売が進まない状況であるため、企業側がクレジットを購入することによるメリットが増えるような仕組みが出来ると助かる。
町有林がFSC森林認証を取得していること。
企業版ふるさと納税担当課から、封書で企業宛てに照会をかけた。
町内の間伐材等を活用し、障害者が木工製品を加工・製造し、売上の一部を里山整備に還元する循環型事業を実施
企業がどこで何を行いたい確認し、要望に沿えるよう話し合う。
企業が行った公募型企業版ふるさと納税に応募、プレゼンを実施した。
SDGs未来都市として先進的にSDGs活動を行っていること。
防風や飛砂防止を目的としたクロマツ人工林の公益的機能の保全。森林保全を通じた企業と地域との交流
企業のイメージアップや社員研修の場としての活用
瀬戸内海と日本海の分水嶺にあたら森林であること
町では約100haの町有林を有している。これらを生かし、企業等と連携し今後も森林整備を進めたい。
地球温暖化対策への取り組みに対するPR効果を期待した。
HP上に県有地、市町有地の企業の森実施可能な箇所のリストを掲載し、相談いただければサポートする旨記載
歴史・文化的な価値で対外的にPRしやすい
都市とやまをつなぎ、双方にメリットのある関係づくり／様々な森との関わり方の提案
県HPにおいて森林湖沼環境税の概要や実績等を公表している。
ネーミングライツ契約を行う市民の森の樹種、面積、周辺施設の概要
森づくり活動の成果として、二酸化炭素(CO2)森林吸収量の数値化により、目に見える形で県独自の認証する旨PR
森林（もり）の里親促進事業にご協力いただいている環境先進企業等の間伐等の取組を、CO2吸収量で評価・認証（森林整備の取り組みを「見える化」）を行っている。
J-クレジットの販売により得た収益は県有林の森林整備の財源に充てているため、J-クレジットの購入を通じて県有林の森林整備に貢献できることをPRし、販売を行っている。
協定により定められた県有林の区域について、企業の森活動エリアとして呼称できるようにしている。
県有林がFSC森林管理認証を取得しており、適正な森林管理をされている森林で取得したクレジットであること。また、森林の持続性の担保に森林経営計画ではなく、森林認証を使用して発行された初めてのクレジットであること。

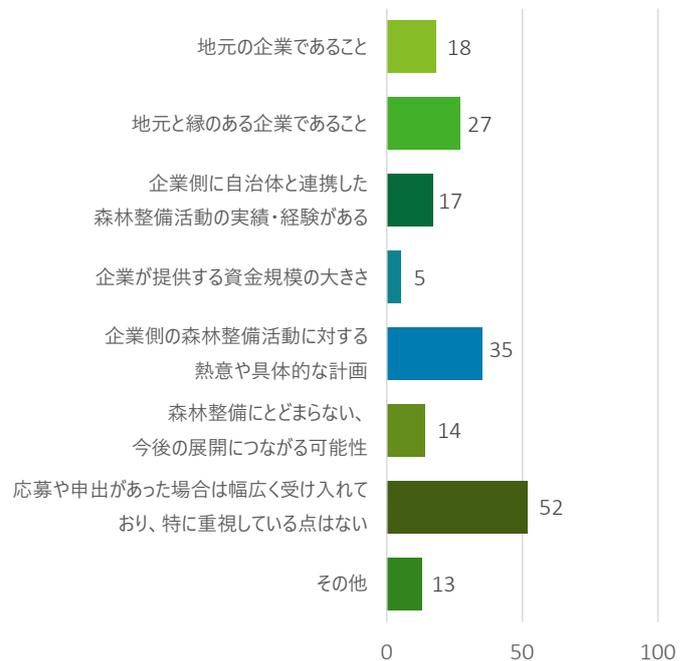
12 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

森林整備における民間資金活用の過去実績と今後の意向 (8)

6. 取組の連携先（資金協力先）となった企業等とつながりを持ったきっかけ（複数選択可）



7. その企業等の何を重視したか（複数選択可）



森林整備における民間資金活用の過去実績と今後の意向 (9)

8. 取組をきっかけとして、企業等との間で、森林・林業の課題解決に資する（資金協力に限らない）別の取組に発展した場合の内容について（自由記述）

地域における交流人口の増加

企業のCSRに留まらず、県有林J-クレジットの購入等に発展しそうなケースもみられる

企業関係者や町民に向けた植樹祭、木エワークショップのイベントを開催した。また、足寄町産の木材を利用した製品づくりが行われた。

出資企業社員等らの植樹活動参加により企業側から地域づくりの提案などがあった

取組以前から本市行政への協力・協賛を得ていた。

企業の社員とその家族を対象に、環境学習イベントを実施している。

撫育を試行的に行うことで、森林の里親制度締結につながった

地元住民との交流、地域観光資源の活用など

企業の希望があり里山整備を実施

森林の利活用、森林施業体験等のイベント開催

地域ボランティアとの連携、協力

皮むき間伐による市有林整備

J-VERをきっかけとして、市が主催する植樹祭に会社の記念行事として、参加していただいた

J-クレジットを購入した企業と森林教育を実施。

植樹祭の実施

今後の間伐等で出てきた材を活用した取組を検討していく。

間伐の重要性をPRするため、企業などと連携したブース出展を行った。

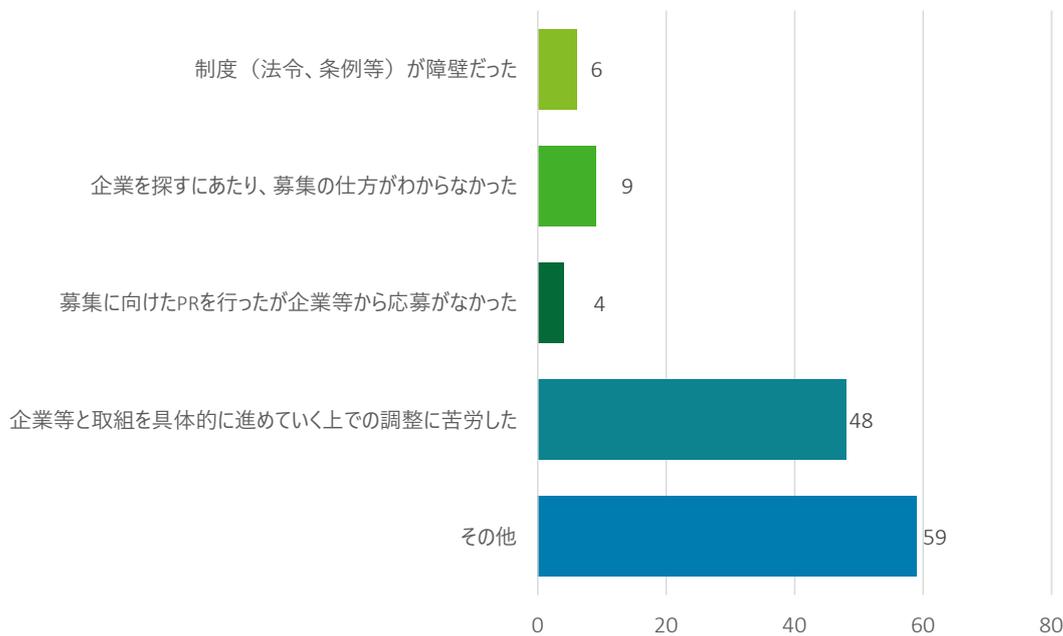
(1) 森林整備に加え、森林空間を生かした森林サービス産業提供に向けた準備等への支援も含むパートナー協定を締結したケース (2) 森林整備への費用支援に加え、自社の技術を活かした貢献（伐採後の天然更新調査等）をされるケース

緑の募金への協力

企業と共同で森林の保全活動を行う（年1～2回）

森林整備における民間資金活用の過去実績と今後の意向（10）

9. 取組を進める中で感じた課題（複数選択可）



森林整備における民間資金活用の過去実績と今後の意向（11）

10. 設問9の回答についてのより具体的な内容（自由記述）

企業の森においてはフィールドの確保、地元森林組合との調整、ふるさと納税においては企業の要望に合致する整備箇所を選定等自治体から委託・補助を受けて事業を実施してくれる民間団体があれば理想的。

森林整備区域が狭く、毎年実施して頂く整備内容と、雨天時の体験内容に苦労する。

本県では企業等と市町村とのマッチングを行っているが、双方の意向に沿えない場合は成立しない。

Jクレジットの計画・認証に費用と労力がかかるため、いかに簡素化できるかが課題

多くの企業が魅力と感じる独自性を模索中。

事業地（施業地）の調整

平成19年度以降、多くの企業に県有林のフィールドを提供していることもあって、近年、新たなフィールドを提供することが困難になっている

候補地の選定や、調停式等イベント開催にあたり時間を要したため、少人数の担当課だと業務負担に感じる。

未立木地で、かつ、アクセスの良い場所を探しているが、なかなか適地が見つからない。

施業内容等

林業現場や木工ワークショップのイメージを伝えるのに苦労した。

植樹等の活動場所の確保

企業側が持つ森林づくりへの意識と行政・森林所有者の持つ森林づくりの意識のギャップが大きく、安全管理の面が困難だった。

民間企業とのスピード感の違い

市町有林しか適当な場所がなく、対象地に限られる。

資金援助を継続的に受けている一方で、環境学習をテーマにイベント企画していく際に、企業の求める内容とこちらの意向をすり合わせるうえで、環境に対するイメージに差異があったりと形にするのにも時間をかけた。

関係者が多数のため、日程や内容の調整に苦労した

企業版ふるさと納税による事業については、複数の自治体で分割して寄付を受けることとなり、充当事業や寄付額の調整等に調整を要した。

企業との役割分担

森林J-VERの制度が始まった初期の登録により、手探りでの業務。企業の希望を叶えた森林整備イベントとなるよう注視。業務量がキャバを超えての実施となった。

企業側にとっては、カーボンプライシングが制度化されていないことから購入の必要性が定まっていない。

実際に施業を行う森林組合と町と振興局と企業との4者の連携となるので調整に苦労した。

活動において、企業と協働できる範囲がどこまでか（公的な活動であることをどこで担保するか）を判断することが難しい場面がある

スピード感の差、決定までの過程の差による説明、調整が多い。

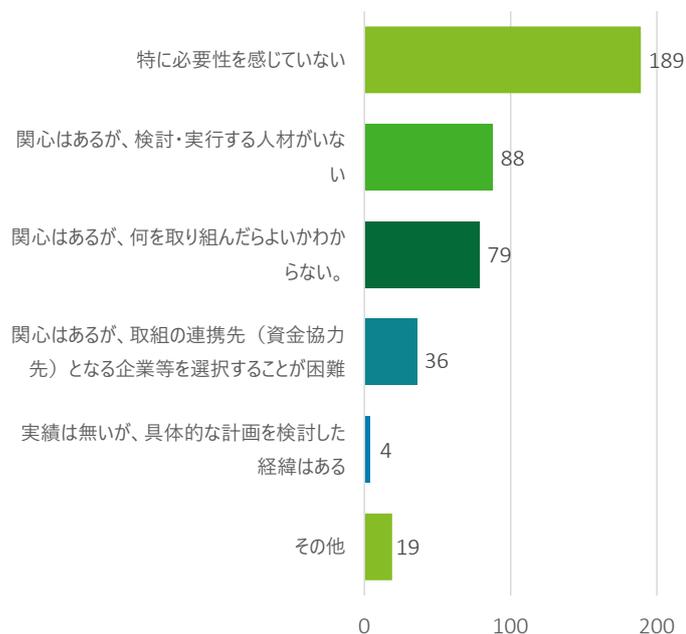
森林整備における民間資金活用の過去実績と今後の意向（12）

10. 続き

企業のニーズに応じた場所、人員等の調整に苦労した。
 企業などから森づくりの要望はあるものの、活動場所の候補が少ない
 制度上ネーミングライツの設定ができないこと
 取組のスタート時点で企業側は広葉樹（自然林）による森林整備が主な目的であり、町が最も力を入れる循環型林業（人工林）の理解に少し時間がかかった。
 各企業との内容や日程調整にかなり時間を要した
 企業が協力可能な資金に合わせた対象地の選定や事業内容の検討
 イベント等の実施までに何度も調整をする機会の調整、現地の確認、連携者との調整。
 森林ボランティア活動を実施するにあたり、「企業の森」の選定や具体的な参加人員、活動内容等を協議し、参加者が参加しやすい活動に調整した。
 継続性が難しい。確実な予算ではないので、事業計画を立てづらい。
 企業の意向に沿った森づくり活動を行うフィールドの提供が困難
 協定締結（延長）の際の計画作成やプレゼン等
 企業が希望する森林整備をどこまで実現できるかといった、要望を事業へ落とし込む調整に苦労した。
 フィールドの選定や企業の森づくり活動協定に付随するイベントの準備や施業の実施に苦労した。J-VER発行に取り組んだ際に、県職員と地元森林組合職員の負担が大きかった。
 企画やふるさと納税の部門と連携や、事業計画をつくる上での事業者との調整
 大手が多く、100名以上が植樹活動し、大型バスで近くまでアクセスできるなど、条件が厳しく、合う場所が限定的
 自治体単独のPR活動では、取組の周知が不十分（営業力が不足）
 (1) 現地ツアーやセミナーを企画したが、参加企業を集めるのに苦労した。ニーズが多様であり、どのような訴求が効果的なのかわからない。(2) 支援の申し出があった企業の調整のスピード感や要求に合わせること
 寄付者が特定の企業にまもってきており、新たな寄付者を探すことに苦労している。
 企業の納得する活動地探し
 近年、森林の里親制度での取組を希望される企業が増えており、その調整に時間を要している。（R4実績：17件の新規案件が締結）
 カーボンオフセットに興味を持つ企業が少なく、販売量が低迷する時期があった。
 事業地の確保や連携メニューの提案
 ・PRの効果が上がらない。・植栽希望が多く、間伐等を望む市町村とのミスマッチ。

森林整備における民間資金活用の過去実績と今後の意向（13）

11. 【設問1で「これまでに実績がない」と回答された自治体の方】 なぜこれまで実施していないか（単一選択）



12. 【設問11で、「実績は無いが、具体的な計画を検討した経緯はある」と回答された方】 実現に当たってのボトルネックとなった課題はなにか（自由記述）

他の業務と兼務の為、業務に専任できる職員がいない。人手不足。

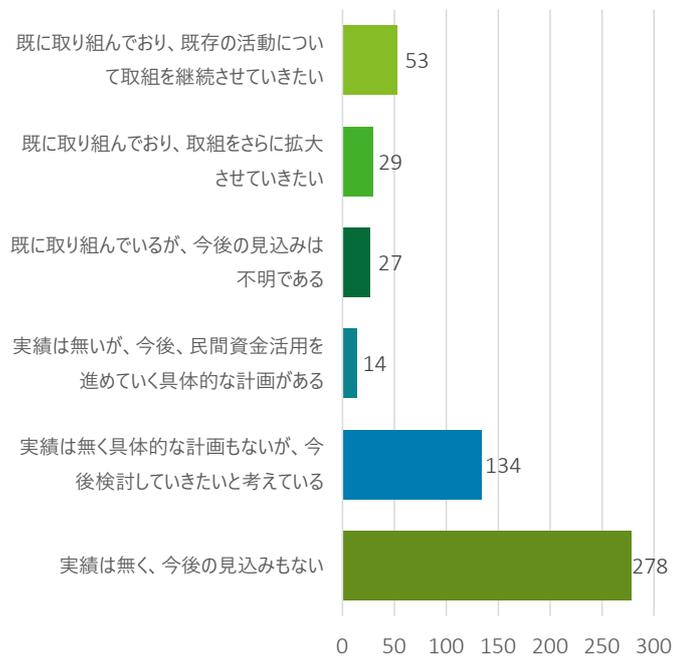
現在検討中

株投資のように必ず実績が出るかわからないため取り組みにくい

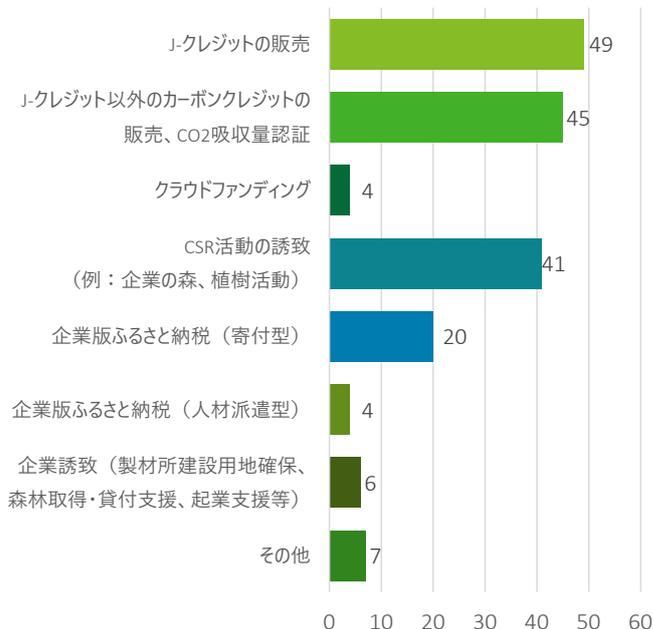
Jクレジットの販売 当村の村有林で資産した結果、マイナスの算定結果となった。（主伐を予定等により）

森林整備における民間資金活用の過去実績と今後の意向 (14)

13. 今後、民間資金を活用した森林整備を進めていくことについての意向 (単一選択)

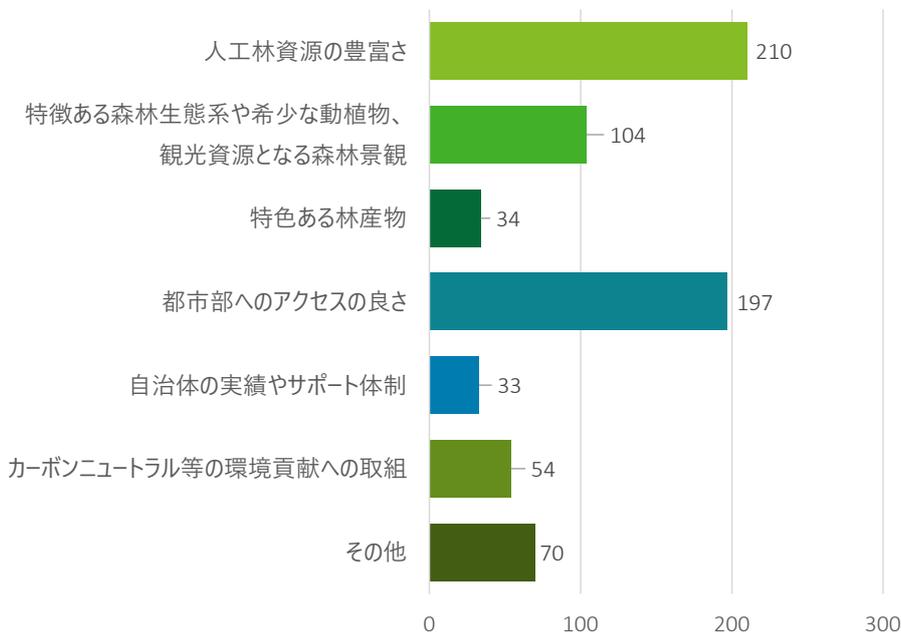


14. 【設問13で取組を継続・拡大させていきたい、今後進めていきたい、と回答した自治体の方】
関心のある取組について (複数選択可)



森林整備における民間資金活用の過去実績と今後の意向 (15)

15. あなたの自治体を企業にPRするに当たって、強みと思うもの (複数選択可)



ポータルサイトの構築に向けて（1）

16. ポータルサイトイメージにある各項目についてご意見があれば教えてください。

その他、ポータルサイトにどのような機能があればよいと考えるか、ご希望があれば教えてください。（自由記述）

森林整備方針が整っていない現状であるため、ポータルサイトを活用する以前の状況である

Jクレジット登録を目指しており、販売につながるようなサイトになればありがたい。

各種項目について、地域によってはすでに情報掲載サイトを構築していると思われる。このため新たに作るポータルサイトでは、情報の2重搭載を避ける（リンク貼り付けなどの対応）ことも考えたほうが良いと思います。

自治体と企業・個人とのマッチングの一助となることを期待します。

動画サイト（学校教育コンテンツ）、本当に興味がある人しか見ないサイトになるため、誘因出来るコンテンツとしてSDGs関連の教材など

自治体の主要な情報を収集するにあたり、自治体への照会等は最小限にすること。

企業レクの地等として企業による山林購入推進

ほっかいどう企業の森づくり制度とのリンク

森林整備の方針・取組や地域の民間団体の情報等については、文章媒体のみでなく、動画等でも発信すれば若者にも気軽に見てもらえるきっかけになるのではないかと思う。

カーボンニュートラル等の環境貢献への全国での取組状況の情報を提供してほしい。

「課題から探す」の項目について、地域ごとに異なる課題について、埋もれることがないよう、広義なもので分類されて、検索できるとよいのかとあったりしたが、実際に利用してみないとわからない。

本年、Jクレジット認証取得のための事前調査を実施しているところであり、是非活用したいと思います。

自治体と企業を繋ぐマッチング機能

地元林業・林産業団体・企業の紹介、求人広告、林業・林産業の写真掲載によるイメージアップ、林業・林産業関係施設（公園・木製品販売所等）情報

Jクレジットは申請などの参入障壁が高いので、申請を委託できる業者を紹介する項目があれば良いと思います。

各自治体へのお問合せフォーム

申請書類作成支援、森林吸収量・排出量の算定

企業が何を重視しているかがわかるような内容、検索履歴等

写真や絵を使用して見やすい、見たくなるページデザインとされたい

各市町村の森林整備の取組を発信できることは、メリットがあると感じている（令和6年度から始まる森林環境税も踏まえての取組発信）。

21 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

ポータルサイトの構築に向けて（2）

16. 続き

Jクレジットの発行の項目について、購入希望者側の要望も見れるように出来ると良い

目的が分からないので何とも言えませんが、吸収源の取引の活発化が主たる目的であれば、既にできているクレジットの情報に加えて、これからクレジットを創出する際の情報も欲しいと感じます。自治体にはまだクレジット創出のためのフローやどこに相談すればいいのかの情報がなく、また個人の山主さんでクレジット創出に興味のある人もいるからです。

優良事例等の紹介は現在でも探すことは可能だが、人員不足や材価の上昇が無い限り厳しいと思います。

サイト内で可能分かりませんが、マッチング機能やマッチングに対する支援などがあると良いと思います。

ポータルタイトの運営に当たって自治体への負担（金銭や労力）をゼロまたは限りなくゼロになるようにしてほしい。

事例等を検索する際に、自治体規模（人口、面積、林野面積等）で検索できる機能があれば、参考事例として活用しやすいものに絞った検索がやりやすくなるのではないかと

「全国的な優良事例」とは誰が何を根拠にピックアップするのか。国などがまとめた「優良事例」を掲載すればそちらへのアクセスが集中し偏りを生む可能性が高いため、適切ではないと考える。

チャット機能。各自治体の担当が気軽に相談、質問できるサイトがあるといいと思う。

自治体の林業担当職員向けに、詳細なマニュアルを載せて欲しい。

多項目での検索機能(地方、施業種、資金協力の形態、コスト)、事業実績の掲載

既存ポータルサイトがたくさん存在するので、一つのポータルサイトに情報掲載すれば、関連する所にも載るようになると便利。（ポータルサイト同士の情報連携）

業務多忙につき、勉強時間を取ることができず理解が追いついていない

Jクレジットの発行情報が確認できるようになる良い。

利用しやすいことが重要と考える

Jクレジットの購入希望者（県内企業）とのマッチングができるようなサイトを期待する。

自治体の受け入れ体制や取組、植林以外の「森づくり」事例や受け入れメニューの発信（植林の要望が多いため）

地域おこし協力隊等の担い手募集

Jクレジット（森林管理プロジェクト）の価格相場を確認できるコンテンツがあるとありがたい。

林業関係の地域おこし協力隊や移住定住情報等の掲載があると参考になります

22 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

ポータルサイトの構築に向けて（3）

17. 既に、森林整備等の取組について他のポータルサイト等を活用されている場合、サイト情報について教えてください
（例：内閣府企業版ふるさと納税ポータルサイト等）（自由記述）

「しまね森林活動サポートセンター」ホームページ

内閣府企業版ふるさと納税ポータルサイト

Jクレジット制度、企業版ふるさと納税ポータルサイト

青森県HP

公益社団法人京都モデルフォレスト協会HP（<https://www.kyoto-modelforest.jp>）

新潟県カーボン・オフセットクレジット活用事例集（令和5年版）

木曽川下流域自治体に対して、森林環境譲与税の利活用に関する提案活動を行っており、「<https://kisonoki.com/>」を案内しています

内閣府企業版ふるさと納税ポータルサイト

やまがた絆の森

はんのう森林プラットフォーム

内閣府企業版ふるさと納税ポータルサイト

Jクレジット事務局HP、Jクレジットプロバイダサイト

23 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

① 民間資金活用促進に向けたニーズ等の動向調査 ア 地方自治体等への需要調査・情報整理

- ・ ポータルサイトアンケート（地方自治体向け）
- ・ ポータルサイトアンケート（企業向け）

24 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

【ポータルサイトアンケート（企業向け）】 ポータルサイト構築に向けた企業向けアンケート結果概要

アンケートの実施概要

アンケートの目的

- 本アンケート調査では、企業等における自社所有森林以外の森林に対する森林整備活動等の実績や、今後の意向等を質問することで、さらなる取組の推進に向けた課題を明確化することとした。本調査の結果を踏まえて、ポータルサイトの在り方の検討を実施した

アンケートの対象者

- 委託事業者にて

回答数

- N=55
➢ 複数業種の企業計55社よりアンケート結果を回収

実施期間

- 2023年8月23日から9月22日

アンケートの結果のポイント

ポータルサイトの構築に向けた示唆

【企業と自治体とのマッチングについて】

- 今回アンケートにより、問3において、企業が森林を有する自治体とどのようにつながったかについて尋ねたが、「自治体に対して提案や問い合わせを行った」ことがきっかけとなっているケースが最多であり、自治体側の募集や売り込みに応じたという回答はほとんどなかった
- このことから、自治体から企業側への呼びかけをしていくポータルサイトの在り方は企業側からみて、非常に有益になりうると考えられる

【企業の取組意向】

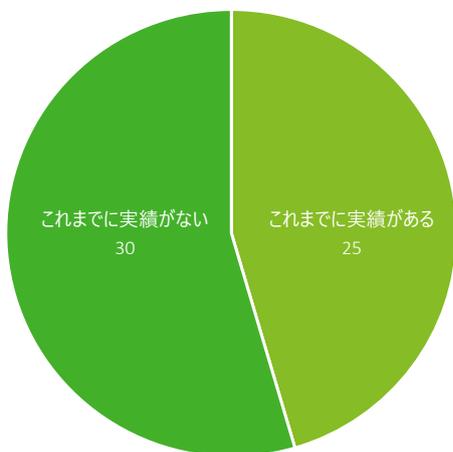
- 問11では、今後取組を継続・拡大させていきたい取組の回答を求めたが、そこでは森林吸収系J-クレジットの購入、CSRに留まらず、森林・林業関係事業者への投融資活動や事業進出といった回答も多く得られた。
- このことから、企業がどのような取組意向をもっているかを示すことは、ポータルサイト上も有用性を高める上でのポイントになると考えられる

【企業情報の掲載】

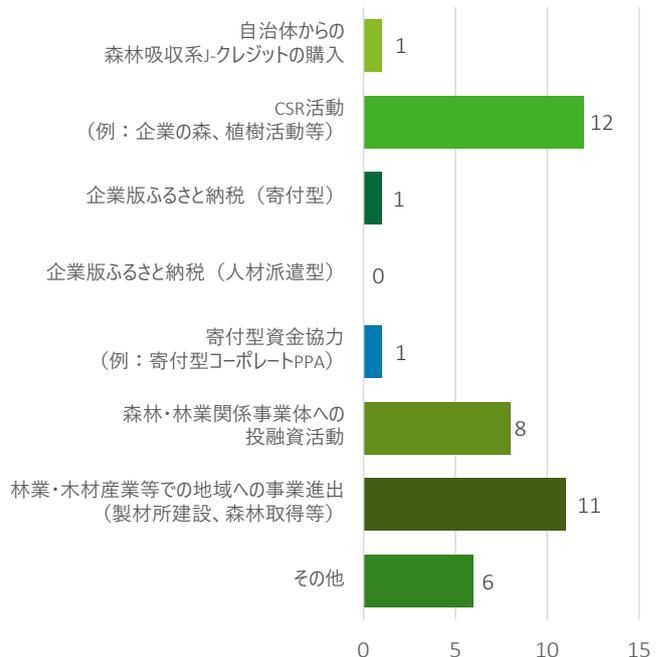
- 問14「企業として森林整備活動・資金協力の実施状況や今後の意向について情報発信することを希望するか」においては、「情報発信について前向きに検討したい」という回答が多数を占めることとなった
- ポータルサイトの情報に、自治体情報だけでなく、森林整備について取組意向のある企業情報も掲載するかはひとつの論点であったが、アンケート結果からは、企業情報も掲載するのがよいと考えられる

森林整備における民間資金活用の過去実績と今後の意向（1）

1. 森林整備活動や森林整備への資金協力について 取組を行った実績があるか（単一選択）

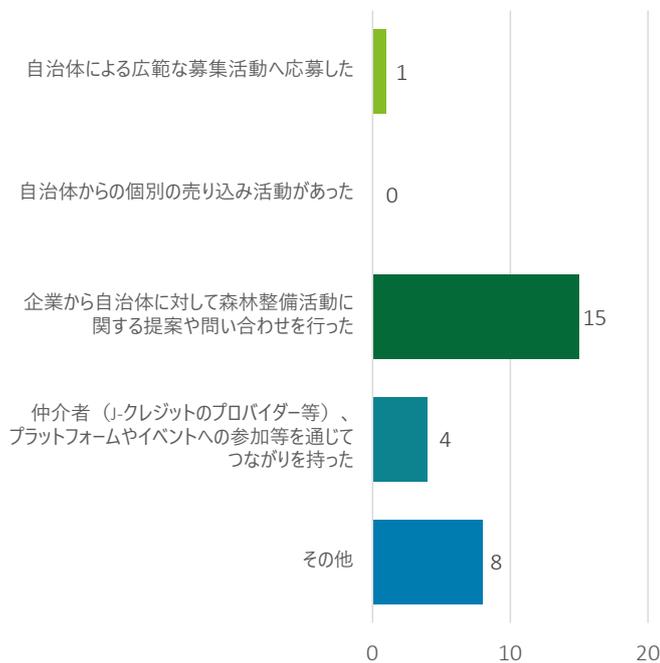


2. これまでに森林整備活動や森林整備への資金協力について どのような取組を行ったか（複数選択可）

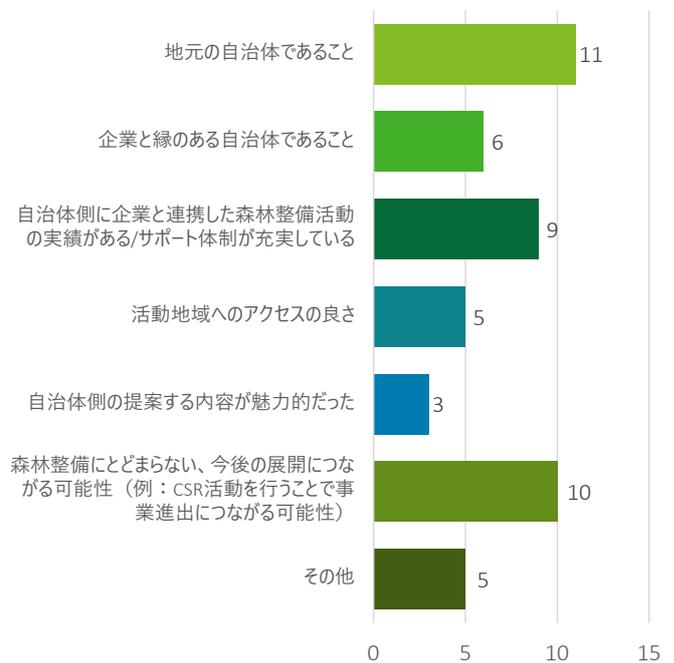


森林整備における民間資金活用の過去実績と今後の意向 (2)

3. 森林整備活動（資金協力を含む）の実施に当たって、自治体とのつながりを持ったきっかけ（複数選択可）

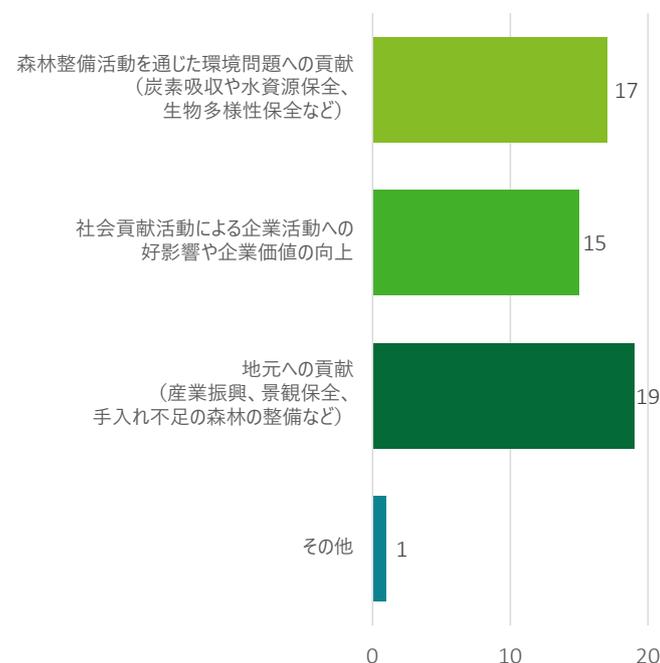


4. 設問2で回答した自治体とのつながりについて、その自治体の何を重視したか（複数選択可）

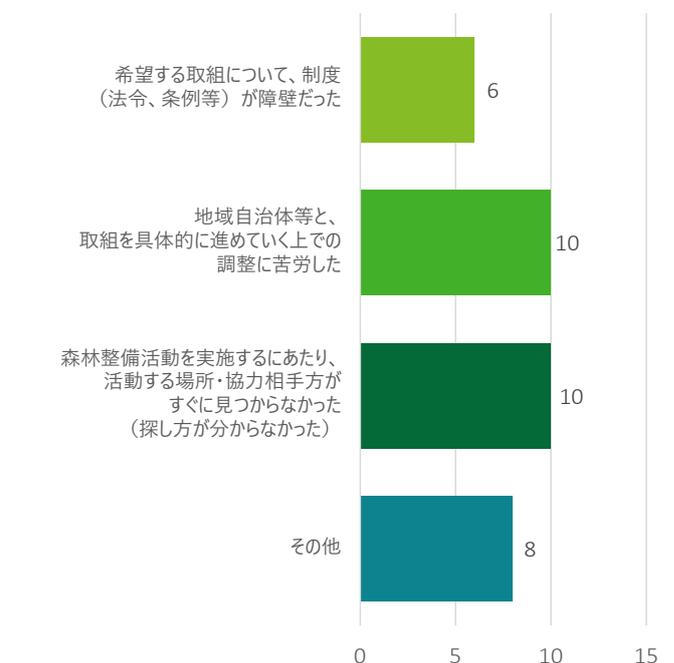


森林整備における民間資金活用の過去実績と今後の意向 (3)

5. どのような成果を重視して森林整備活動・資金協力を行ったか（複数選択可）



6. 森林整備活動・資金協力を進めていく中で感じた課題（複数選択可）



森林整備における民間資金活用の過去実績と今後の意向 (4)

7. 設問6の回答のより具体的な内容について (自由記述)

地場市役所林務課は課題解決に前向きでも、機械等の関係と補助金中心の事業故、新しいことに手を付けられないという関係者もあり、協業に向けた関係者の意思統一が大変。

生産性を上げるには、官民連携が必要で、国有林+市有林+私有林の大規模化の実行はハードルが高い。

境界線明確化の課題、各省庁間の高い壁、市・町・村の森林資源事業に対する考えの温度差(人員不足に起因)

CSR活動の意味をわかってないかもしれない

取り組みの実施に留まり、次の展開への進展が望めなかった。

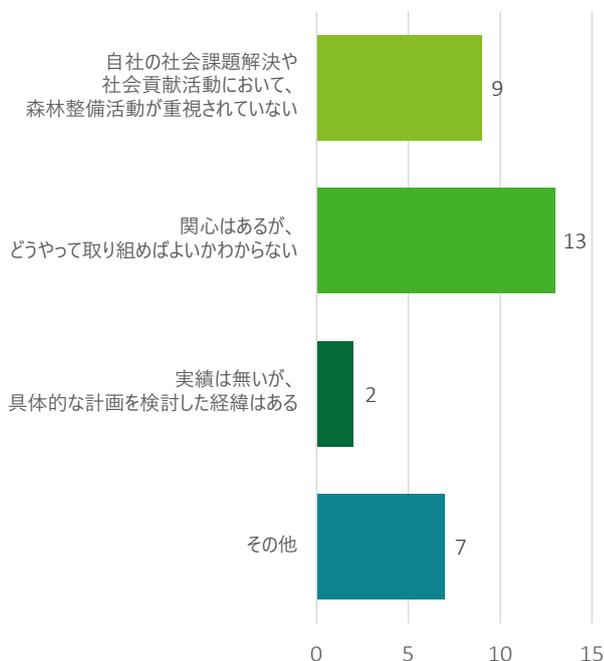
上空からのデータを使ったDX化で森林管理を少人化し継続性・事業性を提供し、定期的に繰り返すことで事業性と管理レベル向上を提供したかったが、50年という育成期間の長さで企業の求めるものが合わなかった。

課題の整理、合意の形成等

社内に同分野のエキスパートがいない。関心を持つ人は多いが、行動化する人はほとんどいない。

森林整備における民間資金活用の過去実績と今後の意向 (5)

8. 【設問1で「実績がない」と回答された企業の方】 なぜこれまで実施していないか (単一選択)



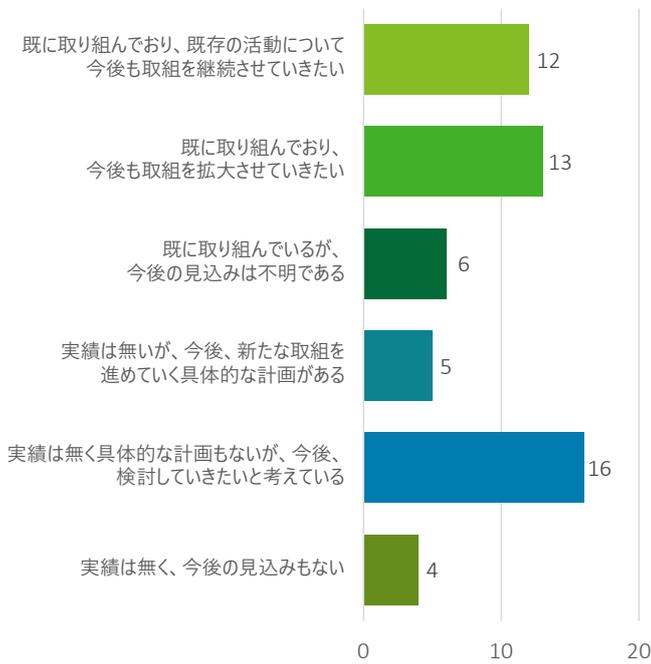
9. 【設問8で「実績は無いが、具体的な計画を検討した経緯はある」と回答された方】実現に当たってのボトルネックとなった課題 (自由記述)

自治体の硬直した制度が新たな資本政策を生み出す阻害要因となっている。さらにポータルを利活用する組織、人が欠けている。

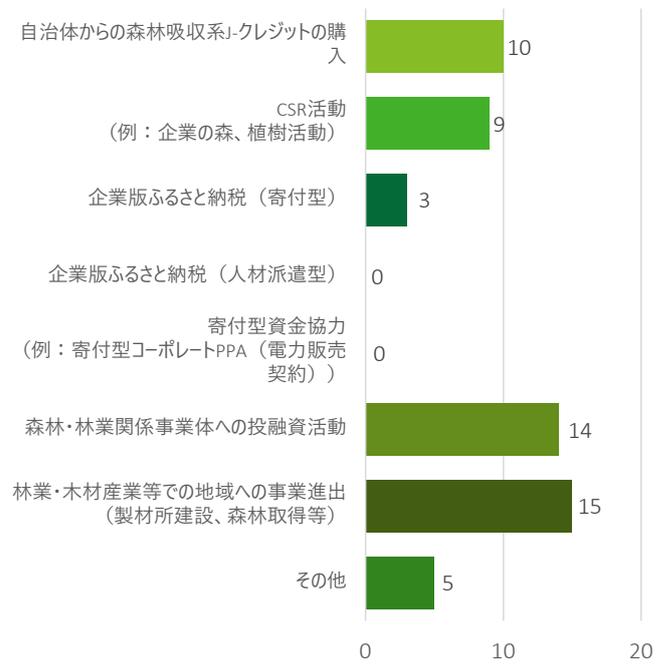
取り組み実績のある企業が少ない

森林整備における民間資金活用の過去実績と今後の意向 (6)

10. 今後、企業として森林整備活動で地域支援を実施していくことについての意向 (単一選択)



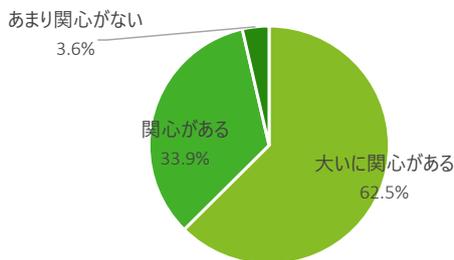
11. 【取組を継続・拡大させたい、今後進めていきたいと回答した企業の方】関心のある取組について (複数選択可)



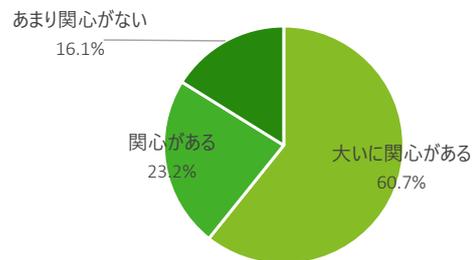
ポータルサイトの構築に向けて (1)

12. ポータルサイトイメージにある各項目について、それぞれへの関心度について

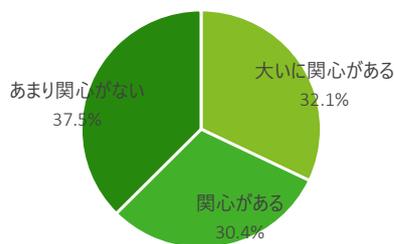
【自治体の主要な情報掲載】森林整備の方針・取組



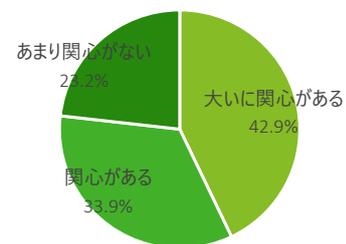
【自治体の主要な情報掲載】J-クレジットの発行



【自治体の主要な情報掲載】ふるさと納税



【自治体の主要な情報掲載】地域の民間団体



ポータルサイトの構築に向けて（2）

13. その他、ポータルサイトにどのような機能があればよいと考えるか（自由記述）

新しい森林や木材の活用事例、技術開発中のもも含めての情報提供

森林データがいかに正確なデータをリアルタイムに提供できるか、B2Cのビジネスモデルを創出できるか

民間の林業施業会社、丸太物流会社、林業機械会社を探すツールにもなるとありがたい

大規模化、生産性を上げる施策の検討と実施

各自治体間の協力合併事業についての情報

情報掲載に留まらず、申込の受付や実績報告等も行えるものがあるとよいと思います。

森林によるCO2吸収量のモニタリング、クレジット取得方法など、JPX市場とのすみわけ。クレジットの取引があちらこちらでされないようにしてもらいたい。

地域の森林整備における課題や必要としている内容（ヒト、モノ、カネ）。予算規模。

マッチングの情報があると嬉しいです。

国公林と私有林の区分を扱ってほしい

企業活動の紹介サイト

既にやっているところはある程度知られているのでポータルサイトの有用性が疑問

問い合わせフォームの入力により興味がある先からの返信を受けれる機能

農林中金の運営サイトとの差別化。クレジット認証機関の紹介。

森林整備、カーボン吸収量、事業採算の可視化

OECM認定

各自治体の方針・取組みの比較が容易であること。

炭素吸収量以外にも、森林の多面的機能への貢献がわかると良いと思います。

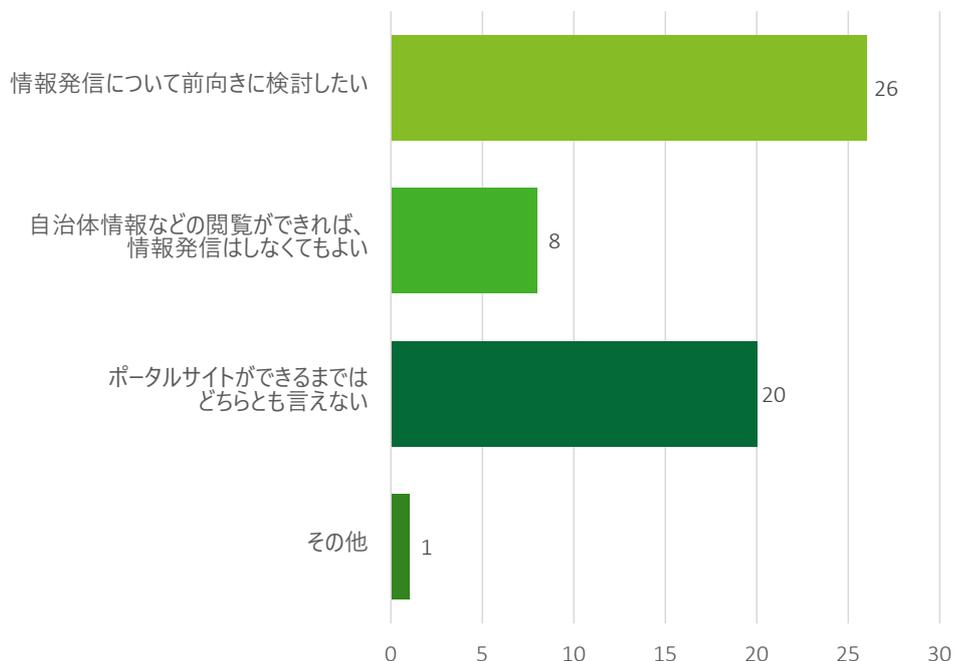
顔の見える森づくり。最終的には愛着勝負な気がします。

森林の現場経営に関する情報やその窓口、欧米情報や講演会情報、大学や企業の森林資源を使った研究、獣害被害への対応策など

山主向けに、森林整備活動について0から始めるマニュアル的なコンテンツ。

ポータルサイトの構築に向けて（3）

14. ポータルサイトを構築した場合、企業として森林整備活動・資金協力の実施状況や今後の意向について情報発信することを希望するか（単一選択）



① 民間資金活用促進に向けたニーズ等の動向調査 イ 森林吸収系J-クレジットのマッチング手法の検討

- ・ GXリーグ参画企業向け森林吸収系J-クレジット活用意向調査
- ・ カーボンクレジット取引プラットフォーム事例調査

【GXリーグ参画企業対象】

GXリーグ/GX-ETSでの森林吸収系J-クレジット活用意向アンケート結果概要

アンケートの実施概要

アンケートの目的

- GXリーグにおける排出量取引制度（GX-ETS）においてJ-クレジットが適格クレジットとして位置づけられている中で、森林吸収系J-クレジットの取引の活性化が図られるよう、GXリーグに参画する企業のこれまでのカーボンクレジットの活用実態や今後の活用意向等を調査し、課題や購入者側（企業等）に対する訴求点を明らかにする。

アンケートの対象者

- GXリーグ参画企業

回答数

- N=161
 - 製造業71社、建設業20社、卸小売業13社、情報通信業12社、金融、保険業12社、電気・ガス・熱供給・水道業9社、サービス業（他に分類されないもの）7社、学術研究、専門・技術サービス業6社、その他11社

実施期間

- 2023年8月21日から9月22日

アンケートの結果のポイント

1 これまでのカーボンクレジットの活用実態について

【カーボンクレジット/森林吸収系J-クレジットの活用実績】

- カーボンクレジット購入経験のある事業者は33%であり、このうち、森林吸収系J-クレジットを購入したことがある事業者は42%である。
- 森林吸収系J-クレジットは削減系J-クレジットと比較して、小規模・高価格の取引例が多くみられた

【カーボンクレジット/森林吸収系J-クレジット目的・用途】

- カーボンクレジットの購入者全体の主目的は自社の排出オフセットであるのに対して、森林吸収系J-クレジットの購入目的は主に地域貢献・環境貢献である
- 森林吸収系J-クレジットの課題としては、他のクレジットとの優位性を確認できない、クレジット創出者の森林整備の取組状況や意向が分からない、という点が挙げられた

2 今後のカーボンクレジットの活用意向について

【森林吸収系J-クレジットの活用意向】

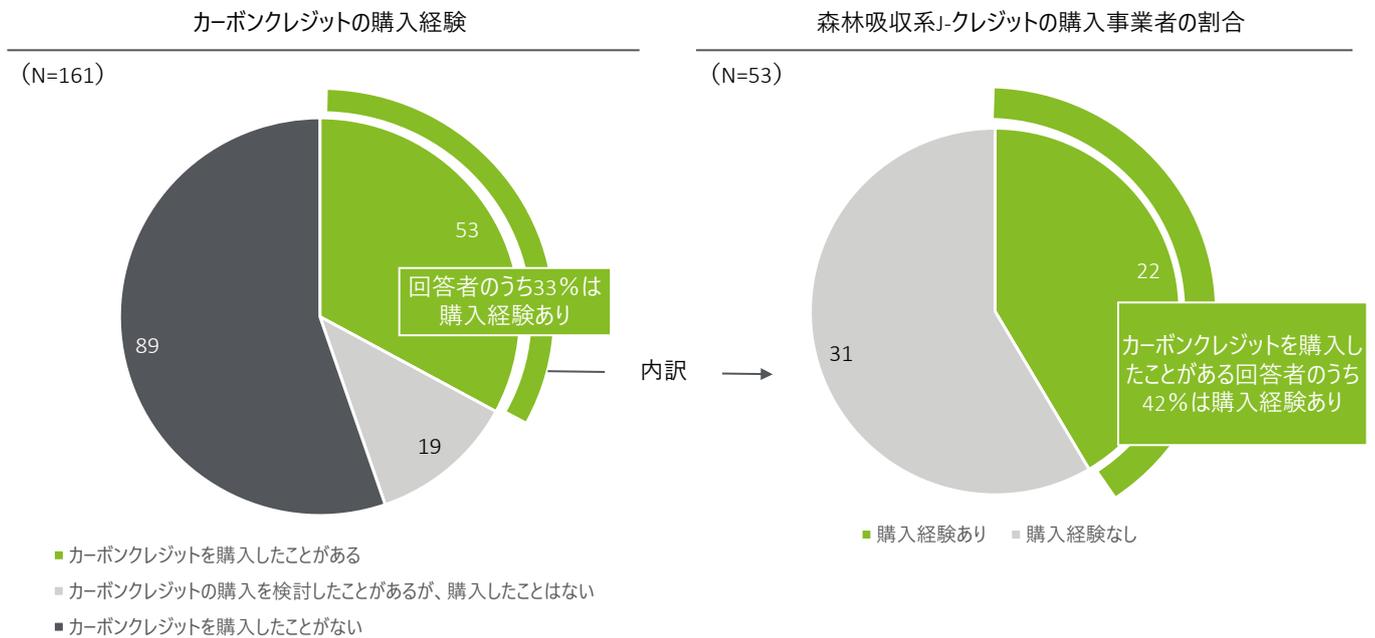
- GX-ETS始動後の森林吸収系J-クレジットの購入意向は、回答者全体のうちの26%（カーボンクレジットの購入を検討していると回答した企業のうち58%）
- 今後の活用意向がある企業の森林吸収系J-クレジットの購入希望価格は1,000円～5,000円がボリュームゾーンであり、購入実態よりも低い価格を希望する企業が多い
- 森林吸収系J-クレジットに価格以上の価値を感じるためには、森林の所在する地域、森林認証の取得状況、森林整備・保全方法、整備された森林面積、特定の種類の動植物の保全方法の情報を付すことが有効との声が多かった

1 これまでのカーボンの活用実態について

カーボンクレジット購入経験のある事業者は33%。このうち、森林吸収系J-クレジットを購入したことがある事業者は42%。

GXリーグアンケート結果

Q カーボンクレジットの活用経験について、あてはまるものを回答ください



森林吸収系J-クレジットは削減系J-クレジットと比較して、小規模・高価格の取引例が多かった。
 (森林吸収系は購入単位1,000t未満が大半。また、森林吸収系は購入価格5,000円以上が大半である一方、削減系は5,000円未満が大半。)

GXリーグアンケート結果

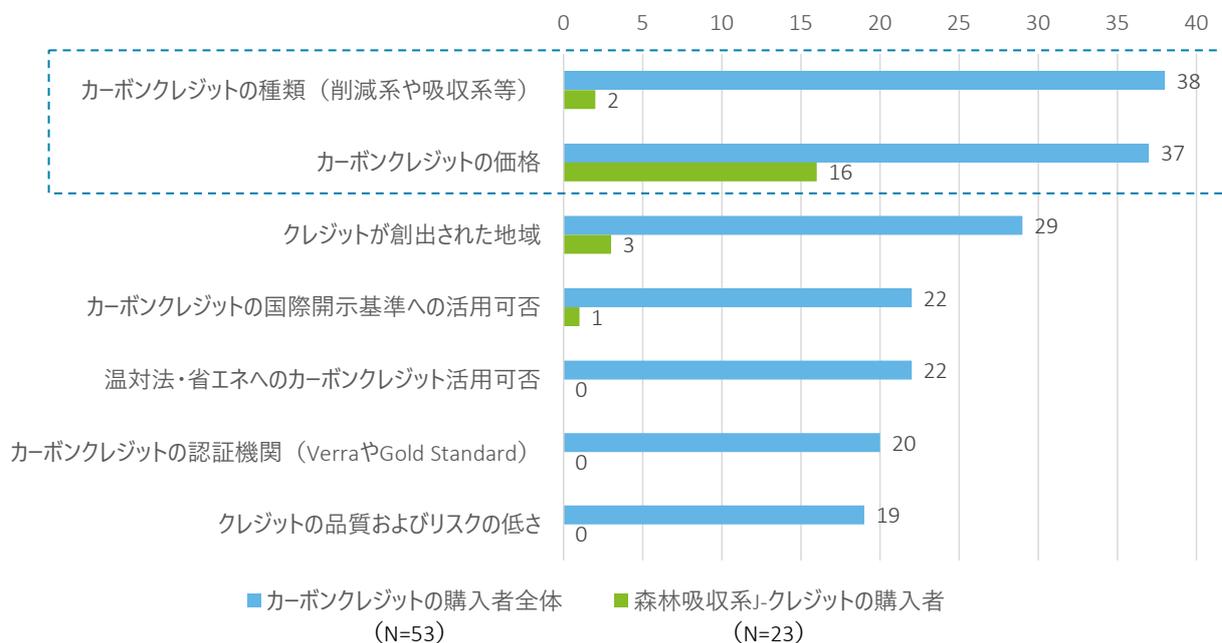
Q (カーボンクレジットを購入したことがある企業への質問)
 購入したカーボンクレジットのうち、森林吸収系・削減系J-クレジットの量、価格についてご回答ください。

		購入価格					
		1,000円未満	1,000円～3,000円	3,000円～5,000円	5,000円～7,000円	7,000円～10,000円	10,000円以上
購入量	1t以上100t未満	0	2	0	1	2	6
	100t以上、1,000t未満	0	0	1	2	2	2
	1,000t以上、10,000t未満	0	0	1	0	0	2
	10,000t以上、100,000t未満	0	0	0	0	1	0
	100,000t以上	0	0	0	0	0	0
	100,000t以上	0	0	0	0	0	0
森林吸収系J-クレジット (N=21)							
購入量	1t以上100t未満	0	10	3	0	0	2
	100t以上、1,000t未満	2	4	0	0	0	0
	1,000t以上、10,000t未満	0	5	2	0	0	0
	10,000t以上、100,000t未満	0	5	1	0	0	0
	100,000t以上	0	2	0	0	0	0
	100,000t以上	0	2	0	0	0	0
削減系J-クレジット (N=36)							

カーボンの購入者はクレジットの種類や価格を重視している傾向があるが、森林吸収系J-クレジットの購入者は主に価格を重視している

GXリーダアンケート結果

Q (カーボンクレジットを購入したことがある企業への質問)
 カーボンクレジット(全体)、あるいは森林吸収系J-クレジットを購入する上での選択基準を教えてください(複数回答可)



カーボンクレジットの購入者全体の主目的は自社の排出オフセットであるのに対して、森林吸収系J-クレジットの購入目的は主に地域貢献・環境貢献である

自社の排出のオフセットの目的は、カーボンクレジット全体では任意の国際開示基準への対応が多いのに対して、森林吸収系J-クレジットは自発的なオフセットが多い

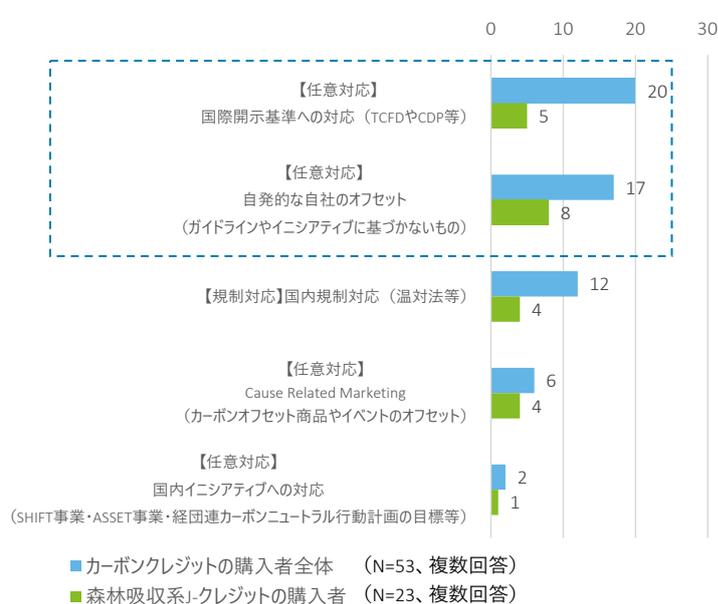
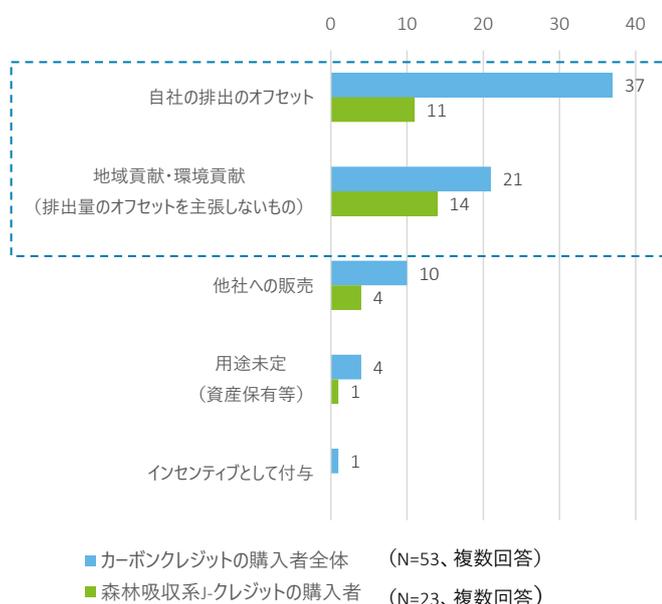
GXリーダアンケート結果

Q (カーボンクレジットを購入したことがある企業への質問)
 カーボンクレジット(全体)、あるいは森林吸収系J-クレジットを購入目的を教えてください(複数回答可)

Q (左記設問で「自社の排出のオフセット」と回答した企業への質問)
 「自社の排出のオフセット」の理由として、当てはまるものを選択ください。(複数回答可)

カーボンクレジットの購入目的

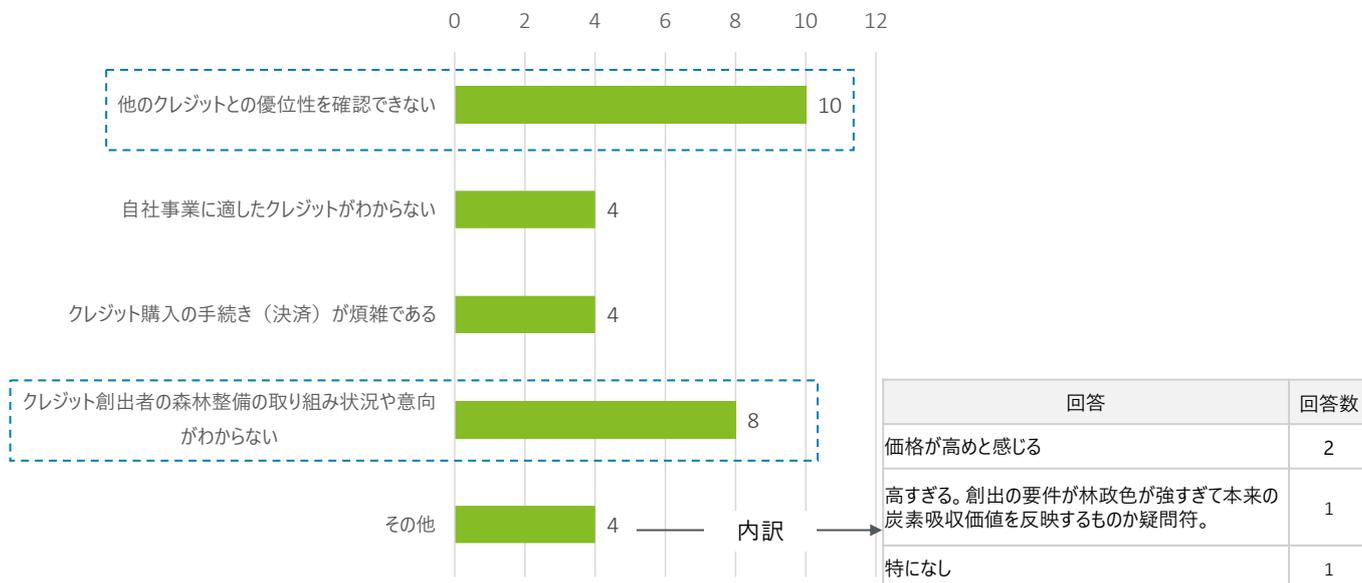
カーボンクレジットの購入理由



森林吸収系J-クレジットの課題としては、他のクレジットとの優位性を確認できない、クレジット創出者の森林整備の取組状況や意向が分からない、という点が挙げられた

GXリーグアンケート結果

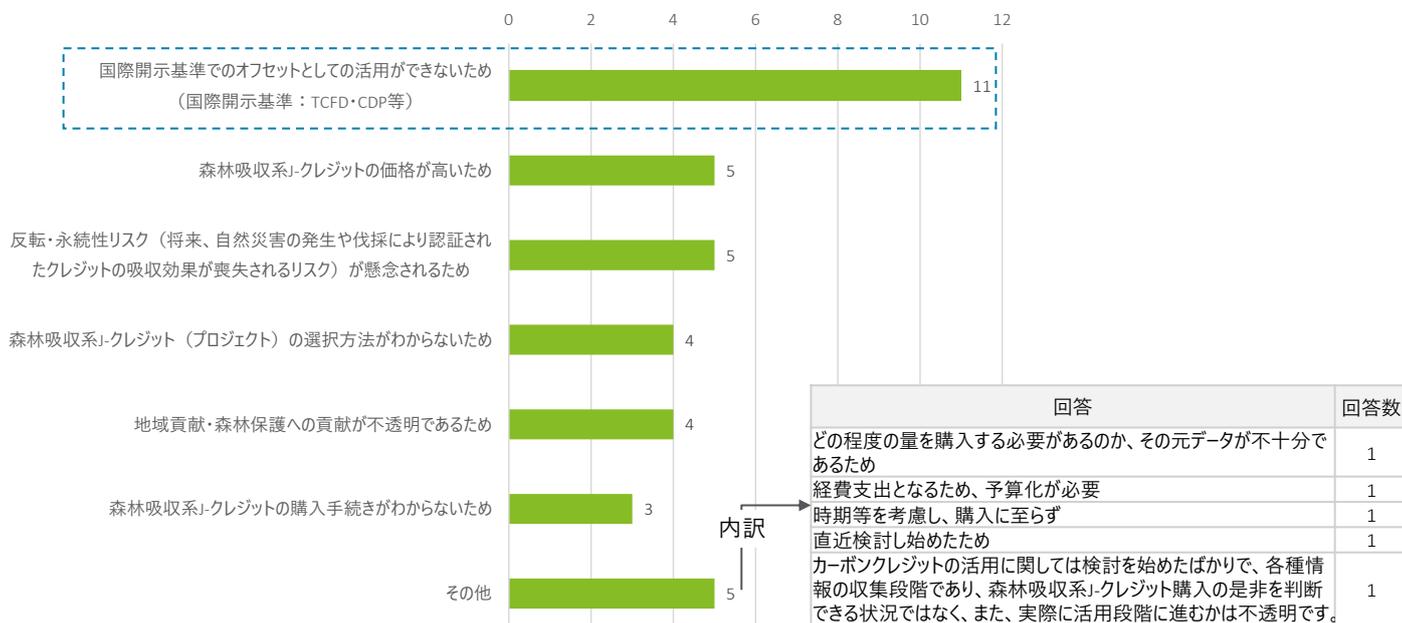
Q（森林吸収系J-クレジットを購入したことがある企業への質問）
森林吸収系J-クレジットを購入する上で課題に感じたことについて、当てはまるものを回答ください。（複数回答可）



森林吸収系J-クレジットの購入を検討したが、購入に至らなかった主な理由としては、「国際開示基準でのオフセットとしての活用ができないため」が最も多い

GXリーグアンケート結果

Q（カーボンクレジットの購入を検討したことがあるが、購入したことはない」と回答した企業への質問）
森林吸収系J-クレジットの購入に至らなかった理由について当てはまるものを回答ください。（複数回答可）



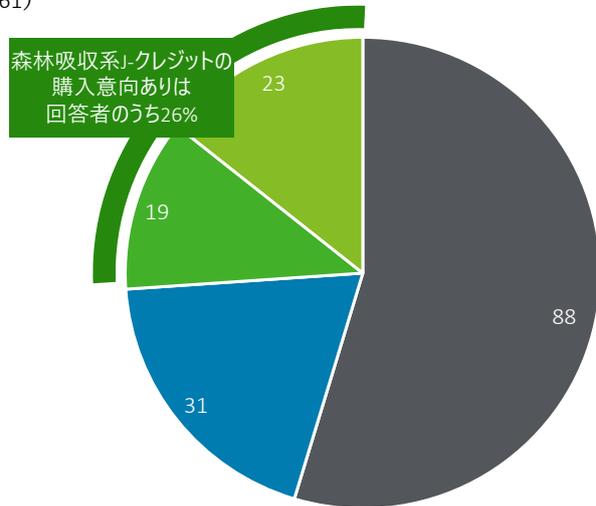
2 今後のカーボンのクレジットの活用意向について

GX-ETS始動後の森林吸収系J-クレジットの購入意向は、回答者全体のうちの26%（カーボンのクレジットの購入を検討していると回答した企業のうち58%）

GXリーグアンケート結果

Q 今年度からGX-ETS（排出権取引市場）の試行フェーズが開始され、2026年度には第2フェーズ（本格稼働）が見込まれていますが、仮に、貴社がGXリーグで掲げた目標に実績が未達の場合、森林吸収系J-クレジットを購入する意向について、当てはまるものを回答ください

(N=161)



- いずれのクレジットも購入する予定はない
- 森林吸収系J-クレジットの購入は選択肢にないが、他のクレジットは検討中
- GX-ETSの目標達成状況に関わらず、地域貢献やBeyond the Value Chainの貢献として購入する予定
- GX-ETSの目標達成手段として購入する予定

今後の活用意向がある企業の森林吸収系J-クレジットの購入希望価格は1,000円～5,000円がボリュームゾーンであり、購入実態よりも低い価格を希望する企業が多い

GXリーグアンケート結果

Q（「今後、森林吸収系J-クレジットを購入する予定がある」と回答した企業への質問）
2030年までに購入することが予定されるカーボンのクレジットの量及び価格についてご回答ください。

購入価格

森林吸収系J-クレジットの活用意向 (N=41)

購入量	購入価格					
	1,000円未満	1,000円～3,000円	3,000円～5,000円	5,000円～7,000円	7,000円～10,000円	10,000円以上
1t以上 100t未満	1	6	1	0	2	3
100t以上、 1,000t未満	0	3	3	2	3	0
1,000t以上、 10,000t未満	0	3	4	1	1	1
10,000t以上、 100,000t未満	1	2	2	0	0	1
100,000t以上	0	0	1	0	0	0

参考：森林吸収系J-クレジットの購入実態 (N=21) (P. 3の再掲)

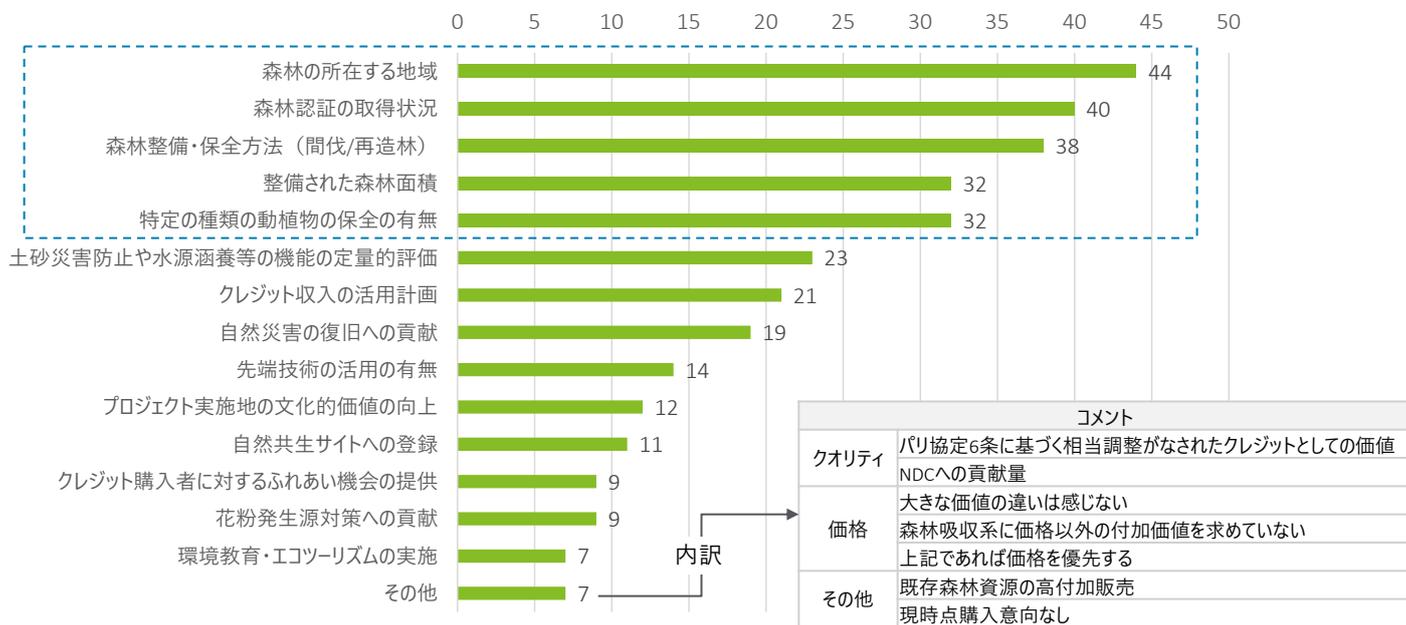
購入量	購入価格					
	1,000円未満	1,000円～3,000円	3,000円～5,000円	5,000円～7,000円	7,000円～10,000円	10,000円以上
1t以上 100t未満	0	2	0	1	2	6
100t以上、 1,000t未満	0	0	1	2	2	2
1,000t以上、 10,000t未満	0	0	1	0	0	2
10,000t以上、 100,000t未満	0	0	0	0	1	0
100,000t以上	0	0	0	0	0	0

森林吸収系J-クレジットに価格以上の価値を感じるためには、森林の所在する地域、森林認証の取得状況、森林整備・保全方法、整備された森林面積、特定の種類の動植物の保全方法の情報を付すことが有効との声が多かった

GXリーグアンケート結果

Q（「今後、いずれかのカーボンクレジットを購入する予定がある」と回答した企業への質問）

森林吸収系J-クレジットを購入するに当たり、どのような情報が付されていれば価格以上の価値を感じることができると思いますか。



① 民間資金活用促進に向けたニーズ等の動向調査 イ 森林吸収系J-クレジットのマッチング手法の検討

- GXリーグ参画企業向け森林吸収系J-クレジット活用意向調査
- カーボンクレジット取引プラットフォーム事例調査

国内外のカーボンクレジット取引プラットフォームの戦略や機能を調査・分析することで、森林吸収系J-クレジットの効率的・効果的なマッチング・取引手法の検討を行います

国内外のカーボン・クレジット取引PF調査の目的と調査方法

目的	<ul style="list-style-type: none"> 国内外のカーボンクレジット取引プラットフォーム（以下、「PF」）の戦略や機能を調査・分析し、効率的・効果的なマッチング・取引手法の検討に活用する
----	--

調査項目と調査手法

項目	内容	調査手法	
		文献調査	ヒアリング
PF戦略	取扱いクレジットの方針	○	
	プラットフォームの強み	○	
	参加へのメリット（創出者・購入者）	○	
	取扱いクレジットの種類 ・ 森林吸収系クレジットの取扱いの有無 ・ J-クレジットの取扱いの有無	○	
PF機能	価格決定方法	○	△
	PR方法（ストーリー性、レーティング）	○	
	決済機能	○	△
PF利用手数料	取引手数料の徴収方法	○	
	取引手数料（創出者・購入者）	○	

凡例

○：実施する、△：情報が得られない場合は、実施することを検討する

カーボンクレジットの取引PFの在り方は、カーボンクレジットの取引目的によって異なります

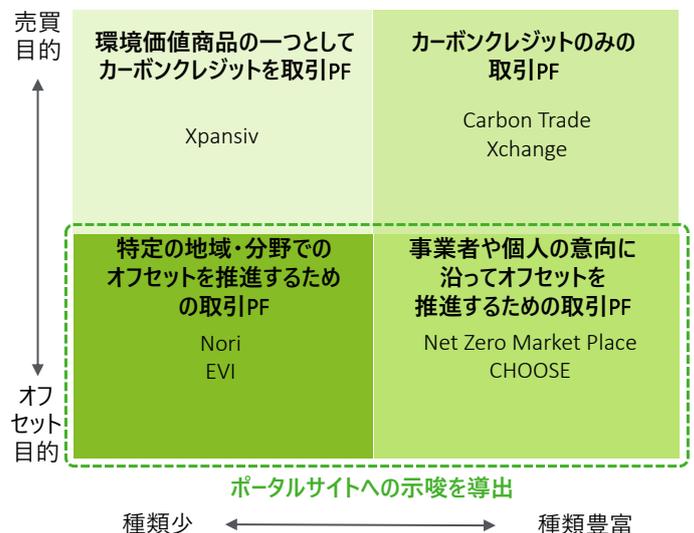
国内外のカーボン・クレジット取引PFの現状の整理・分析

カーボンクレジット取引プラットフォームの概要

	カーボンクレジット取引PF	設立年	PJ件数	森林吸収系PJ件数	特徴
海外	Carbon TradeXchange	2011年	170件	27件*	<ul style="list-style-type: none"> 世界初の電子クレジット市場 豊富な実績
	Nori	2016年	18件	0件	<ul style="list-style-type: none"> NFTを活用した取引
	CHOOOSE	2017年	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 航空業界やと業務基幹システムと連携
	Xpansiv	2017年	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 多種多様な環境関連の先物取引に特化
	Net Zero Marketplace	2022年	90件	25件	<ul style="list-style-type: none"> 第三者評価や購入者コミュニティの存在
日本	EVI(Eco Value Interchange)	2010年	90件	55件	<ul style="list-style-type: none"> 環境貢献PF Kg単位での購入が可能

27件*：PJ件数に販売プロジェクト割合を乗じて算定
出所：文献調査をもとに作成

カーボンクレジット取引プラットフォームの位置づけの整理



EVIは、J-クレジットの購入希望者像や購買行動を理解した上で、寄付型オフセット商品の開発やEVIシールを販売しています

国内外のカーボン・クレジット取引PFの事例：EVI (Eco Value Interchange)

取引プラットフォームの概要

- 2011年3月にカルビー株式会社カルネコ事業部（のちに、カルネコ株式会社）がEVI推進協議会の活動を開始
- J-クレジットによるオフセットの推進だけではなく、環境貢献型プロモーション（寄付型オフセット）、商品開発を通じて森林保全を行う
- 同社の取引プラットフォームでは、J-クレジットのみ取り扱う
- 同プラットフォームへの参加者数は以下の通り
 - ▶ 森林事業者：94者、参加企業数：82者
- 同プラットフォームの取引実績は、累計取引件数1,728件、累計購入数量は17,060t-CO2(2023年08月30日時点)

取引プラットフォームの強み

- 購入者は、kg単位から購入可能
- 森林吸収系J-クレジットの購入者像や購買行動を理解した上で、J-クレジットの販売だけではなく、寄付型オフセット商品の開発やEVIシールを販売している

取引プラットフォームの機能

価格決定方法	決済	ストーリー	レーティング
マーケットプレイス方式	NA	<ul style="list-style-type: none"> 寄付型オフセットを展開することで、クレジット創出した地域への貢献をPR 創出者によって、記載ぶりは異なる 	NA

- クレジット創出者ページは、創出者にゆだねられている
 - ▶ 創出者によっては、町の紹介やクレジット販売益の使い道、クレジットを販売する条件について記載されている

取り扱いクレジットの種類

	VCS	GS	UNFCCC CDM	J-クレ
削減系	-	-	-	○
森林吸収系	-	-	-	○

CHOOSEは移動による排出をターゲットとして、航空業界や旅行業界に対して排出量算定とセットで信頼性の高いクレジットを展開しています

国内外のカーボン・クレジット取引PFの事例：CHOOSE

取引プラットフォームの概要

- 2017年にノルウェーに本社を置くスタートアップが立ち上げ
- 現在は、移動による排出をターゲットとして、航空業界などの自社事業で排出できない産業や旅行サイトと連携し、排出量算定とクレジット販売をセットで展開している
- 取り扱っているプロジェクト件数は12件程度で、プロジェクト箇所は後進国中心である
- 個人向け（My CHOOSE）と事業者向け（We CHOOSE）、CHOOSE CLIMATE|SAPの3形態で取引PF自体を提供

取引プラットフォームの強み

- CHOOSE社はSAPと連携しているため、SAPを導入している企業に対して面的にアプローチすることができる
- CHOOSE社のクレジット提供の方法は、基本的に排出量算定とクレジット販売がセットになっているため、購入者は自身の排出量を把握したうえで適切な量のクレジットを購入することが可能

取引プラットフォームの機能

価格決定方法	決済	ストーリー	レーティング
マーケットプレイス方式	企業向け・個人向けPFとともにクレジットカード決済	プロジェクト箇所をGoogle Mapで確認することができる	<ul style="list-style-type: none"> レーティング機能がないが、認証機関からのFact Sheetにリンクが飛んでいる（→クレジットの信頼性担保につながっていると思料）

- 「Fact Sheet」を飛ぶと、このクレジットの認証団体のVERRAのFactSheetを確認可能
- 「Find on Map」を選択すると、Google Mapで詳細な位置を確認可能

取り扱いクレジットの種類

	VCS	GS	CDM	ACR	Puro earth	VIVO	J-クレ
森林吸収系	○	-	-	○	-	-	△
その他吸収系	-	-	-	-	○	○	-
削減系	○	○	○	-	-	-	--

プロジェクトの取り扱いは、カーボンソリューション部門責任者と米国・英国の学識有識者が主導して社内でデューデリジェンスした上で、取り扱いを決定

Net Zero Market Placeは後発であるため、その他のプラットフォームとの連携を強化しているとともに、購入者の意見が反映される仕組みづくりを意識していると推察します

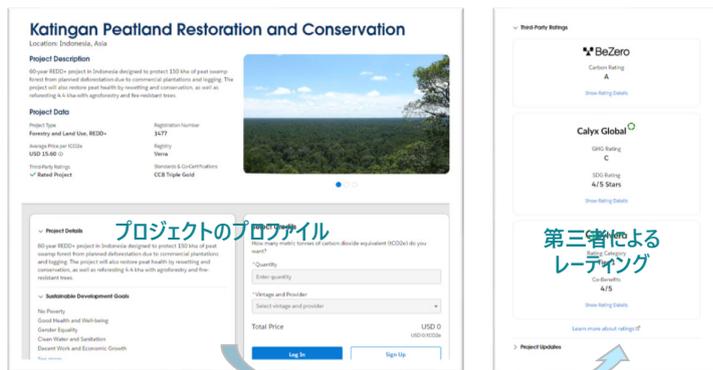
国内外のカーボン・クレジット取引PFの事例： Net Zero Market Place

取引プラットフォームの概要

- 2022年にSales ForceがNet Zero Market Placeを立ち上げ
- 現在はプラットフォームと連携することで自然由来のクレジットから削減系クレジットを取り扱う
- 取り扱っているプロジェクト件数は90件にも上る
- 基本方針として、**コアカーボン原則に則したクレジットのみ**を取り扱う

取引プラットフォームの強み

- Sales Forceの顧客基盤を活用し、出張などによる排出のオフセットを検討している事業者にも効果的にアプローチすることができる
- Sales Forceの「Commerce Cloud」を土台としており、自社の排出量を算定後にクレジットを購入することができるため、**排出量算定からクレジット購入までがシームレスに行うことが可能**
- 環境系スタートアップ3者から**第三者認証を受けたクレジットのみ**を取り扱う
- 購入者コミュニティがあり、実装してほしい機能や項目について提言可能である（→取引プラットフォームへの帰属意識の醸成につながっているのではないかと推察）



スクロールをすると、第三者からのレーティングを確認できるほか Questions&Answerで販売者とやり取り可能

取引プラットフォームの機能

価格決定方法	決済	ストーリー	レーティング
マーケット ブレイス方式	NA	<ul style="list-style-type: none"> 各プロジェクトのアップデートがあれば確認できる設計 販売者とコミュニケーションが取れる機能を実装 	<ul style="list-style-type: none"> 環境系スタートアップ3者のいずれかからのレーティングを実施

取り扱いクレジットの種類

	VCS	GS	CAR	ACR	J-クレ
森林 吸収系	○	○	○	○	-
削減系	○	○	○	○	-

Noriは土壌炭素貯留による削減量をトークン化したものを取り扱う市場を展開しており、ブロックチェーン技術を活用することで信頼性の高い取引を行っています

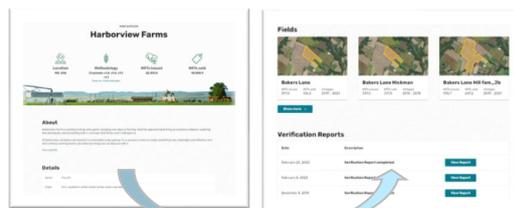
Nori

取引プラットフォームの概要

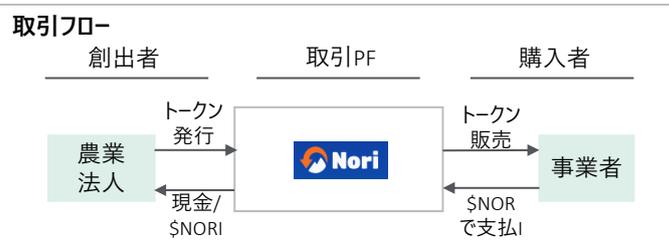
- 2017年に米国に本社を置くスタートアップが立ち上げ
- 土壌炭素貯留による削減量をトークン化したものを取り扱う取引市場を展開しており、取引は暗号通貨で行われている（現在は創出者には現金での振り込みだが、段階的に取引後の売り上げも暗号通貨で行うことになると予想）
- 登録されているプロジェクト件数は18件程度で、プロジェクト箇所は米国国内のみ

取引プラットフォームの強み

- 二重計上の防止のために、**ブロックチェーン技術を活用することで**、トークンを購入後にそれらはすぐに無効化され、再販売できなくなる仕組みを構築しており、**グリーンウォッシュのリスクが低い**
- 炭素定量ツール **Soil Metrics** を使用して、プロジェクト登録をする土壌に貯蔵されている炭素量を推定し、このデータを使用して炭素ベースラインをモデル化し、生成する NRT の数を推定し、**創出者に公正な取引を実現している**
- 創出者からは手数料を取らず、**購入者からのみ販売手数料を取っている**



スクロールすると、プロジェクト実施箇所や電子署名入りのレポートを確認できる



取引プラットフォームの機能

価格決定方法	決済	ストーリー	レーティング
トークン価格は市場によって上下	企業向け・個人向けPFとともにクレジットカード決済	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトの実実施箇所や栽培している作物の種類などの情報を提供 	<ul style="list-style-type: none"> レーティングはないが、第三者認証レポート（電子署名入り）を公表

取り扱いクレジットの種類

- 認証機関のクレジットの取り扱いはない
- 自社で発行しているトークンのみを展開
- Ori's Marketplace では、購入されたクレジットを3年ごとに再検証することで、信頼性を担保している

Xpansivは金融仲介業者などを対象として、環境価値の取引市場で金融商品の一つとしてカーボンをクレジットを取り扱いしており、即時の送金/支払いに強みがあります

国内外のカーボン・クレジット取引PFの事例：Xpansiv

取引プラットフォームの概要

- 2016年に米国CAでXpansivを設立。その後、2017年に環境価値の先物取引に特化しているCBLと統合
- ファンドマネージャー、金融仲介業者などを対象として、環境価値の取引市場でカーボンをクレジットを展開している

取引プラットフォームの強み

- リアルタイムでXpansivの市場データと価格をモニタリングすることが可能である（→クレジット価格の予見性は高いのではない）
- 買い手・売り手とともに取引手数料が非常に安価であるとともに、取引成立後の銀行振り込み・引き落としが即時対応であり、非常に流動的な取引が可能
 - 通常は取引価格の15%～35%程度
- クレジット以外の環境価値を取り扱っている



取引画面イメージ



取り扱っているクレジットの Fact Sheet

- 金融商品と同様の形式で取引されている
- 取り扱っているプロジェクトの実施箇所や具体的な取り組みについての記載はなし

取引プラットフォームの機能

価格決定方法	決済	ストーリー	レーティング
オークション形式	即時 銀行振り込み/ 引き落とし (デビット)	個々のプロジェクトを評価せずに取引することを主眼としているため、ストーリーテリングは特になし	N/A

取り扱いクレジットの種類

	VCS	GS	CAR	ACR	J-クレ
森林吸収系	○	-	-	-	-
その他吸収系	○	-	-	-	-
削減系	○	○	○	○	-

Carbon Trade Xchangeの特徴は、安全かつ複数の通貨での電子送金やカーボンをクレジット認証機関のレポジトリとの連携などのインフラの強さであると考えます

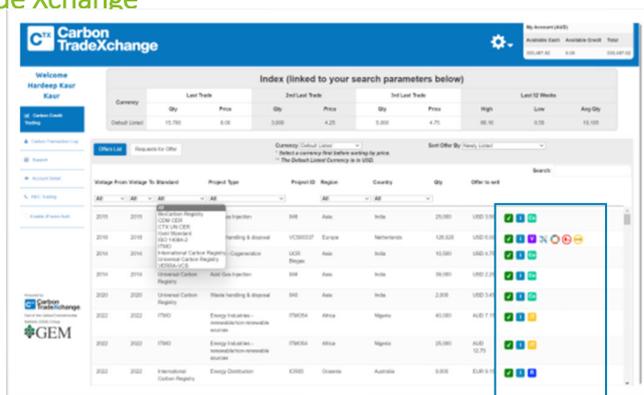
国内外のカーボン・クレジット取引PFの事例：Carbon Trade Xchange

取引プラットフォームの概要

- 2009年に英国でCarbon Trade Xchange（以下、「CTX」）を設立。現在は、英国とオーストラリアで事業を展開している
- 世界初の電子クレジット市場であり、豊富な実績を有している。近年はCORSAに準拠した取引プラットフォームを別途設立している
- 同取引プラットフォームのユーザーは、クレジット仲介事業者から大企業まで多岐にわたる
- 同取引プラットフォームは、ステークホルダー（売り手・買い手）に影響を与えることを重視しているため、最小購入ロットは100tである

取引プラットフォームの強み

- CTXはWestpac銀行（オーストラリア）と提携しており、同銀行の現金決済口座を同社の預託口座として利用しているため、安全かつ複数の通貨での電子送金を実現
- CTXはクレジットの認証機関（United Nations、VERRA、Gold Standard）と提携しているため、同取引プラットフォームでの取引がクレジットのレポジトリと連携される。よって、別途自社のレポジトリを作成する必要はない



- クレジットの認証機関のラベルやレポジトリのラベル、プロジェクトの認定レベルが表示されている
- プロジェクトタイプをクリックすると、モニタリング報告書、検証報告書など、プロジェクトの詳細な情報や文書を確認可能

取引プラットフォームの機能

価格決定方法	決済	ストーリー	レーティング
マーケットプレイス方式	即時 銀行振り込み/ 引き落とし (1営業日～2営業日)	N/A	レーティングはないものの、モニタリング報告書や検証報告書を確認可能

取り扱いクレジットの種類

	VCS	GS	UNFCCC CDM	GCR	BCR	UCR	J-クレ
方法論の種類不明	○	○	○	○	○	○	-

カーボンクレジット取引プラットフォームの活性化には、創出者のPFへの参加費用を軽減させるとともに、需要者側にクレジットの信頼性を担保する情報提供が必要です

国内外のカーボン・クレジット取引PFの現状の整理・分析 調査結果 (1/2)

GX-ETSに対する示唆に繋がるポイント
マッチング・取引手法の検討に繋がるポイント

オフセット目的 ↑ 売買目的 ↓	PF戦略						PF機能			
	取扱クレジットの方針	特徴・強み	参加メリット		森林吸収系クレジット取扱		価格決定方法	クレジットPR		決済機能
			創出者	購入者	J-クレ	その他		ストーリー	レーティング	
EVI	J-クレジットのみ取扱	環境貢献型PR、商品開発をサポート	安価な仲介手数料でマッチング	kg単位で購入可	○	○	マーケットプレイス方式	×	レーティングなし	NA
Net Zero Market Place	コアカーボン原則に則した認証クレジットのみ取扱	PJ内容や信頼性を把握した上で購入できる仕組みを整備	NA 主にPFとの連携	購入者向けコミュニティやPFへの提言可能	○	×	マーケットプレイス方式	新着情報が随時アップロード	第三者機関によりレーティング実施	NA
CHOOSE	後進国の認証クレジットを中心に取扱	航空業界・旅行業界にターゲットとして、排出量算定とセットで展開	NA 創出者向け取引PFではない	自身の排出分だけクレジットを購入可能	○	△ JAL PF	マーケットプレイス方式	PJ実施個所をGoogle Mapで確認可	レーティングなし 認証機関のFactSheetあり	クレジットカード取引
Nori	自社発行の土壌炭素貯留系PJのみ取扱	環境価値の二重計上を防止するためにブロックチェーンを使用	マッチング手数料を取らない	購入したPJの再検証により信頼性を担保	○	×	マーケットプレイス方式	過去のPJ創出・販売実績や作物等を確認可	レーティングなし 電子署名入りレポートあり	クレジットカード取引
Carbon Trade Xchange	CORSIAで使える認証クレジットを中心に取扱い	取扱クレジットの種類豊富、取引インフラの安全性	価格のつけ方のサポートあり	多種・多様クレジットを購入可	○	×	マーケットプレイス方式	NA	レーティングなし モニタリング報告書や検証報告書はあり	銀行振込
Xpansiv	高品質な認証クレジットのみ金融商品として取扱	即時銀行振込対応が可能な取引インフラを有している	NA 創出者向け取引PFではない	流動性の高い取引が可能	○	×	オークション形式	金融商品としての取引のため重要視せず	NA	即時銀行振込(デビット)

出所：各種文献をもとにデロイトが作成

55 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

カーボンクレジット取引プラットフォームの活性化には、創出者のPFへの参加費用を軽減させるとともに、需要者側にクレジットの信頼性を担保する情報提供が必要です

国内外のカーボン・クレジット取引PFの現状の整理・分析 調査結果 (2/2)

取引手数料の価格が高いステークホルダー

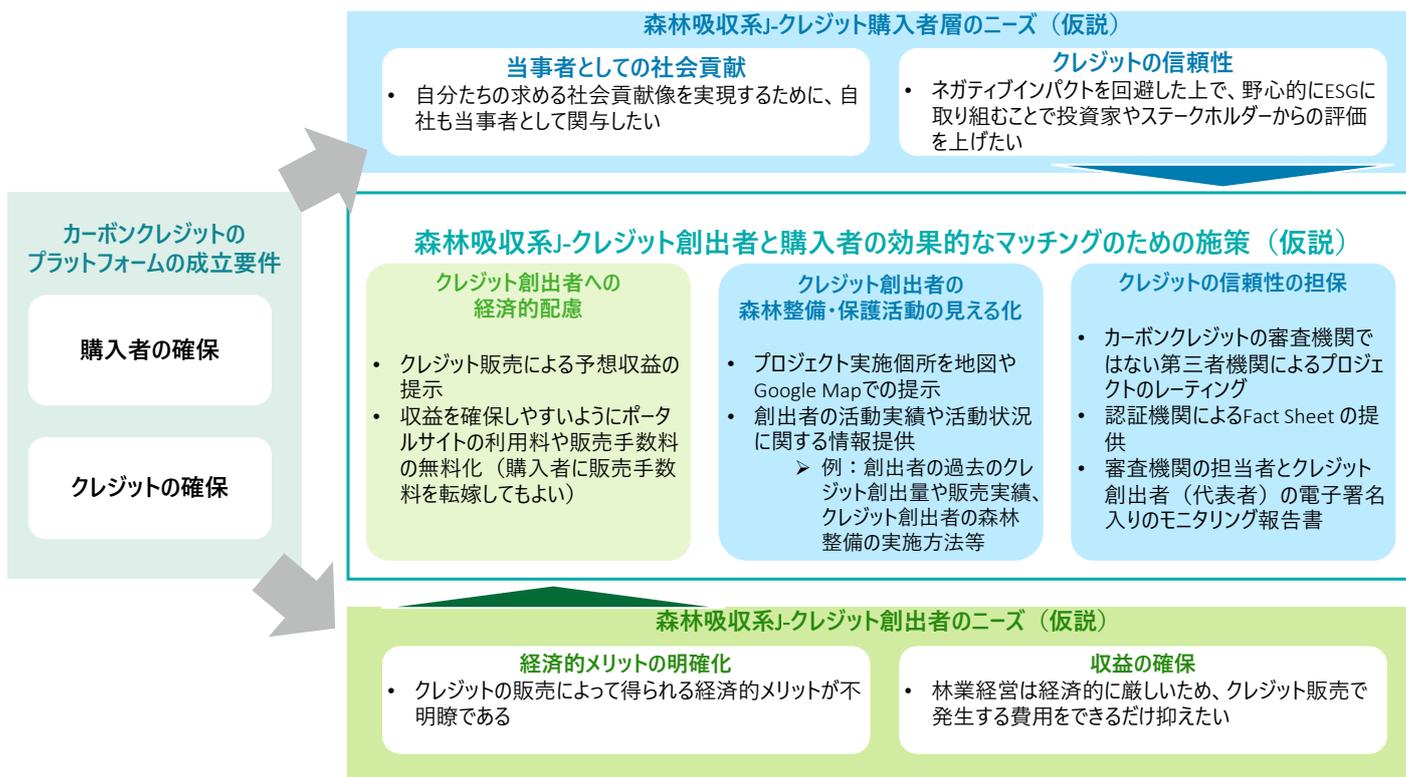
オフセット目的 ↑ 売買目的 ↓	PFへの参加費用		
	取引手数料の徴収方法	取引手数料	
		創出者	購入者
EVI	<ul style="list-style-type: none"> 設立当初はクレジット預託の手数料やクレジット仲介取引の手数料を徴収していなかった 現在は、創出者からクレジットの委託販売手数料を販売量に応じて徴収している 	500円/t	確認できない
Net Zero Market Place	<ul style="list-style-type: none"> 購入価格（手数料を含める）に応じて取引手数料を徴収している 	購入価格の4%（そのうち1%はSalesForceのコミッション）	
CHOOSE	<ul style="list-style-type: none"> 購入価格（手数料を含める）に応じて取引手数料を徴収している 取引手数料には、CHOOSEによるプロジェクトの審査と評価、プロジェクトのポートフォリオの管理、無効化処理とその報告、ハンズオンサポート、クレジットプロバイダーに対する取引手数料と外貨取扱手数料が含まれている 	<ul style="list-style-type: none"> 購入価格の22.5% JAL×CHOOSEの場合、0.35€/取引 	
Nori	<ul style="list-style-type: none"> 創出者から取引手数料を一切徴収せず、購入者にクレジット購入価格に取引料（購入価格の25%）を上乗せしている 	なし	購入価格の25%
Carbon Trade Xchange	<ul style="list-style-type: none"> 取引が成立した場合、創出者・購入者双方から、クレジット購入価格とは別に取引価格に応じて取引手数料を徴収している 	取引手数料自体は発生するものの、その取引手数料の価格は確認できない	購入価格の2%
Xpansiv	<ul style="list-style-type: none"> 取引が成立した場合、創出者・購入者双方から、クレジット購入価格とは別に取引価格に応じて取引手数料を徴収している クレジットの種類によって取引手数料が異なる 	0.1USD/t	0.05 USD/t

出所：各種文献をもとにデロイトが作成

56 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

クレジット創出者とJ-クレジットの購入者層を効果的にマッチングさせるためには、創出者の経済的配慮、森林整備・保護活動の見える化・クレジットの信頼性の担保が必要であると考えます

国内外のカーボン・クレジット取引PFの現状の整理・分析からの効果的マッチングに関する示唆



カーボン・クレジット取引PFに応じて、効果的なマッチングのための施策の取組状況は異なっています

国内外のカーボン・クレジット取引PF別 効果的なマッチングのための施策（仮説）の取組状況

マッチング・取引手法の検討に繋がるポイント

- 本調査結果から、Net Zero Market PlaceやCHOOSEのようなオフセット目的のPFでは、クレジット創出者に関する情報提供を積極的に行っているほか、クレジットの信頼性を担保するために、クレジットのレーティングや認証機関が発行するFact Sheetを掲載することで、クレジットの購入を促していることがわかった。
- また、売買目的のPFでは、安価な手数料を設定し、クレジット創出者・購入者双方に対してクレジットの売買を促す設計となっていた。
- 今回整理したPFの中で、前頁の森林吸収系J-クレジット創出者と購入者の効果的なマッチングのための施策（仮説）に基づく要件に最も合致していたのは、Noriであった。

	クレジット創出者への経済的配慮		クレジット創出者の森林整備・保護活動の見える化		クレジットの信頼性の担保			
	予想収益の提示	手数料	クレジット創出地域の提示	活動状況の提示	レーティングの共有	Fact Sheetの共有	モニタリング報告書の提示	
↑ オフセット目的 ↓	EVI	NA	創出者は、500円/tかかる	創出者が自ら記載のため、内容の充実度は創出者次第	創出者が自ら記載のため、内容の充実度は創出者次第	NA	NA	NA
	Net Zero Market Place	NA	購入価格（手数料を含める）に応じて取引手数料を徴収している	創出エリアの写真が掲載されている	活動状況が随時アップデートされる	環境系スタートアップによるレーティング	NA	NA
	CHOOSE	NA	購入価格（手数料を含める）に応じて取引手数料を徴収している	Google Mapで創出箇所を確認可能	創出者の活動については記載は限定的	NA	認証機関のFactSheetあり	NA
	Nori	炭素貯留量算定ツールで予想クレジット量を算定可能	創出者は手数料無料（購入者にその分を転嫁する）	クレジット創出者箇所/面積がわかるように記載されている	過去のPJ創出・販売実績や作物等を確認可	NA	NA	電子署名入りレポートあり
	Carbon Trade Xchange	NA	創出者・購入者双方から、取引価格に応じて安価な手数料を徴収している	NA	NA	NA	NA	モニタリング報告書や検証報告書はあり
↑ 売買目的 ↓	Xpansiv	NA	創出者・購入者双方から、取引価格に応じて安価な手数料を徴収している	NA	NA	NA	NA	NA

②民間資金活用促進に向けた情報発信サイトの構築等 ア ポータルサイトの構築 イ 森林吸収系J-クレジット創出支援ツールの開発

59 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

山の炭素吸収応援プロジェクトは、森林整備を通じたカーボンニュートラルに関心のある企業・団体、自治体のマッチングを図ることで、森林による炭素吸収の促進を図ります

山の炭素吸収応援プロジェクト ポータルサイト設立趣旨

ポータルサイト設立背景

2050年カーボンニュートラル実現に向け、森林による炭素吸収がより重要性を増しており、民間資金の活用による森林整備の取組をより一層加速していくため、効果的な情報発信を行う必要性が高まっている

山の炭素吸収応援プロジェクト

本プロジェクトでは、自治体や企業がポータルサイトを通じて、情報発信・共有・マッチングの機会を得ることにより、森林整備を進めていくために必要となる「人材」「資金」「情報」の好循環を生み出す環境を整備し、森林による炭素吸収の促進を図ります

● 資金

森林資源の管理・整備に民間資金を活用することで、社会課題の解決へ貢献しつつ、カーボンニュートラルに向けた企業意識を醸成する



● 人材

森林資源の管理・整備や有効活用に尽力する地域人材や団体にフォーカスし、情報を発信することでその活動を応援し、仲間を増やす

● 情報

他地域の先進事例の発信等を通じて、自地域・自社で取り組める課題 解決策を精査し活動につなげていく

60 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

ポータルサイトでは、自治体や企業・団体が自ら情報登録を行うことが可能であるとともに、登録された情報は誰でも閲覧できるため、マッチングが容易となります

山の炭素吸収応援プロジェクト ポータルサイトの主な掲載情報

項目	掲載情報	情報の更新
自治体を探す	<ul style="list-style-type: none"> 自治体名・問い合わせ先 森林の概要 取り組んでいる課題 企業との連携を図りたい取組 企業との連携にあたってのPR、強み 等 	登録を希望する自治体自身で情報登録 (令和6年度サイトオープン後を予定)
企業を探す	<ul style="list-style-type: none"> 企業情報・問い合わせ先 森林の概要 今後の取組意向 自治体との連携に当たってのPR、強み 等 	登録を希望する企業自身で情報登録 (令和6年度サイトオープン後を予定)
事例紹介 (企業と自治体の 連携事例)	<ul style="list-style-type: none"> 連携の取組概要 連携先の企業(自治体)と結びついたきっかけ 取り組みを進める上での実務プロセス 取組の成果 / 今後の見込み 	事務局で情報掲載・更新
お知らせ	イベントのお知らせ等	

61 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

ポータルサイトは、令和6年度の公開を予定しています

山の炭素吸収応援プロジェクト ポータルサイト

山の炭素吸収応援プロジェクト ポータルサイト (デモサイト)

URL : <https://dev.mercury.vc/>

ID:yamanotanso_demo

PASS : portal_2024

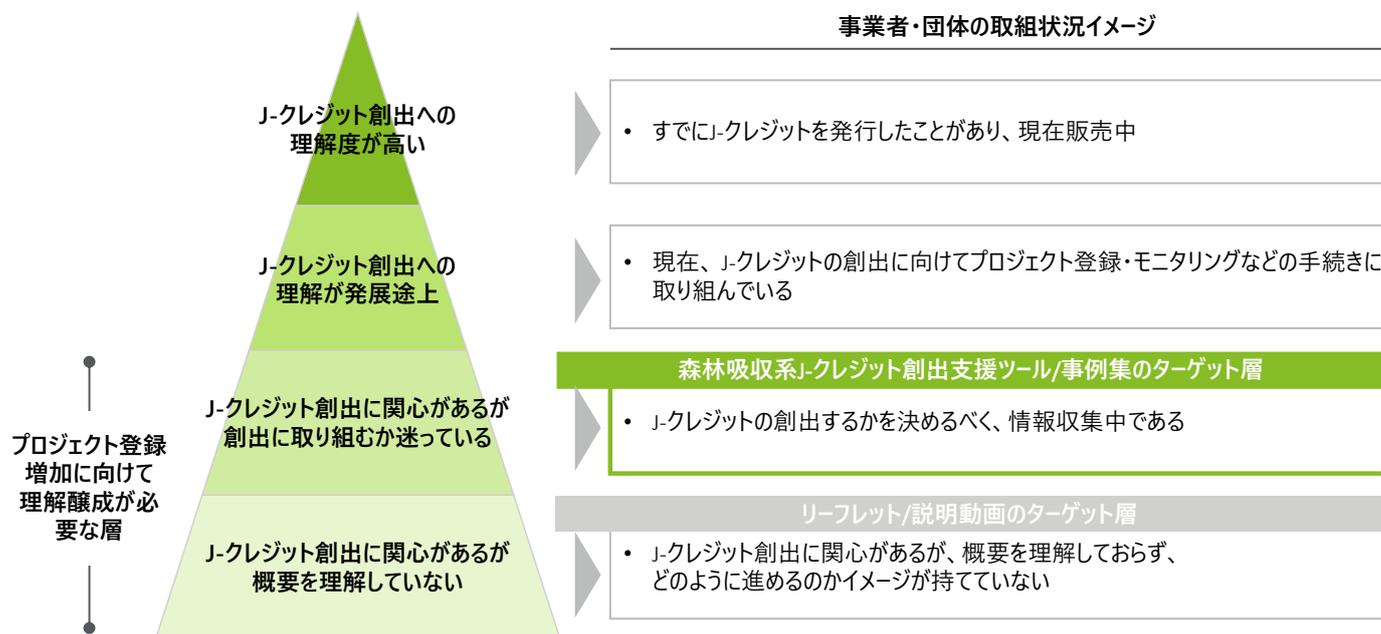


62 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

②民間資金活用促進に向けた情報発信サイトの構築等 アポータルサイトの構築 イ森林吸収系J-クレジット創出支援ツールの開発

森林吸収系J-クレジットの創出に関心があるがクレジット創出を検討中の事業者向けに森林吸収系J-クレジット創出支援ツールを作成しました

森林吸収系J-クレジット創出支援ツールの開発 (1/2)



クレジット創出意欲を高めプロジェクト登録を増やすために、J-クレジット制度に則し、おおよそのクレジット創出量を簡便に把握できるツールを作成しました

森林吸収系 J-クレジット創出支援ツールの開発 (2/2)

現状	<ul style="list-style-type: none"> クレジット創出量がわからず、クレジット創出によってどれだけの経済的メリットを得られるかわからないため、クレジット創出に意欲が湧かない J-クレジット申請用Excelシートは複数のシートを手入力することが必要であり、入力に工数を要する 森林吸収量算定シート（林野庁公表）はJ-クレジットの方法論に則していない
目的	<ul style="list-style-type: none"> 創出者のクレジット創出の意欲を高め、プロジェクト登録を増やすために、J-クレジット制度に則し、おおよそのクレジット創出量を簡便に算定できるツールを作成する

森林吸収系 J-クレジット創出支援ツールの構成

シート名	入力要否
入力方法説明	-
吸収量・排出量の集計	-
施業・保護による吸収量・排出量算定シート	要
樹種別材積表table	要
伐採木材による吸収（固定）量	要
各種参照用シート	-

森林吸収系 J-クレジット創出支援ツールの特徴

地位の入力が不要

- J-クレジット申請用Excelシートは複数のシートでは入力が必要だが、本シートでは入力不要

再造林による吸収量のカウントに対応

- 「標準伐期までの期間の吸収量を一括計上」「認証対象期間までの吸収量を毎年カウント」のいずれかを選択可能

伐採木材の固定化による吸収量のカウントに対応

- 出荷量（目安）を入力するだけで伐採木材の固定化による吸収量をカウントすることが可能

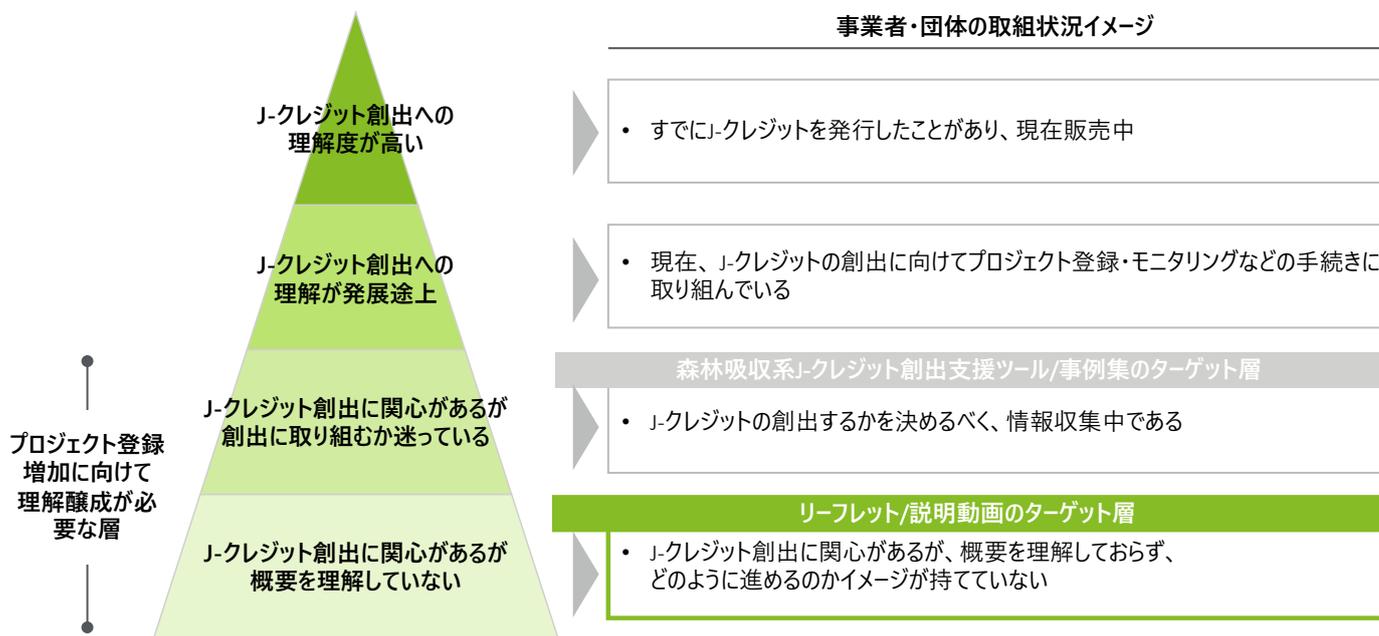
上記に対応しつつ、最小限の入力項目で簡便に算定可能

③ 民間資金活用促進に向けた普及活動 ア 普及・説明用ツールの作成等

- ・ リーフレット
- ・ 森林吸収系J-クレジット説明動画

J-クレジット創出に関心があるが概要を理解していない事業者向けに、森林吸収系J-クレジットの概要を伝えるリーフレットを作成しました

リーフレットの作成 (1/2)



森林吸収系J-クレジットの概要について理解が進んでいない方向けに、森林吸収系J-クレジットの概要についてのリーフレットを提供します

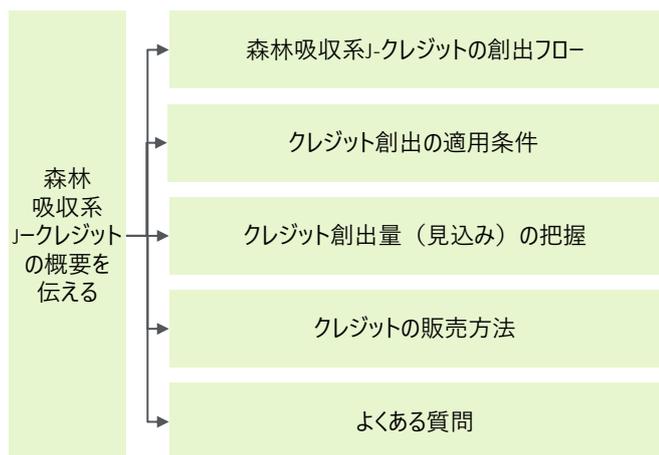
リーフレットの作成 (2/2)

目的

- 森林吸収系J-クレジットの概要について理解が進んでいない事業者向けに、森林吸収系J-クレジットの概要を伝え、クレジット創出検討を促進する

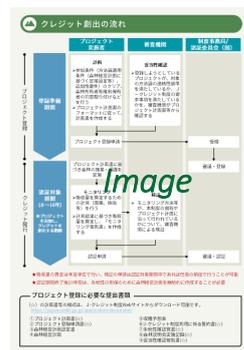
リーフレットのコンテンツ

- 森林吸収系J-クレジットの概要について理解しやすいように、リーフレットのコンテンツを構成した



リーフレット作成におけるポイント

- リーフレットは、以下にポイントに留意して作成した。
 - クレジット創出に関心を持ってもらった事業者が次のアクション（＝クレジット創出の検討）に移れるように必要な情報を提供すること
 - クレジット創出のフローを理解しやすくするために、図や表を用いて説明すること

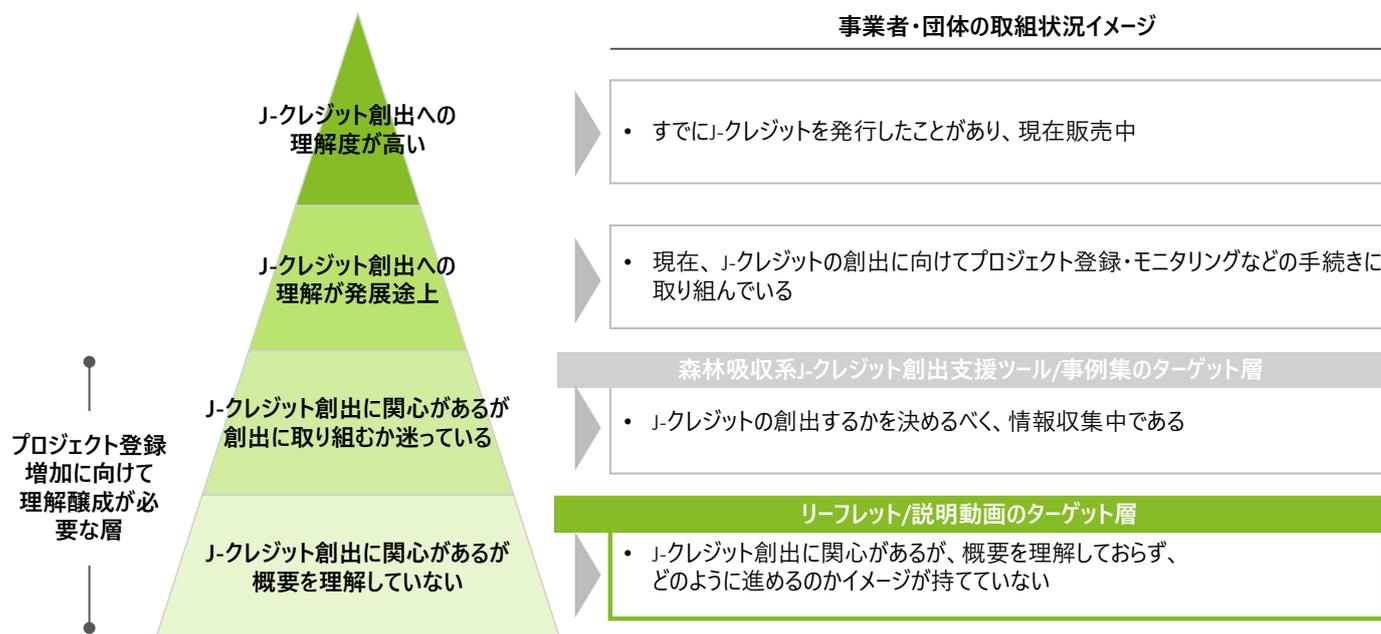


③民間資金活用促進に向けた普及活動 ア 普及・説明用ツールの作成等

- ・リーフレット
- ・森林吸収系J-クレジット説明動画

J-クレジット創出に関心があるが概要を理解していない事業者向けに、森林吸収系J-クレジットの概要を説明する動画を作成しました

森林吸収系 J-クレジットの説明動画 (1/3)



森林吸収系J-クレジットの概要について理解が進んでいない方向けに、森林吸収系J-クレジットの概要についての説明動画を提供します

森林吸収系J-クレジット説明動画（2/3）

目的	<ul style="list-style-type: none"> 森林吸収系J-クレジットの創出に興味をもった事業者向けの導入資料の一つとして、森林吸収系J-クレジットの概要をわかりやすく説明するとともに、ペーパーベースの資料ではわかりづらい事項をフォローする
-----------	---

動画コンテンツ

- 現状、森林吸収系J-クレジットの創出・販売に関わる手続きが複雑であり、クレジットを初めて創出する者にとっては心理的ハードルが高い
- 森林吸収系J-クレジットの概要をクイックに把握できるようにすることを目的として、動画のコンテンツを構成した

タイトル	内容
J-クレジット制度とは	<ul style="list-style-type: none"> J-クレジット制度および森林吸収系J-クレジットの紹介
クレジット創出の要件、手続き	<ul style="list-style-type: none"> クレジット創出の適用条件、クレジット創出の流れ、クレジット算定対象やクレジット創出量のカウントの仕方
クレジットの販売	<ul style="list-style-type: none"> クレジット販売方法、クレジット販売後の環境価値の取り扱い

動画作成におけるポイント

- 本動画では、以下にポイントに留意して作成した。
 - わかりづらいクレジットに関連する専門用語をわかりやすく簡単な言葉で説明すること
 - クレジット創出・販売に関するフローや事象を理解しやすくするために、図や表を用いて説明すること



森林吸収系J-クレジット説明動画はmaffchannel (YouTube)で公開しています

森林吸収系J-クレジット説明動画（3/3）

URL : <https://www.youtube.com/watch?v=LJWhEwOrucg>



③民間資金活用促進に向けた普及活動 イシンポジウムの開催

73 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

森林シンポジウムでは、第1部でクレジット創出・活用の拡大に関する事例紹介等を行い、第2部で民間資金活用のためのマッチング呼びかけ等を行いました

シンポジウム実施概要

名称	令和5年度森林シンポジウム～J-クレジット・民間資金による森林整備と脱炭素貢献～	
開催日時	2024年2月28日（水）	
開催方法	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ハイブリッド形式 <ul style="list-style-type: none"> • 会場参加：木材会館（新木場） https://www.mokuzai-tonya.jp/mokuzaikaikan/index.html#access • オンライン参加：ZOOMウェビナー ✓ 後日動画共有あり ✓ 資料は事前に林野庁HPにアップロード https://www.rinya.maff.go.jp/j/sin_riyou/ondanka/240226.html 	
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Jクレジットや民間資金の活用による森林整備、脱炭素貢献に関心のある方 ✓ 会場定員：300人（1機関2名まで）、オンライン定員：5,000人 	
プログラム	第1部（10:30～14:25） <ul style="list-style-type: none"> • クレジット創出拡大ツール紹介 • クレジット創出・活用の事例紹介 • GXリーグ賛同企業向けアンケート実施結果公表 • トークセッション • 事例集及びポータルサイトの紹介 	第2部（14:25～16:10） <ul style="list-style-type: none"> • 山の炭素ポータルサイト説明 • 優良事例紹介 • 企業/自治体によるマッチング呼びかけ

74 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

【ご参考】シンポジウムプログラム

10:30 - 10:40 林野庁 開会挨拶

14:25 - 14:35 休憩

第一部：森林吸収系J-クレジットの創出・活用の拡大

- 10:40 - 10:55 クレジット創出拡大のツール紹介
ハンドブック / 説明動画
CO2創出支援ツール
- 10:55 - 11:25 クレジット創出の事例紹介（1団体10分×3）
石川県/佐川林業株式会社/
九州林産株式会社
- 11:25 - 11:55 クレジット活用の事例紹介（1団体10分×3）
山陰合同銀行/長瀬産業株式会社/
ヤバホーム株式会社
- 11:55 - 12:55 昼食休憩
- 12:55 - 13:08 GXリーグ賛同企業向けアンケート
実施結果の公表
- 13:10 - 14:15 トークセッション
モデレーター：株式会社三井物産戦略研究所 本郷尚
パネリスト：株式会社アスエネ/Carbon EX株式会社 陰山貴之
山陰合同銀行 井上亮
東京証券取引所 松尾琢己
長瀬産業株式会社 成田昇
e-dash株式会社 山崎冬馬
一般社団法人more trees 水谷伸吉
- 14:15 - 14:25 事例集・ポータルサイト紹介

第二部：森林整備への民間資金活用促進

- 14:35 - 14:50 山の炭素ポータルサイト サイト説明
ポータルサイト 趣旨
自治体掲載ページ紹介
企業掲載ページ紹介
活用方法 事例
- 14:50 - 15:10 優良事例の紹介（1団体10分×2）
北海道夕張郡栗山町/宮崎県延岡市
- 15:15 - 15:55 企業・自治体によるマッチング呼びかけ
（1団体5分×8）
（NTT西日本グループ）株式会社地域創生Co
デザイン研究所/
オムロンソーシアルソリューションズ株式会社/
DeepForest Technologies 株式会社/
日本製紙株式会社/丸紅株式会社/
ヤマハ発動機株式会社/
広島県山県郡北広島町
TIS株式会社
- 16:00 - 16:10 林野庁 閉会挨拶

75 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

【ご参考】シンポジウム用チラシ

令和5年度
森林シンポジウム
～J-クレジット・民間資金による森林整備と脱炭素貢献～

企業による森林づくり活動や、森林吸収系J-クレジットを含めた民間資金の活用による森林整備を推進することは、森林・林業の活性化のみならず、森林の持つ二酸化炭素吸収機能を高めることで、脱炭素社会の形成にも貢献します。
本シンポジウムでは、J-クレジットの創出・活用の拡大に向けた取組のほか、民間資金の活用による森林整備や脱炭素に貢献する取組の優良事例を紹介し、今後同様の活動を実施しようとする自治体と企業とのマッチングに資する様々な情報を発信します。




開催日
令和6年 2月28日 (水)

会場
ハイブリッド開催（オンライン・会場参加）
会場参加：木材会館7階大ホール
（東京都江東区新木場1-18-8）
会場定員：300名

第1部 森林吸収系J-クレジットの創出・活用の拡大

- ・開会挨拶
- ・クレジット創出拡大ツール紹介
- ・クレジット創出・活用の事例紹介
- ・GXリーグ賛同企業向けアンケート実施結果の公表
- ・クレジット流通活性化に関するトークセッション
- ・事例集/ポータルサイト紹介

第2部 森林整備への民間資金活用促進

- ・山の炭素ポータルサイト説明
- ・優良事例紹介
- ・企業・自治体によるマッチング呼びかけ
- ・閉会挨拶

参加費無料 【申込期限：令和6年2月16日(金)】

イベント参加の申込みは、申込フォームより行ってください。
<https://forms.office.com/e/Gy6vYDh4Xk>



※応募状況確認、申込人数を確認させていただきます。

※後日メール（PDF）配信を予定しております。

詳細は裏面をご覧ください

<主催> 林野庁

<お問い合わせ先> 山の炭素吸収応援プロジェクト事務局 | 有限責任監査法人トーマツ
E-mail: forestry_carbon@tohmtsu.co.jp

プログラム

第1部 10:30～14:25 森林吸収系J-クレジットの創出・活用の拡大

開会挨拶	林野庁
クレジット創出拡大のツール紹介	山の炭素吸収応援プロジェクト事務局
クレジット創出の事例紹介	・石川県 ・石川県における県有林 J-クレジットの取り組みについて ・社有林(さのの森)J-クレジット創出を振り返って ・佐川林業株式会社 ・九州電力社有林における J-クレジット創出の取り組みについて ・九州林産株式会社
クレジット活用の事例紹介	・J-クレジットの地産地消推進によるガスアビリティ(実現に向けた取り組みについて ・山陰合同銀行 ・森林クレジットの活用事例：長瀬産業株式会社 ・長瀬産業株式会社 ・一私たちがどれだけ子供たちに自然を残せるのだろうかー カーボン・オフセットで「緑の価値」を呼び出す ・株式会社YACORN
GXリーグ賛同企業向けアンケート実施結果の公表	山の炭素吸収応援プロジェクト事務局
トークセッション	モデレーター：株式会社三井物産戦略研究所 シニア研究110ー 本郷尚 パネリスト：株式会社アスエネ/Carbon EX株式会社 COO執行役員 陰山貴之 山陰合同銀行 地域開発部長 井上亮 東京証券取引所 カンパニー/クレジット市場整備室長 松尾琢己 長瀬産業株式会社 経営企画本部サステナビリティ推進室 機能化学品事業部グループソリューション室ソリューション開発チーム チーフ・コーディネーター e-dash株式会社 代表取締役社長 山崎冬馬 一般社団法人more trees 事務局長 水谷伸吉
事例集及びポータルサイトの紹介	山の炭素吸収応援プロジェクト事務局

第2部 14:35～16:10 森林整備への民間資金活用促進

山の炭素ポータルサイト説明	山の炭素吸収応援プロジェクト事務局
優良事例紹介	・「小さなまちの大きな森林づくりへの挑戦」～企業との連携による森林とまちづくり ・北海道夕張郡栗山町 ・株式会社ユモス(食品)の企業取組と納税による民間資金を活用した 宮崎県北地域森林整備・森林整備の取組について ・宮崎県延岡市
企業・自治体によるマッチング呼びかけ	・森林資源を活用した地域の脱炭素化と企業のカンパニー向け ・(NTT西日本グループ) 株式会社地域創生Coデザイン研究所 ・広葉樹等の新たなSCM構築の取り組み ・オムロンリアルソリューションズ株式会社 ・ドローンと航空データを活用したJ-クレジットの創出 ・DeepForest Technologies 株式会社 ・日本製紙グループのエリート/普及に向けた取組 ・日本製紙株式会社 ・自治体・林業事業者との森林J-クレジットの取組について ・丸紅株式会社 ・リモートセンシングによる森林のデジタル化 ・ヤマハ発動機株式会社 ・企業との連携による森林J-クレジットの実現について ・広島県山県郡北広島町
閉会挨拶	林野庁

(敬称略)

76 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

シンポジウム各セッション紹介

クレジット創出の事例紹介（10:55～11:25）

概要

- ・クレジット創出の優良事例を紹介
- ・自ら所有する森林でのクレジット創出のみならず、戦略的なクレジット販売、組織内でのノウハウ継承、地域内のクレジット創出の普及に取り組む

石川県

- 県有林約800ヘクタールを対象
- 割安な販売単価と、複数年契約と大口購入による更なる値引きなど、戦略的な販売に取り組む
- 県内の事業者等向けのマニュアルを作成し、県内民有林における更なる普及を目指す

九州林産株式会社

- 親会社である九州電力株式会社が大分県に有する社有林約2,100ヘクタールを対象
- 2022年から導入された伐採木材算定ルールを積極的に活用
- 経験を活かし、他の事業者の創出支援も展開

佐川林業株式会社

- 高知県内の社有林約120ヘクタールを対象
- 創出したクレジットは、グループ会社の主要事業である物流事業における排出のオフセットなどに活用
- クレジット制度の知識と育林の知識が完全に一致しないこと、対応期間が長期に渡ることから、ノウハウの共有・継承のための組織内の体制づくりの重要性を強調

シンポジウム各セッション紹介

クレジット活用の事例紹介（11:25～11:55）

概要

- ・クレジット活用の優良事例を紹介
- ・仲介活動によるクレジット活用の促進、クレジット購入を通じた創出元との連携、自社活動へのオフセット等の取り込みなどの優良事例の紹介

山陰合同銀行

- 2009年より、鳥取県のクレジット制度地域コーディネーターとして、創出者と活用者のマッチング等を行う
- 現在では鳥取県のみならず、島根県、兵庫県の創出者の販売支援も行う
- 販売仲介活動の実績は累計369件、11,931 t-CO₂
- 昨年より創出支援も開始

ヤベホーム株式会社

- 県産材、国産材を使用した注文住宅を建てる工務店
- 2013年より以下に取り組む
 - ・ 自社のエネルギー使用量削減
 - ・ 建築現場までの通勤に伴うCO₂排出をオフセット
 - ・ カーボン・オフセット住宅の販売
- オフセットのためのクレジットは長崎県内の森林に由来するものを活用

長瀬産業株式会社

- 約190年の歴史を持つ化学品の専門商社
- クレジットの購入を通じ、自社排出のオフセットを行うのみならず、創出元である高知県梶原村と連携して生物多様性や地域創生に資する事業に取り組む

シンポジウム各セッション紹介

取引プラットフォームによるトークセッション（13:10～14:15）

概要

J-クレジットの取引プラットフォームを運営する各社による、今後のクレジット活性化に向けた展望の議論
モデレーターに、三井物産戦略研究所の本郷氏を迎え、第1部登壇者の山陰合同銀行と長瀬産業株式会社、株式会社アスエネ、東京証券取引所、e-dash株式会社、一般社団法人more treesがパネリストとして参加
モデレーターから森林クレジットを取り巻く環境について、登壇者の目線合せが行われた後、クレジット需要者や仲介事業者等の各視点から、「2030年までのJ-クレジットの需要動向についてどのように見ているか」「市場全体として取引を最適化させるために他のプラットフォームと連携できる可能性」といった、森林J-クレジットの取引を活性化させる上での課題や今後の方針について議論が行われた

トークセッションでの議論内容

森林クレジットの強み

- 削減系クレジットと比べ、生物多様性や水源涵養、国土保全といった脱炭素以外でも貢献可能
- 地域への貢献という点でも訴求力有
- 今後は二酸化炭素の排出削減だけでなく、吸収源の確保がより求められる中で森林クレジットには大きな期待がかかる

森林クレジットの課題

- 削減系クレジットと比べ、高価格
- 将来的にはクレジット需要が伸びる可能性があるが、クレジット創出量は不足

今後の方針

- モニタリング手法をデジタル化したり、リモートセンシングを活用したりするなど、クレジットの取引にかかるコストを削減する必要有
- クレジットのニーズが生まれるコンテキストを理解し、各事業者のニーズに応じたクレジット活用の提案が必要
- 細分化された私有林を効率的に集約する方法を検討する必要有。また、地方公共団体が有する公有林を販売しやすくする仕組みも今後検討が必要
- 生物多様性等の炭素以外の価値をコベネフィットとしてアピールすることが必要



トークセッションの様子

シンポジウム各セッション紹介

企業との連携紹介セッション（14:50～15:10）

概要

- 民間資金による森林整備の事例を紹介
- 企業版ふるさと納税制度を活用した企業の森林づくりや自治体の森林整備への支援事例

北海道栗山町

- 企業にも税制上のメリットがある企業版ふるさと納税制度を活用し、企業と連携した森林整備を実施
- 従来型の企業連携で見られた植樹のみの実施ではなく、育林や社員研修の場としての活用も実施
- 企業の森林づくりに興味を持つ住友林業株式会社とその取引先を巻き込む形で、4社合同の企業の森林づくりを実現（道内では初）
- 企業版ふるさと納税の基金化やネーミングライツの実施のため、条例化など制度設計を実施

宮崎県延岡市ほか

- 宮崎県延岡市を創業地とし、現在では沖縄、東北、北海道を除く全国に約1,400店舗を展開する株式会社コスモス薬品が、企業版ふるさと納税制度を活用して宮崎県北9市町村の森林整備を支援
- 支援にあたっては、コスモス薬品と9市町村の間で森林・林業施策の考え方についての意見交換や現地視察を実施
- 寄付は令和3年度より開始、支援額は毎年度約1.8億円
- 支援事業は多岐にわたり、育林、担い手育成、林道整備、ドローン測量など

シンポジウム各セッション紹介

企業・自治体によるマッチング呼びかけセッション（15:15～15:55）

地域創生Coデザイン研究所

- ▶ 森林・林業DX、GX、地域まちづくり、観光等のテーマで地方創生を推進
- ▶ デジタルデータを活用した地域の脱炭素化や企業のカーボンニュートラル達成の支援

丸紅株式会社

- ▶ 海外由来商材の取引、カーボンクレジット創出、再生可能エネルギー事業等の脱炭素事業を多角的に展開
- ▶ J-クレジット創出を希望する自治体や林業事業者との連携を希望

オムロン ソーシャルソリューションズ株式会社

- ▶ 制御機器製造やヘルスケアを主要事業とするオムロングループの社会システム事業を担う
- ▶ 広葉樹等の新たな木材サプライチェーン構築事業への連携自治体を募集

ヤマハ発動機株式会社

- ▶ 上空から木の直径まで正確に計測できる無人ヘリによる森林情報のデジタル化サービスを提供
- ▶ 当該サービスを利用し、改善点などを定期的にフィードバックする自治体を募集

DeepForest Technologies株式会社

- ▶ 森林の課題を解決するための技術開発を行う京都大学初のスタートアップ企業
- ▶ ドローンで取得した森林のデータから樹種・材積など森林情報を解析するソフトウェアを開発・販売

北海道北広島町

- ▶ ゼロカーボントウンを宣言し、町をあげて脱炭素を推進
- ▶ 「新たな森林資源活用ビジョン」に掲げるテーマ（林業・木材産業の振興、町民と森林の関わり、公益的機能の発揮、新たな森林の価値創出）にともに取り組み企業を募集

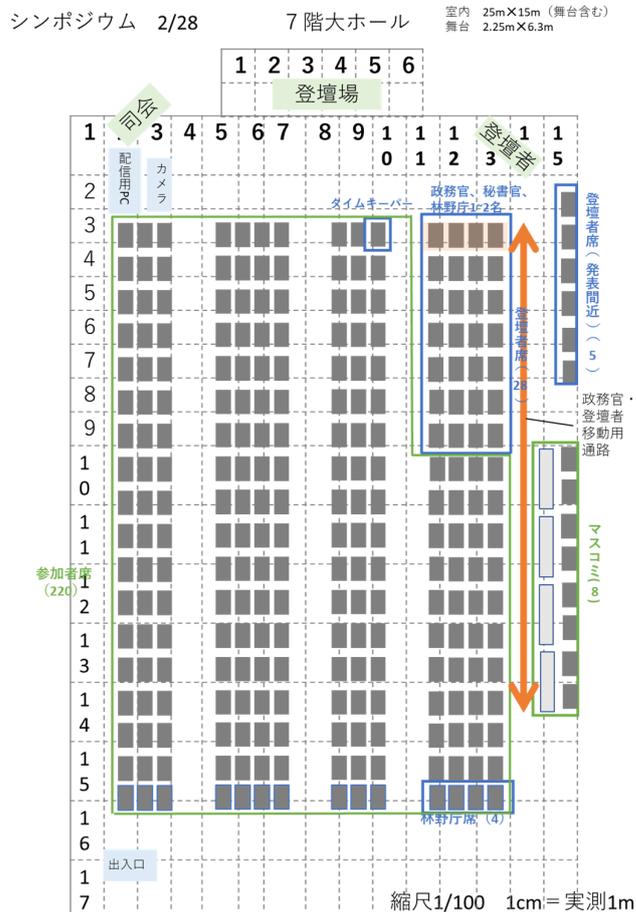
日本製紙株式会社

- ▶ 日本各地にエリートツリー採取園を整備しており、国内でエリートツリー苗木の最大規模の生産能力を有する
- ▶ 自治体と連携してエリートツリーの植栽、生産を実施

TIS株式会社

- ▶ ブロックチェーン等のIT技術により森林資源の循環利用を促進するためのプログラム「WOOD DREAM DECK」を運営
- ▶ 2024年6月に創設予定の、森林の新しい価値の創出やそのPRを行う連合体への参画を希望する企業や自治体を募集

会場レイアウト (7階大ホール)



シンポジウム当日は、現地参加・オンライン参加者を含め、約724人の方にご参加いただきました

当日の参加状況

■ 参加状況

参加人数	約724名 現地参加:124名 オンライン：約600名 ※関係者・マスコミ含む
------	--

■ 当日の様子

第1部



第2部



83 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

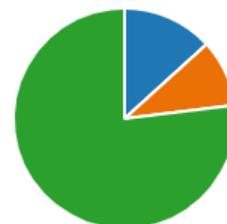
事後アンケートでは、第1部・第2部共に約9割の方に「有意義だった」「どちらかといえば有意義だった」と回答いただきました

事後アンケート結果：全体集計

実施期間	2024年2月28日～3月6日
回答数	195件

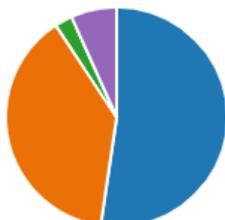
参加したプログラム（単一回答）

● 第1部	27
● 第2部	20
● 第1部・第2部両方	157



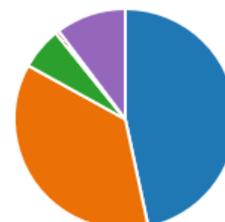
第1部の感想（単一回答）

● 有意義だった	102
● どちらかといえば有意義だった	75
● どちらかといえば有意義でなかった	5
● 有意義でなかった	0
● 参加していない	13



第2部の感想（単一回答）

● 有意義だった	91
● どちらかといえば有意義だった	71
● どちらかといえば有意義でなかった	12
● 有意義でなかった	1
● 参加していない	20



84 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

第1部に関しては、参加者の取組の参考になったという点やクレジットに関わるステークホルダーの取組・立場を理解できたといった感想が寄せられました

事後アンケート結果：第1部に対する感想

項目	感想詳細
参加者の事業・取り組みの参考になった	<ul style="list-style-type: none">・当社が抱えている課題に対するヒントを得た・同じ電力として九州電力様の取組は参考になった・売り側の苦勞、買い側が求める部分など、全体的に内情を聞く機会を得られ、有意義に感じた・クレジットを販売する県の事務や、企業の内部でもクレジット購入のガイドラインが必要など整理すべきことが分かった
クレジットに関わるステークホルダーの取組・立場を理解できた	<ul style="list-style-type: none">・各社の取り組みや苦勞した点を伺えた・クレジットの創出者、購入者、取引所など、それぞれの立場からの現状、課題の認識について聞くことができた・創出者、仲介者、需要者の生の声が聞けた・需要側やプロバイダーの考え方が分かった
Jクレジットに対する理解が深まった	<ul style="list-style-type: none">・Jクレジットの難しさの勘所が理解できた・Jクレジット創出時の課題、ポイントが理解できた・クレジット創出、活用している自治体や企業について興味があったが、背景や方法論、それにより何が実現されたのかまで知ることができた・Jクレジットが必ずしも売れるものではないということが分かった
その他	<ul style="list-style-type: none">・トークセッションの中でクレジット価格を低下させていくための議論がありましたが、需要側と供給側で価格に対しての見方が違うという点は視点が異なり興味深かった・（クレジットの）価格の妥当性を考えられた

85 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

一方で、Jクレジットに関する内容面の充実、広報的側面が多かった点、オンライン上の音声不明瞭であったことなどが、要望・改善点として寄せられました

事後アンケート結果：第1部に対する要望・改善

項目	感想詳細
Jクレジットに関する内容をより充実させてほしい	<ul style="list-style-type: none">・希望を言えば、森林クレジット組成までの事例紹介などがあれば参考になるので検討いただきたい・トークセッションは森林由来系が高く売れないなどの話に終始しており、今後どのように森林由来クレジットを取り巻く環境が変化していくかなどポジティブな話が聞けたらよかった・もう少し需要家としての地方公共団体の声を聴きたかった・クレジットの仕組みが分かりづらい
広報的側面が多かった	<ul style="list-style-type: none">・Jクレジットの価値、取り巻く情勢等、情報提供が少ないと感じた。プロバイダ、プラットフォーム等のクレジットを利用する側の広報的なものが多かった・既知の情報や自社製品のPRが多かった
オンラインの音声不明瞭であった	<ul style="list-style-type: none">・音飛び等で話が半分分からなかった・音声がとぎれとぎれであり内容が理解できにくかった。トークセッションも声がこもりほとんど聞き取れなかった

86 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

第2部では、参加者の今後のマッチング・取組の参考になったという声が寄せられました

事後アンケート結果：第2部に対する感想

項目	感想詳細
マッチングの参考になった	<ul style="list-style-type: none">・自分が住む自治体と企業のマッチングも可能ではないかと感じることができた・様々な企業の方が森林資源を活用した地域活性化に取り組んでいることが知ることができた。行政のみで悩まずにこういった方々との連携が、大変重要であると感じた・実際に当市で採用できるかは別として、マッチングの呼びかけ内容に興味がわいたため・マッチングのサイトは有効
参加者の事業・取り組みの参考になった	<ul style="list-style-type: none">・自治体が先導してやらなければいけないという思いからどうしても二の足を踏んでいたが、民間の力を頼るという選択肢ができたことは有意義だった・ビジョンとストーリーがなければ、いかに森林由来オフセットを利用したといえども、単なるカーボンウォッシュの疑いをもたれてしまう可能性があること等、今後の進め方の参考になった・弊社が提携している自治体でも皆伐後の育林については苦労しているようなので、そのヒントになるような取り組みがあったので興味深かった
各社の取組・動きを理解できた	<ul style="list-style-type: none">・ニーズ、シーズの双方からの話が聞けたこと、そのプラットフォームの動きだしを感じることもできた・自治体さんや他社さんがどのような要望やツールを有しているかが分かった・協業を求める姿勢が刺激になった。弊社も同様に積極的に取組みたい
その他	<ul style="list-style-type: none">・森林環境譲与税に関連した事例の紹介が参考になった・ディスカッションはなくて多くの実践報告や取り組みが見たかった

87 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

一方で、情報が多すぎ内容が分かりづらかったという点や双方向の参加形態ではなかった点などが、要望・改善点として寄せられました

事後アンケート結果：第2部に対する要望・改善

項目	感想詳細
林業に詳しくない企業・自治体の巻き込みに関して聞きたかった	<ul style="list-style-type: none">・シンポジウムに参加していない、林業に詳しくない企業や自治体に興味を持たせるにはどうしたらいいか。『どうやって引き込むか』という点について、できれば泥臭い話が聞ければ尚良かった
内容が分かりづらかった	<ul style="list-style-type: none">・いろいろなことを盛り込んで情報があったので、最終的にはクレジットと関連するとは思うものの、わかりづらかった・早すぎてよく分からなかった（全体に詰め込みすぎ）
双方向の参加形態ではなかった	<ul style="list-style-type: none">・話が一方向でどうするのが無かった
今後の参考になりづらかった	<ul style="list-style-type: none">・当社の規模では、活用できる提案は無いように感じた・創出支援がメインで本市に活かせる取り組みは特になかった
既知の情報であった	<ul style="list-style-type: none">・既にお聞きしたことのある企業が多かった
その他	<ul style="list-style-type: none">・マッチングに係わるトークセッションもしてほしかった・山に還元されるイメージが湧かなかった・少ししか参加出来ずで一部企業の説明しか聞けなかった

88 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

シンポジウムの様子はアーカイブ動画としてmaffchannel (YouTube)で公開しています

シンポジウムアーカイブ動画

URL : https://www.youtube.com/watch?v=eKEIdQI_Ho0

式次第：第1部

10:30	開会挨拶	高橋農林水産大臣政務官
10:40	クレジット創出拡大のツール紹介 クレジット創出の事例紹介	有限責任監査法人トーマツ
	石川県における県有林J-クレジットの取り組みについて	石川県
10:55	社有林「さがわの森」J-クレジット創出を振り返って	佐川林業株式会社
	九州電力社有林におけるJ-クレジット創出の取り組みについて クレジット活用の事例紹介	九州林産株式会社
	J-クレジットの地産地消推進によるサステナビリティ実現に向けた取り組みについて	株式会社山陰合同銀行
11:25	森林クレジットの活用事例 ー私たちほどこだけ子供たちに自然を残せるのだからーカーボン・オフセットで「長崎の森林」を守ります	長瀬産業株式会社 ヤベホーム株式会社
11:55	休憩	
12:55	GXリーグ賛同企業向けアンケート 実施結果の公表	有限責任監査法人トーマツ 株式会社三井物産戦略研究所 本郷尚 株式会社アスエネ/Carbon EX株式会社 隠山貴之
13:10	トークセッション	山陰合同銀行 井上奈 東京証券取引所 松尾謙己 長瀬産業株式会社 成田昇 e-dash株式会社 山崎冬恵 一般社団法人more trees 水谷伸吉 有限責任監査法人トーマツ
14:15	事例集・ポータルサイト紹介	
14:25	小休憩	

令和5年度森林シンポジウム ～J-クレジット・民間資金による森林整備と脱炭素貢献～ アーカイブ動画

MAFF maffchannel
チャンネル登録者数 3.68万人

チャンネル登録

高評価 共有 保存

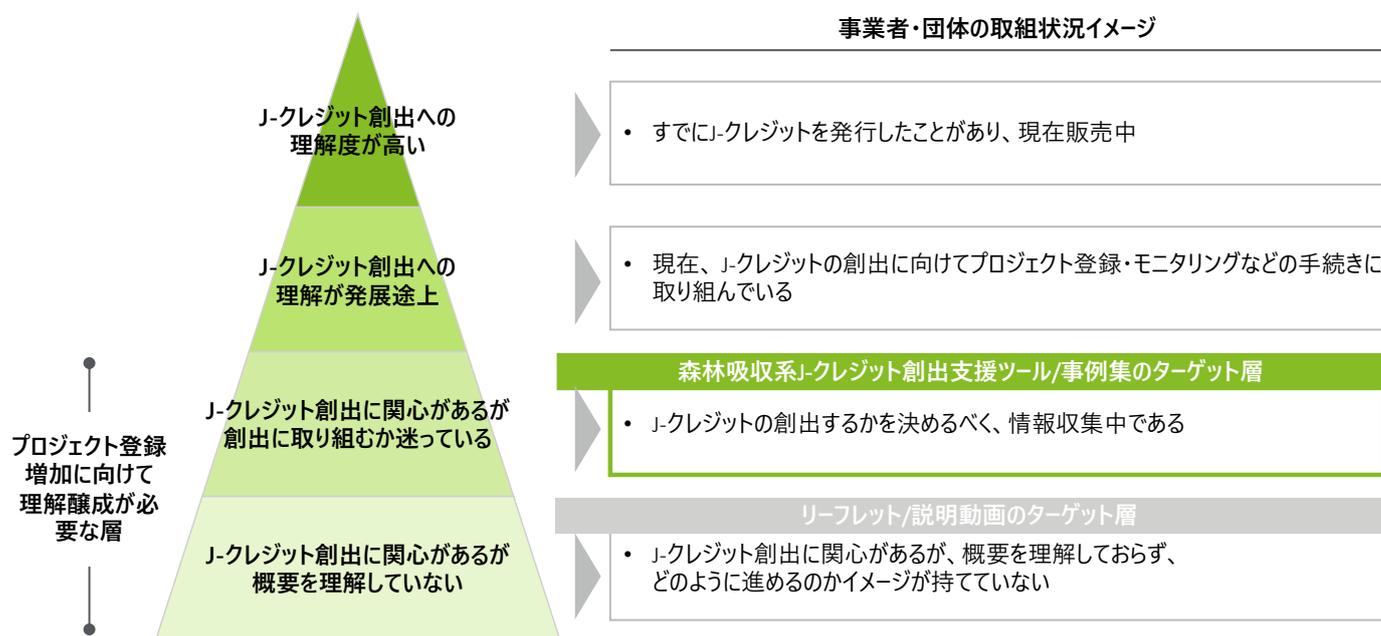
89 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

③ 民間資金活用促進に向けた普及活動 ウ 事例集の作成

90 令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト

森林吸収系J-クレジットの創出に関心があるがクレジット創出を検討中の事業者向けに事例集を作成しました

事例集の作成 (1/2)



ヒアリングにより先進事例の企画、申請、プロジェクト実施等に係る工夫点や苦労した点をとりとめた事例集を作成しました

事例集の作成 (2/2)

目的 これまでに森林吸収系J-クレジットを創出した団体における、企画、申請、プロジェクト実施等に係る工夫点や苦労した点等をとりとめた事例集を作成し、森林関係者へ普及することにより、実践的な創出ノウハウの横展開を図る

対象事例

- クレジット創出主体別に、森林吸収系J-クレジット創出において先進事例を抽出した

カテゴリ	プロジェクト実施者
自治体	北海道美深町
	秋田県横手市
	熊本県小国町
森林組合	上伊那森林組合
	山国川流域森林組合
企業	東武鉄道株式会社
	須山木材株式会社

事例集作成におけるポイント

- 事例集は、以下にポイントに留意して作成した。

- 各事例において参考となりうるポイントを一覧でまとめることで、読み手の関心に応じて読みやすい設計とした
- 各創出主体別に対象森林の概要、クレジット創出の概要やその間の施業をまとめることで、概要を掴みやすく設計した
- 企画、申請、プロジェクト実施等の段階別に苦労した点や工夫した点をとりとめていくことで、実践に即して各段階での留意点を把握できるように作成した



山の炭素吸収応援プロジェクト

森林吸収系 J-クレジット創出支援ツール

森林吸収系J-クレジット創出支援ツールの使い方

<J-クレジット申請で求められるものと本創出支援ツールの違い>

本ツールはあくまでのクレジット創出量の概算を計算するためのものであることに留意するようお願いします。

#	シート	J-クレジット申請で求められるもの	本創出支援ツール
1	吸収量計算	施業履歴の根拠資料	施業履歴見込み
2	樹種別材積表table	都道府県ごとの地位別材積表	既存の公表データ（任意でも入力可）
3	パラメータ	J-クレジットの方法論で規定されたパラメータ	J-クレジットの方法論で規定されたパラメータ

<算定に当たってご準備が必要なもの>

- ・森林簿
- ・森林経営計画
- ・施業履歴見込み
- ・樹種ごとの出荷予定量*

出荷伝票*の必要性

2022年8月より、伐採木材の炭素固定量もクレジット化できるようになりました。それにより、プロジェクト実施地で生産した原木の出荷量をもとに、伐採木材が永続的とみなされる期間（90年以上）利用される分の炭素固定量を推計し、プロジェクト全体の森林吸収量の一部として算定対象に追加することが可能となりました。

<使い方>

1. 「【ユーザー入力必要】施業・保護による吸収量・排出量」シートに必要な情報を入力する

(1) クレジットを創出することを予定している期間（開始日と終了日）を入力する

施業・保護による吸収量・排出量算定シート				ユーザーが手入力する欄			
認証期間							
クレジットを創出したい期間（8～16年間で設定し、開始・終了の年度を記載）	開始	2023	年度	← 数値（西暦）を入力する			
	終了	2038	年度	← 数値（西暦）を入力する			

(2) 森林や森林経営計画をもとに、森林の概況欄に必要な情報を入力する

・お手元の森林簿や森林経営計画の項目と本シートの項目に相違がないか確認した上で、必要情報を入力してください。

ユーザー入力用シート						
ユーザー手入力						
2021年時点						
森林の概況（森林簿、森林経営計画等から入力）						
林班	小班	枝番	林種	面積	樹種	林齢
1	い	1	育成林	0.50	スギ	30
1	ろ	2	育成林	0.40	ケヤキ	20
1	は	3	育成林	0.49	スギ	20
2	い	1	天然生林	0.45	ヒノキ	20
2	ろ	2	育成林	1.50	スギ	20
3	い	1	育成林	0.20	アカマツ	34
3	ろ	2	育成林	1.00	スギ	30
3	は	3	育成林	0.50	スギ	25
3	に	4	育成林	1.20	スギ	30
3	ほ	1	育成林	2.10	ヒノキ	20
4	い	1	育成林	0.30	スギ	35

林種

ブルダウンから、育成林・天然生林のいずれかを選択する

(3) 森林簿をもとに、施業履歴（施業種・施業年・施業面積）を入力する

・お手元の森林簿の項目と本シートの項目に相違がないか確認した上で、必要情報を入力してください。

施業履歴		
施業種	施業年	施業面積 (ha)
保育(下刈り、つる切り、除伐、枝打ち)	1990	0.50
間伐	1991	0.40
間伐	1992	0.49
間伐	1991	1.50
間伐	1990	0.20
保育(下刈り、つる切り、除伐、枝打ち)	1991	1.00
造林(植栽、地寄せ、芽かき)	1996	0.50
間伐	2000	1.20
保育(下刈り、つる切り、除伐、枝打ち)	2000	0.30

施業種
ブルダウンから、**施業種**を選択する

(4) 施業・保護の予定を入力する

- ・樹種を入力してください。（「森林の概況」欄と同一の想定）
- ・「間伐等の施業・保護の予定」欄に、施業種、施業実施予定年度、施業予定面積を入力してください。
- ・「主伐後の再造林」については、「再造林する（一括計上ルールを適用）」「再造林する（一括計上ルールを適用しない）」「再造林しない」のいずれかを選択してください。
- ・「再造林する（一括計上ルールを適用）」を選択した場合は、2で【ユーザー入力必要】樹種別材積表tableに入力した標準伐期齢に達するまでの吸収量が算出されます。
- ・「再造林する（一括計上ルールを適用しない）」を選択した場合は、認証対象期間中における毎年度の吸収量が算出されます。

ユーザー手入力						
施業・保護の予定						
樹種	間伐等の施業・保護の予定			主伐及び主伐後再造林の予定		
	施業種	施業実施予定年度	施業予定面積 (ha)	主伐予定年度	主伐面積	主伐後の再造林
スギ	間伐	2025	0.50	2030	0.50	再造林する（一括計上ルールを適用）
ケヤキ	保護(森林病虫害の駆除及び予防/鳥獣害の防止/火災の予防/境界確認/森林の巡視)	2026	0.40			
スギ	間伐	2026	0.49	2030	0.49	再造林する（一括計上ルールを適用しない）
ヒノキ	保護(森林病虫害の駆除及び予防/鳥獣害の防止/火災の予防/境界確認/森林の巡視)	2028				再造林しない
スギ	保護(森林病虫害の駆除及び予防/鳥獣害の防止/火災の予防/境界確認/森林の巡視)	2029				再造林する（一括計上ルールを適用）
アカマツ	保護(森林病虫害の駆除及び予防/鳥獣害の防止/火災の予防/境界確認/森林の巡視)	2023	0.20			再造林する（一括計上ルールを適用しない）
スギ	間伐	2024	1.00			
スギ	間伐	2024	0.50			
スギ	保護(森林病虫害の駆除及び予防/鳥獣害の防止/火災の予防/境界確認/森林の巡視)	2024	1.20			
ヒノキ	間伐	2024	2.10			
スギ				2030	0.30	再造林する（一括計上ルールを適用）

樹種・施業種
ブルダウンから、**樹種・施業種**を選択する

主伐予定年度・主伐面積
森林経営計画から、主伐予定年度（数値、西暦）及び主伐面積（数値、単位：ha）を記載する

主伐後の再造林
ブルダウンから、再造林しない/再造林する（一括計上ルールを適用）/再造林する（一括計上ルールを適用しない）を選択する

2. 「【ユーザー入力必要】樹種別材積表table」シートに必要な情報を入力する

- ・和歌山県、岐阜県、森林総合研究所北海道支所の公表データを使用しています。
- より正確な算定をしたい場合は、ご自身が施業されている都道府県の収穫表のデータを手入力いただくことも可能です。
- ・主伐後の再造林の吸収量算定のため、ご自身が施業されている自治体の市町村森林整備計画で該当樹種の標準伐期齢等を確認し、その林齢（数値）を入力してください。
- ・シート右側に記載している「標準伐期齢等のCO2吸収量」の注意書きもご参照ください。

※シート右側にあります

項目	標準伐期齢等							
	スギ	ヒノキ	ブナ	ケヤキ	アカマツ	トドマツ	カラマツ	
林齢	35	45	20	20	45	45	45	←ユーザー手入力
幹材積(m3/ha)	369	351	55.57	55.57	220.6	194	267	↓自動計算
拡大係数	1.23	1.24	1.58	1.58	1.23	1.38	1.15	↓自動計算
容積密度	0.314	0.407	0.573	0.611	0.451	0.318	0.404	↓自動計算
地下部率	0.25	0.26	0.26	0.26	0.26	0.21	0.29	↓自動計算
炭素含有率	0.51	0.51	0.48	0.48	0.51	0.51	0.51	↓自動計算
CO2(t/ha)	333.1	417.4	111.6	119.0	288.3	192.6	299.2	↓自動計算

地域の市町村森林整備計画で該当樹種の標準伐期を確認し、その林齢（数値）を入力する

3. 「【ユーザー入力必要】伐採木材による吸収（固定）量」シートに必要な情報を入力する

- ・伐採木材による吸収（固定）量の見込を算定したい場合に入力ください。
- ・樹種ごとの原木出荷量について、過去の実績値から平均を算出するなどの方法で現時点での見込み値を把握してください。
- ・製材／合板／木質ボードの用途別の割合等は、統計データから引用しています。

伐採木材による吸収（固定）量算定シート			
伐採木材によるCO2固定量合計 (t-CO2)			
25.0			
ユーザー手入力			
任意入力		必須	
伐採年度	林小班（代表地）	樹種	出荷量
西暦	固有名詞		m3
2024	TTTT町XXXX字	スギ	104
2024	TTTT町XXXX字	ヒノキ	126
2025	TTTT町XXXX字	スギ	50
2026	TTTT町XXXX字	スギ	42
2030	TTTT町XXXX字	スギ	165
2031	TTTT町XXXX字	アカマツ	30

4. クレジット創出量を把握する

- ・上記1~3で必要な情報を入力すると、「【自動計算】吸収量・排出量の集計」のシートに吸収量・排出量の分類別、年度別に表示されます。

クレジット創出量（吸収量・排出量）の集計結果		年度別のクレジット創出量内訳				
吸収量・排出量の分類	CO2-t	大項目	小項目	2023	2024	2038
育成林の吸収量	651.3	吸収量合計（必須項目）	育成林	1.1	36.2	42.4
天然生林の吸収量	34.7		天然生林	0.0	0.0	3.9
主伐による排出量	-480.9	排出量（必須項目）	主伐による排出量	0.0	0.0	0.0
再造林による吸収量	253.2	吸収量（任意項目）	再造林による吸収量	0.0	0.0	1.7
伐採木材による固定の吸収量	25.0	吸収量（任意項目）	伐採木材による固定の吸収量	0.0	11.2	0.0
合計	483.2					

施業・保護による吸収量・排出量算定シート

ユーザーが手入力する欄

認証期間

クレジットを創出したい期間（8～16年間で設定し、開始・終了の年度を記載）	開始	2023	年度
	終了	2038	年度

ユーザー入力用シート

2021年時点							2021年時点												
森林の概況（森林簿、森林経営計画等から入力）							施業履歴			施業・保護の予定									
林班	小班	枝番	林種	面積	樹種	林齢	施業種	施業年	施業面積 (ha)	樹種	間伐等の施業・保護の予定			主伐及び主伐後再造林の予定					
											施業種	施業実施予定年度	施業予定面積 (ha)	主伐予定年度	主伐面積	主伐後の再造林			
1	い	1	育成林	0.50	スギ	30	保育(下刈り、つる切り、除伐、枝打ち)	1990	0.50	スギ	間伐	2025	0.50	2030	0.50	再造林する（一括計上ルールを適用）			
1	ろ	2	育成林	0.40	ケヤキ	20	間伐	1991	0.40	ケヤキ	保護(森林病害虫の駆除及び予防/鳥獣害の防止/火災の予防/境界確認/森林の巡視)	2026	0.40						
1	は	3	育成林	0.49	スギ	20	間伐	1992	0.49	スギ	間伐	2026	0.49	2030	0.49	再造林する（一括計上ルールを適用しない）			
2	い	1	天然生林	0.45	ヒノキ	20				ヒノキ	保護(森林病害虫の駆除及び予防/鳥獣害の防止/火災の予防/境界確認/森林の巡視)	2028	0.45						
2	ろ	2	育成林	1.50	スギ	20	間伐	1991	1.50	スギ	保護(森林病害虫の駆除及び予防/鳥獣害の防止/火災の予防/境界確認/森林の巡視)	2029	1.50						
3	い	1	育成林	0.20	アカマツ	34	間伐	1990	0.20	アカマツ	保護(森林病害虫の駆除及び予防/鳥獣害の防止/火災の予防/境界確認/森林の巡視)	2023	0.20						
3	ろ	2	育成林	1.00	スギ	30	保育(下刈り、つる切り、除伐、枝打ち)	1991	1.00	スギ	間伐	2024	1.00						
3	は	3	育成林	0.50	スギ	25	造林(植栽、地寄せ、芽かき)	1996	0.50	スギ	間伐	2024	0.50						
3	に	4	育成林	1.20	スギ	30	間伐	2000	1.20	スギ	保護(森林病害虫の駆除及び予防/鳥獣害の防止/火災の予防/境界確認/森林の巡視)	2024	1.20						
3	ほ	1	育成林	2.10	ヒノキ	20				ヒノキ	間伐	2024	2.10						
4	い	1	育成林	0.30	スギ	35	保育(下刈り、つる切り、除伐、枝打ち)	2000	0.30	スギ				2030	0.30	再造林する（一括計上ルールを適用）			

森林吸収系 J-クレジット制度 について



J-クレジット制度とは



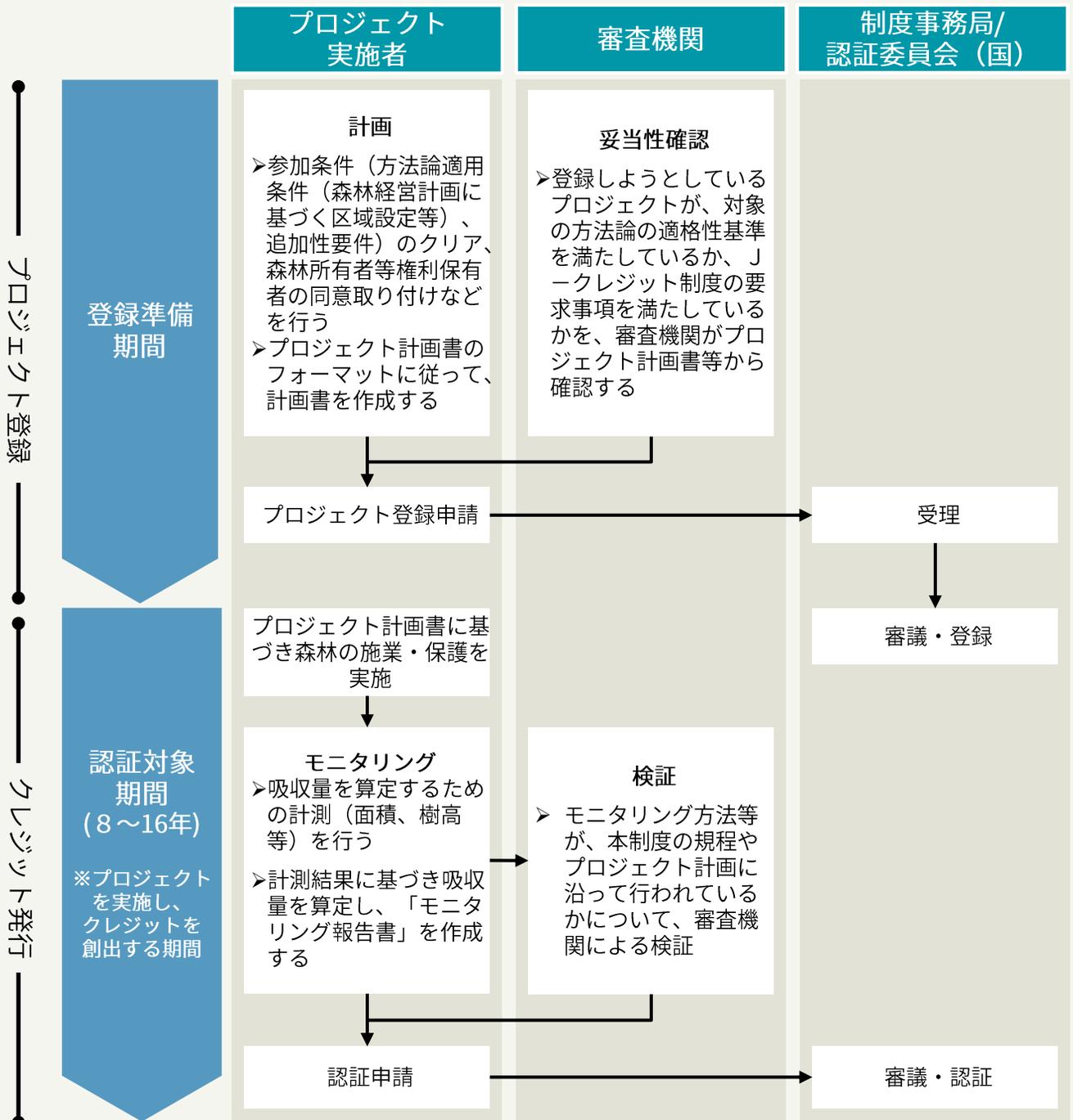
省エネ設備の導入や再生可能エネルギーの活用によるCO₂の排出削減量や適切な森林管理によるCO₂の吸収量を、クレジットとして国が認証する制度です。
森林吸収系J-クレジットとは、これらJ-クレジットのうち、森林経営活動や植林活動の取組（プロジェクト）から生じたものです。



- プロジェクトの実施に係る要件や排出削減・吸収量の算定方法等は、「方法論」と呼ばれる文書に規定されており、合計70の方法論が承認されています。森林吸収量を認定する方法論としては、「森林経営活動（FO-001）」、「植林活動（FO-002）」、「再造林活動（FO-003）」の3種類があります。
- このパンフレットでは、「森林経営活動（FO-001）」の実施手続き等についてご紹介します。



クレジット創出の流れ



★吸収量の算定は年度単位で行い、検証の申請は認証対象期間中であれば任意の頻度で行うことが可能

★認証期間終了後10年間は、持続性の担保のために森林経営計画を継続的に作成することが必要

プロジェクト登録に必要な提出書類

(☆) の計画書等の様式は、J-クレジット制度Webサイトからダウンロード可能です。

<https://japancredit.go.jp/application/document/>

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| ①プロジェクト計画書(☆) | ⑤収穫予想表 |
| ②プロジェクト登録申請書(☆) | ⑥J-クレジット制度利用に係る誓約書(☆) |
| ③森林経営計画認定書 | ⑦持続性確認覚書(☆) |
| ④森林経営計画 | ⑧森林説明会実施記録(☆) |
| | ⑨妥当性確認報告書(☆) |



森林経営活動のプロジェクトを実施するための条件

プロジェクト登録には、6つの適用条件と追加性の要件を満たすことが必要です。

適用条件1

登録は森林経営計画単位で行うこと

プロジェクト登録は、森林の所有者又は管理者が代表となって、その時点で有効な森林経営計画に基づきプロジェクト計画書を作成し、**森林経営計画の区域全体で登録**することが原則です。

※一定の条件を満たす場合には、区域の一部での登録も可能

適用条件4

土地転用が計画されていないこと

森林経営計画において、プロジェクト実施地の**土地転用が計画されていない**ことが必要です。

適用条件2

(吸収見込量-排出見込量) > 0

主伐による排出も含めて、**認証対象期間トータルでの正味の吸収量がプラス**である必要があります。

適用条件5

持続性の担保（森林経営計画の継続作成）

吸収量を排出のオフセットに活用するためには、将来にわたってその成果を損なわせない措置（持続性の担保）が必要であり、**認証対象期間終了後10年間は森林経営計画を継続して立て続ける**ことを約束する必要があります。

適用条件3

間伐等の実施を1箇所以上計画すること

認証対象期間内に、森林経営計画に基づく**造林又は保育、間伐が1箇所以上計画**されていることが必要です。

適用条件6

環境社会配慮と持続可能性の確保

森林法、労働安全衛生法などの**関連法令を遵守**することが必要です。

追加性を有すること

プロジェクトの登録には、**クレジット制度がなければ実施困難であったと認められる「追加性」の証明**が求められており、森林経営活動については、収支見込みの提出により**プロジェクトが赤字見込みであることを証明**することが必要です。

※以下に該当する場合は赤字になる蓋然性が高いとみなされるため、追加性の評価が不要となります。

- ・主伐が計画されている全ての森林について、その更新方法として（天然更新ではなく）再造林を計画している場合
- ・主伐を計画していない場合（間伐等の施業のみ計画）

森林吸収系J-クレジットの創出見込み量を把握する

まずは、森林吸収系J-クレジット創出支援ツールを使って、所有・管理している森林のクレジット創出見込み量を把握してみましょう

算定に必要な主なデータ

- ・ 林小班ごとの面積、樹種、林齢、林種、施業履歴、施業予定 など
- ※森林簿、森林経営計画等のデータを使用

森林吸収系J-クレジット創出支援ツール (Excel)



所有・管理している森林のクレジット創出量（見込み）を簡易に算定



森林吸収系J-クレジット創出支援ツール (Excel) のダウンロードは下記URLまたはQRコードからご参照ください
URL : https://www.rinya.maff.go.jp/j/sin_riyou/ondanka/J-credit.html



③ クレジットを販売する

クレジットを販売することによって、はじめて収益を得ることができます。森林吸収系J-クレジットの販売は相対取引と市場取引の2つにより行われており、それぞれの特徴を踏まえ、創出者が自由に販売方法を選択することができます。

販売方法		具体的な内容
相対取引	J-クレジット制度HPを利用	J-クレジット制度HP上の「売り出しクレジット」の一覧に、認証済み（予定）のクレジット情報を掲載する。 https://japancredit.go.jp/sale/
	仲介事業者を利用	制度管理者により登録されたJ-クレジット・プロバイダーなど、J-クレジットの売買を支援する事業者を通じて取引を実施する。 ※J-クレジット・プロバイダー（2024年1月末現在で登録されている事業者） https://japancredit.go.jp/market/offset/ ※登録プロバイダー以外にも、地方銀行、民間コンサルタント、民間企業によるカーボン・クレジット取引オンラインプラットフォームなど、様々な取引仲介サービスがある。
	自ら販売先を探す	創出者自身のネットワークの活用や、HPへの掲載等により、販売先を募集する。
市場取引		カーボン・クレジット市場等を利用して取引を実施する。 ※令和5年10月に東京証券取引所のカーボンクレジット市場が開設。 そのほかにも、市場開設の動きがみられる。

よくある質問

Q1 どのような主体がプロジェクト実施者になることができますか？

A：プロジェクト計画の登録申請を行うことができるのは、対象となる森林を自ら所有又は管理する者（「森林所有者」又は「森林施業に関する受委託契約等に基づく管理者」）です。

※自ら森林を所有又は管理していないがプロジェクトの実施に関わる者が共同でプロジェクト実施者になることも可能ですが、プロジェクト実施の代表者は森林を自ら所有又は管理する者とする必要があります。

Q2 「モニタリング」では何を行うことになりますか？

A：カーボン・クレジット制度において「モニタリング」とは、プロジェクトを実施したことにより達成できた排出削減量や吸収量を計測することを言います。森林管理プロジェクトにおけるモニタリングでは、面積の測定や、収穫予想表等を用いた幹材積成長量の算定等を行った上で、枝や根等も含めた炭素蓄積量を各種係数等を利用して計算し、異なる2時点間の炭素蓄積量の増加量（CO2換算値）を吸収量として算定します。

Q3 クレジットの創出にはどのような経費がかかりますか？

A：妥当性確認やモニタリングの検証に係る審査の費用が発生するほか、例えばモニタリングに係る調査の実施及び報告書の作成、認証申請、制度事務局への年次報告等に係る事務の経費が発生します。このため、長期にわたるプロジェクトの実施を担う人員体制を確保することも必要です。

ご参考：妥当性確認やモニタリングの検証に係る審査の費用 https://japancredit.go.jp/data/pdf/credit_002.pdf

問い合わせ先

- J-クレジット制度事務局 jcre-info@mizuho-rt.co.jp
050-3173-8916
- 林野庁森林利用課 03-3502-8240

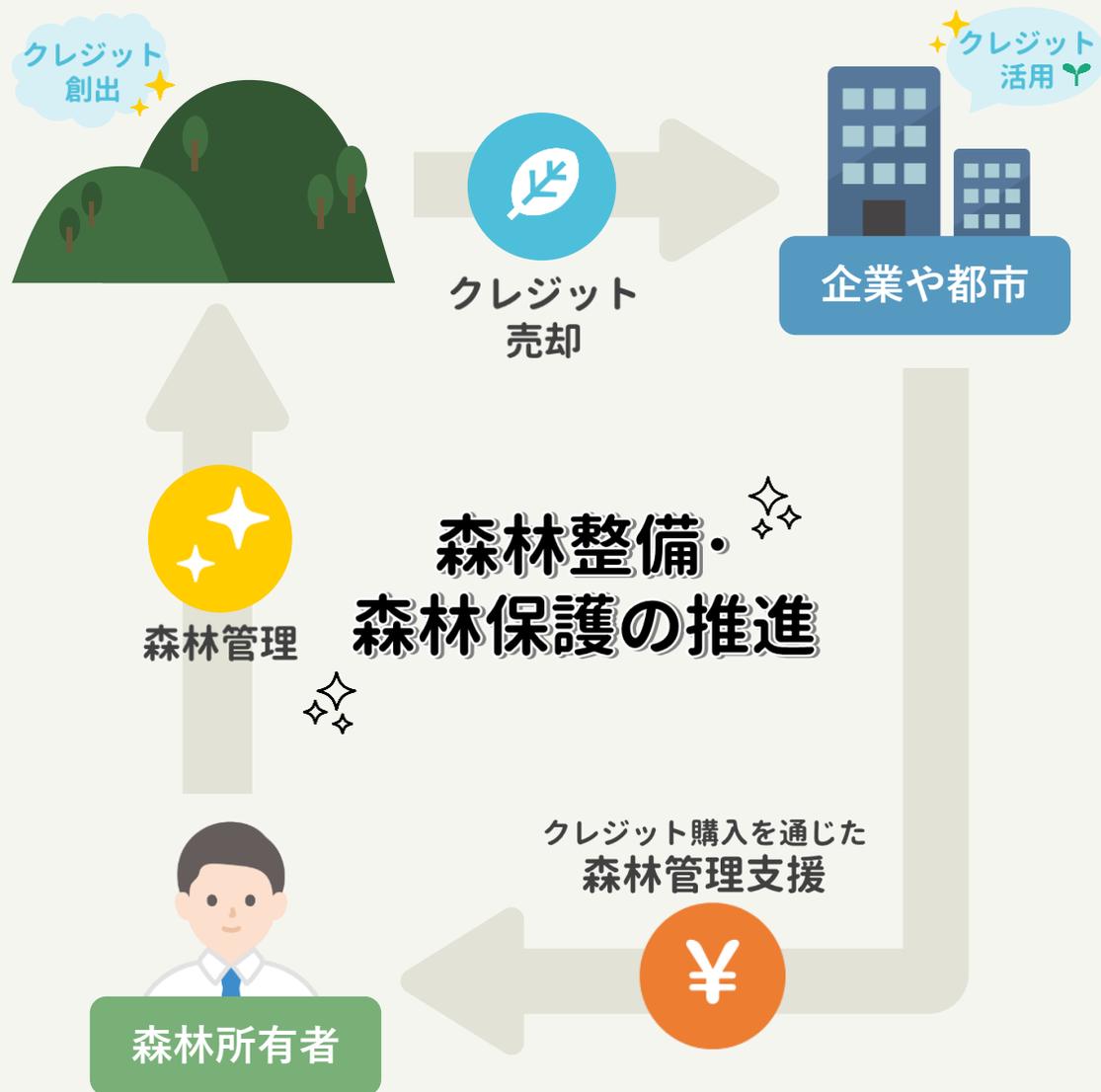
【林野庁ホームページ】

https://www.rinya.maff.go.jp/j/si_n_riyou/ondanka/J-credit.html



森林吸収系 J-クレジット 事例集

林野庁



はじめに

2050年のカーボンニュートラルの実現を図る上では、CO₂の排出が避けられない分野も存在することから、J-クレジットの創出を拡大していく必要性が掲げられており、とりわけ森林経営活動等を通じた森林吸収系J-クレジットへの期待は今後ますます高まると見込まれています。

森林吸収系J-クレジットのプロジェクト登録件数は2020年度以降、増加傾向にあり、それに伴い森林経営活動によるクレジット認証量も年々増加しています。また、2022年度に主伐を含むプロジェクトでも活用しやすいように大幅な制度見直しを行ったことにより、森林吸収系J-クレジットの創出に関心を持つ事業者はさらに増加傾向にあります。

一方、森林吸収系J-クレジットはプロジェクト登録やクレジットの認証申請における手続きが複雑であることや相対取引が中心であり取引形態が見えない等から、クレジット創出・販売の双方において、特に初めてクレジット創出に取り組む者にとってはハードルが高いものと想定されます。

本事例集では、森林吸収系J-クレジットの創出・販売に先進的に取り組む自治体・森林組合・企業に対しヒアリングを実施し、クレジットの創出に取り組むことになった背景、創出から販売までの各団体における取組の進め方、実施体制、クレジット収益の活用状況等をまとめ、実践的なクレジット創出と販売のノウハウの横展開を図ります。

2024年2月 林野庁

目次

カテゴリ	プロジェクト実施者	事例の特徴	ページ番号
自治体	北海道美深町	北海道美深町は民間企業への販売を確保した上で、クレジット創出の取組を開始	5頁
	秋田県横手市	秋田県横手市は、市と森林組合でクレジット販売を営業。中小企業や個人をターゲットにクレジットを販売	7頁
	熊本県小国町	熊本県小国町は、クレジットを購入した民間企業と連携してクレジット収益用途を検討	9頁
森林組合	上伊那森林組合	上伊那森林組合は、森林所有者との長年の信頼関係により合意形成を進め、分収林でクレジット創出中	11頁
	山国川流域森林組合	山林所有者からの要望でクレジット創出へ。審査費用支援や過去の補助金申請のノウハウを活用した効率的な創出事例	13頁
企業	東武鉄道株式会社	東武鉄道では、自社社有林の活用が課題であり、山林保護費用の補填のためにクレジットを創出開始	15頁
	須山木材株式会社	J-クレジットを中心に、森林・地元企業・消費者全員にとっての正の循環が生まれ、林業の活性化と地域経済に貢献	17頁

各事例の参考ポイント

凡例		創出・販売における課題や工夫点
		審査機関への対応の留意点

カテゴリ	プロジェクト実施者 (森林タイプ)	クレジット創出・活用のフロー				
		プロジェクト 組成	計画作成・ 登録申請	プロジェクト 実施、 モニタリング	クレジット認証	クレジット販売段 階
自治体	北海道美深町 (町有林)		審査機関の現地 実査後の対応	審査機関の現地 実査後の対応		クレジット購入者と 共同でのPR
	秋田県横手市 (市有林+私有林)	森林所有者 への説明		雪国での 現地実査対応		個人や県内 中小企業への 小口販売促進
	熊本県小国町 (町有林)		審査機関への測量 記録の提示			購入者とクレジット 用途の検討
森林組合	上伊那森林組合 (私有林、生産組合所有林、 社寺林)	森林所有者に 対するクレジット 創出の説明	J-クレジット 事務局 費用支援活用	← 現在、プロジェクト実施、モニタリング中のため 未実施 →		
	山国川流域森林組合 (私有林)		J-クレジット 事務局 費用支援活用		プロジェクト実施地 での災害による クレジット減少	
企業	東武鉄道株式会社 (私有林)	社内でのクレジット 創出を説明	審査機関への 測量記録の提示			クレジットの説明や 自社CSRとしての 活用
	須山木材株式会社 (私有林)	コンサルの 有効活用		森林組合との 役割分担		地銀と連携した 地域振興

北海道美深町 (1/2)

北海道美深町は民間企業への販売を確保した上で、クレジット創出の取組を開始しました

プロジェクト対象地の基本情報

プロジェクト実施者 (+共同実施者)	■ 北海道美深町
事業所等の所在	■ 北海道中川郡美深町
プロジェクト対象の 森林の所在地	■ 北海道中川郡美深町
プロジェクト対象の 森林の所有形態	■ 町有林

【プロジェクト対象地の地図】



※PJ計画書から抜粋

【プロジェクト対象の森林の現況】

林種等	施業経歴	樹種	面積 (ha)	
総面積			1,004.61	
人工林	間伐経歴あり	トドマツ	68.31	
		アカエゾマツ	11.24	
		カラマツ	8.32	
		シラカンバ	2.24	
		マカバ	1.52	
		トウヒ	1.34	
		グイマツ	0.72	
		除伐経歴あり	トドマツ	13.68
			グイマツ	2.88
			シラカンバ	3.52
			カラマツ	1.84
			アカエゾマツ	0.96
		天然林	間伐経歴あり	天然林広葉樹
	6.99			
	6.99			
無立木地			11.66	
人伐跡			10.45	
未立木地			1.21	

※PJ計画書から抜粋

クレジット創出・活用の概要

きっかけ	■ 町内にテストコースがある自動車メーカーが環境方針を宣言し、その一環で、地域との連携を検討し、同社からJ-クレジットの創出を相談された
------	--

【認証対象期間中の施業内容】 ※PJ計画書から抜粋

施業種類		年度別施業予定小班数及び面積(箇所、ha)											
		2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度	
主伐	トドマツ	2	9.08	3	3.99	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	カラマツ	1	1.69	0	0.00	2	2.61	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	トウヒ	0	0.00	0	0.00	1	0.36	0	0.00	0	0.00	0	0.00
		3	10.77	3	3.99	3	2.97	0	0.00	0	0.00	0	0.00
間伐	トドマツ	0	0.00	2	8.92	3	14.16	1	2.88	5	15.56	0	0.00
	タモ					2	1.32						
	アカエゾマツ	0	0.00	0	0.00	4	2.65	3	10.00	0	0.00	0	0.00
	カラマツ	0	0.00	0	0.00	2	1.72	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	トウヒ	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	2.24	0	0.00
	天然林広葉樹	0	0.00	1	3.84	6	5.84	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	0	0.00	3	12.76	17	25.69	4	12.88	6	17.80	0	0.00	
造林	トドマツ	3	6.70	3	11.29	3	4.19	4	4.48	1	1.52	0	0.00
		3	6.70	3	11.29	3	4.19	4	4.48	1	1.52	0	0.00
保育(下刈)	トドマツ	3	11.55	0	0.00	1	6.44	2	3.60	2	3.96	0	0.00
	クカ	1	1.47	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	カラマツ	4	9.78	1	1.69	1	1.69	1	1.69	1	0.16	0	0.00
	アカエゾマツ	8	7.59	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	トウヒ	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.36	0	0.00
	黒立木地	0	0.00	2	10.45	1	6.57	0	0.00	0	0.00	0	0.00
		16	30.39	3	12.14	3	14.70	3	5.29	4	4.48	0	0.00
合計	22	47.86	12	40.18	26	47.55	11	22.65	11	23.80	0	0.00	

認証対象期間/
クレジット認証
見込み量・
認証量/販売量

- 認証対象期間:2019年4月1日 ~ 2027年3月31日
- 認証見込み:11,311 t-CO2
- 認証量: 5,118t-CO2(2024年2月時点)
- 販売量: 2,122t-CO2(2024年2月時点)

主な販売先/
購入目的/
販売価格

- 販売先/購入目的
 - 株式会社SUBARU - 環境方針の一環
 - 日本航空株式会社 - カーボンオフセットの為
- 販売価格
 - 10,000円/t-CO2 (税抜)
 - ※購入量と頻度によって販売価格は変更

クレジット収益の
活用方法

- すべて町の森林整備事業に充当

北海道美深町 (2/2)

自治体

森林組合

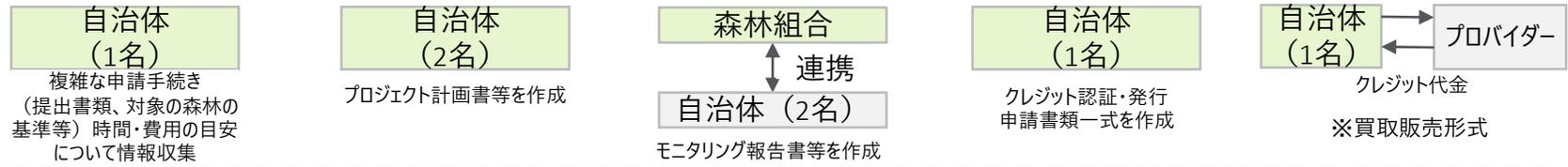
企業

プロジェクト登録日
2019年 8月21日

クレジット認証日
2021年 9月17日



実施体制



費用

(人件費：50万円)	<ul style="list-style-type: none"> 審査費用（全額費用支援）：115万円（人件費：130万円） 	<ul style="list-style-type: none"> 実踏調査費用：480万円（人件費：315万円） 	<ul style="list-style-type: none"> 審査費用（全額費用支援）：135万円（人件費：5万円） 	(人件費 15万円)
------------	---	---	---	------------

課題や苦勞した点

- 通常業務もあり人手がない中で対応が必要
- 複雑な申請手続き（提出書類、対象の森林の基準等）時間・費用の目安について情報収集に苦勞した
- 調査簿をもとに**想定値で、プロジェクト計画書を作成**
- 妥当性審査（現地調査）で**プロジェクト計画書と実態に乖離がある**ことが判明
- 森林計画図の図面の変更により、**林小班・森林経営計画の変更が必要**となった。また、森林情報を管理する北海道への報告・調整を行う必要があり、時間を要した
- 過去3回の申請で、毎回申請様式の変更があり、申請の度に新たな様式への入力が必要だった
- 路網が未整備のプロットがあり現地調査の対応に苦勞した
- 特になし
 - 町内に施設を有する民間事業者からの声掛けで森林吸収系J-クレジットの創出を開始。まとまった購入量を確保できていた

解決方法や工夫

- J-クレジット事務局主催のセミナーに参加し、効率的に情報収集した
- 第三者審査機関から指摘を受けた結果、**プロジェクト実施、モニタリング段階で、再度実測が必要**となった
 - 申請当時、実測図が存在していなかった
- 地域の森林組合に実踏調査を依頼した
- 新たに作成した図面は樹種ごとに着色し、わかりやすいようにした
- 航空写真等を活用し、わかりやすいようにした
- 最新の制度改正に対応するためJ-クレジット事務局主催のセミナー等に参加し、効率的に情報収集した。
- 航空写真やGPSを活用して踏査ルートを選定した
- SGECのCoC全体認証***を**公共施設として全国初取得**（英語版サイトあり）し、海外プロバイダーから問い合わせがあり新たな販売先を獲得した
- 購入企業とのPR活動**により、同取組への認知度向上に取り組む

実体験から失敗・学び

- クレジット創出前に**販売先を確保**できれば、**町内での調整やコンセンサスも得やすい**のではないかと
- 購入先への配慮から、吸収量確保の為主伐を控えていた。再生林による吸収量算定に関する規程（2022年8月）が新たに整備されたため、2023年以降は主伐を実施予定。J-クレジット制度の規程類の整備・改定を把握することで、クレジット創出量の確保に繋がることもある

秋田県横手市（+横手市森林組合）（1/2）

秋田県横手市は、市と森林組合でクレジット販売を営業。中小企業や個人をターゲットにクレジットを販売

プロジェクト対象地の基本情報

プロジェクト実施者 （+共同実施者）	■ 横手市 （+横手市森林組合）
事業所等の所在	■ 秋田県横手市
プロジェクト対象の 森林の所在地	■ 秋田県横手市
プロジェクト対象の 森林の所有形態	■ 市有林 （過去に平成24年に、市有林（189.55ha）と 民有林(23.68ha)でJ-VERの創出経験）

【プロジェクト対象地の地図】



※PJ計画書から抜粋

【プロジェクト対象の森林の現況】

- プロジェクト対象森林面積
4,230.9ha（うち、人工林は
2,520ha）
- 人工林のうち、樹種は以下の通り
 - ・ スギ 89.1%
 - ・ マツ 8.8%
 - ・ 他広葉樹 2.1%
- 林齢は10～12齢級が全体の
52.9%を占める

※令和2年度クレジット取得時のPJ計画書から抜粋

クレジット創出・活用の概要

きっかけ	<ul style="list-style-type: none"> ■ J-VER制度の頃に横手市森林組合から声掛け ■ 林業も木を切るだけでは立ち行かなくなってきた。森林の付加価値を他の手段で高めたいと思った
------	--

【認証対象期間中の施業内容】

■ 保育

施業種	時期
下刈	6～7月頃
つる切り	6～7月頃
除伐	8～10月頃
枝打ち	12～3月

■ 間伐

カテゴリ	間伐間隔
標準伐期末満	10年
標準伐期以上	15年

- ・ 全域で定性間伐を実施
- ・ 間伐率は概ね30%

※PJ計画書をもとにデロイトが作成

認証対象期間/
クレジット認証
見込み量・
認証量/販売量

- 認証対象期間：2012年3月1日～2026年3月31日（H23年3月認証～令和7年3月まで）
- 見込み：13,266t-CO₂
- 認証量：15,345t-CO₂(2020年2月時点)
- 販売量：11,600t-CO₂(2024年2月時点)

主な販売先/
購入目的/
販売価格

- 販売先/購入目的（一部抜粋）
 - ヨコウン株式会社
 - 運送業務で発生したCO₂のオフセット
 - よこてシティハーフマラソン実行委員会
 - マラソン大会で発生したCO₂のオフセット
- 販売価格
 - 10,000円/t-CO₂（税抜）

クレジット収益の
活用方法

- 森林組合・市双方、民有林整備事業に充当

クレジット
収益分配

- 主に森林面積の割合に応じて各団体へ分配
 - どちらか一方の営業の結果により収益を得た場合、営業報酬として得た収益の2割をその団体へ分配

秋田県横手市（+横手市森林組合）（2/2）

自治体

森林組合

企業

外部委託費用*はPJ計画から認証までをカバー



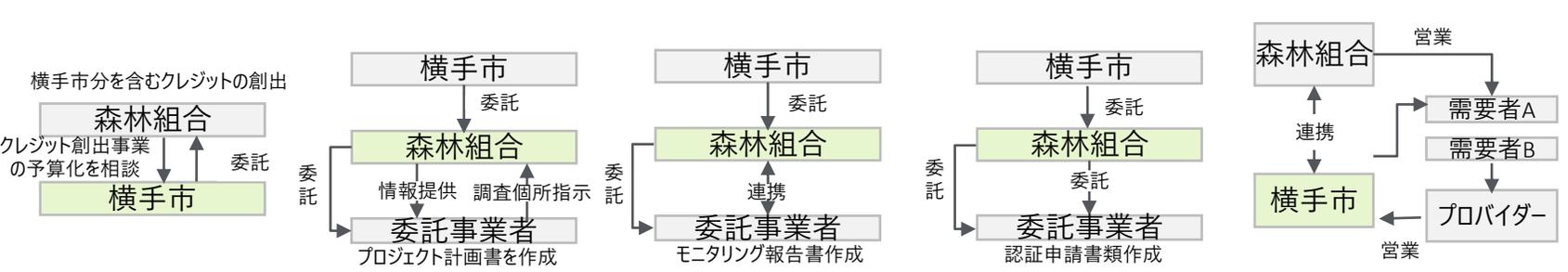
実施体制

費用

課題や苦勞した点

解決方法や工夫

実体験から失敗・学び



- 特になし
- 外部委託費（コンサル）*：93万円
- 審査費用：42万円
- 審査費用：48万円
- その他事務費：140万円
- 特になし ※プロバイダーに販売する場合、手数料等が発生

- 森林所有者の**個人宅を1件ずつ訪問**してカーボンクレジットについて説明して回った
- CO2吸収量がクレジットになるという**概念を理解してもらうことに苦勞**した
- 山の傾斜地で、厳密に面積を計測する点が難しかった
- 妥当性審査では、書類の記載ミスや実際の林齢と書類上の情報の不整合について指摘された
- 写真撮影のポイント等、審査機関から具体的な要件が提示され、想定以上に時間を要した
- 委託事業者に依頼した為、大きな問題はなかった
- 大企業に一括で買ってもらいたかったが、なかなか実現せず、J-VER制度の頃は、3年ほど売上がたたなかった

- 特になし
- 外部委託事業者の指示を受け、森林組合と連携して現地調査を実施した
- プロジェクト対象として**不適当な地区は申請除外**して対応した
- 冬、雪深い中でも**現地踏査が必要**とのことで、除雪車を稼働して対応した
- 特になし
- 森林組合・横手市でそれぞれクレジット販売の営業を行う
- 小口での購入推進**のため、オフセット向けのシール作成やふるさと納税の返礼品として設定

- 妥当性審査・モニタリング検証は審査機関による現地踏査が必要であるため、プロジェクト実施地の気候などの地理的条件を考慮するべき
- 小口でのクレジット販売手法をいくつか準備したことがクレジットの売り上げを立てることにつながっている。その方法の一つがふるさと納税であり、返礼品の一つとしてJ-クレジットを設定することで、横手市を知らなかった人にも市の風景（森林）等を知ってもらう機会が創出されており、市のPRにもつながっているのではないか

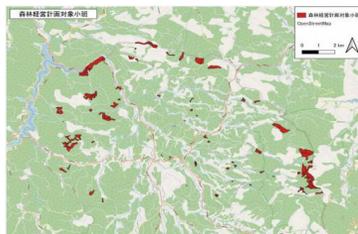
熊本県小国町 (1/2)

熊本県小国町は、クレジットを購入した民間企業と連携してクレジット収益用途を一緒に検討しています

プロジェクト対象地の基本情報

プロジェクト実施者 (+共同実施者)	■ 熊本県小国町
事業所等の所在	■ 熊本県阿蘇郡小国町
プロジェクト対象の 森林の所在地	■ 熊本県阿蘇郡小国町
プロジェクト対象の 森林の所有形態	■ 町有林

【プロジェクト対象地の地図】



※PJ計画書から抜粋

【プロジェクト対象の森林の現況】

樹種別面積 (ha)	
人工林	
スギ	118.26
ヒノキ	114.15
クヌギ	27.42
その他	11.03
天然林その他	
マツ	7.64
クヌギ	54.04
その他	38.75
合計	371.29

※PJ計画書から抜粋

クレジット創出・活用の概要

きっかけ

- 林業は小国町の基幹産業であり、町として需要拡大に取り組んできた。近年、森林重視の世論もあり、森林に付加価値を付け林業活性化を図ろうと、取組を開始

【認証対象期間中の施業内容】

施業樹種	年度別施業予定面積 (ha)		
	2022-2023年度		
	間伐	主伐	造林
スギ	16.31	0.00	0.00
ヒノキ	3.12	0.00	0.00
アカマツ	0.00	0.00	0.00
カラマツ	0.00	0.00	0.00
その他	0.00	0.00	0.00
合計	19.43	0.00	0.00

※PJ計画書をもとにデロイトが作成

認証対象期間/ クレジット認証 見込み量・ 認証量/販売量

- 認証対象期間:2022年4月1日 ~ 2030年3月31日
- 認証見込み:14,177 t-CO2
- 認証量:(認証前のため実績なし)
- 販売量:(認証前のため実績なし)

主な販売先・ 購入目的

- 販売先/購入目的(J-VER)
 - 株式会社明和不動産 - 地域貢献活動
 - 株式会社オリエンタルランド - カーボンオフセット事業
 - 株式会社JIMOS -カーボンオフセット事業
- 販売価格
 - 10,000円/t-CO2 (税抜)
 - ※ボリューム・購入頻度によって販売価格は変更

クレジット収益の 活用方法

- 豪雨被害を受けた林道の復旧、整備
- 「小国杉」の苗生産施設の整備
- 森林保全事業

熊本県小国町 (2/2)

自治体

森林組合

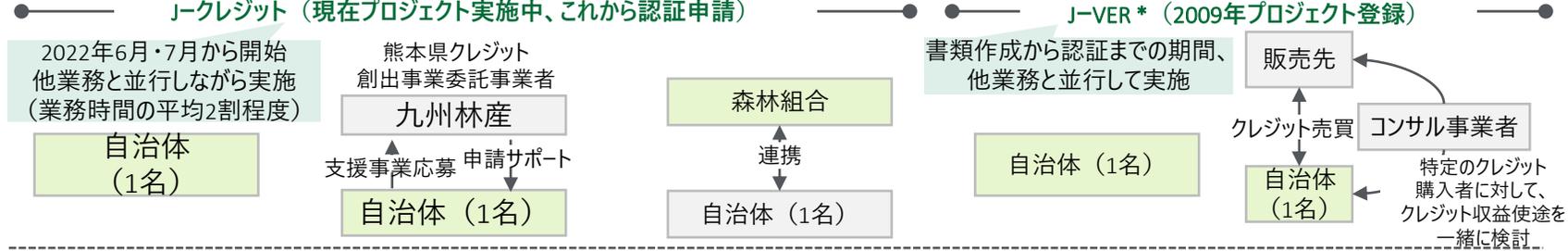
企業

プロジェクト登録日
2023年 1月18日

*:一部はJ-VER制度における申請時の体制



実施体制



費用

- 特になし
- 審査費用：82万円 ※県の委託事業活用のため、コンサル費用はなし
- 実踏調査費用：85万円
- J-クレジットの審査費用については現在申請前のため発生していない
- 仲介手数料：クレジット販売売上の0~50%

課題や苦勞した点

- J-クレジットの概念や制度理解が難しい
- 特に自治体は担当者の異動が定期的にある為、担当者個人の専門性や経験によって、取り組みに濃淡が出る印象
- 妥当性審査では、吸収量の再計算やモニタリングポイントについて指摘を受け、その対応に時間を要した
- 現在、プロジェクト実施、モニタリング中である
- 過去にJ-VERを創出した箇所以外は、過去の施業履歴のデータ収集に苦勞している
- J-VER創出当時、クレジットを創出している団体が少なく希少性が高かった。そのため、問い合わせ自体が多く、一定の在庫確保が必要だった
- 定期購入してくれる取引相手を見つけるまでは、販売先を確保することが難しく、年度により販売量に波があった

解決方法や工夫

- 特になし
- 当初のモニタリングポイントを生育が良い地点から、保守的なクレジット量となる地点に変更
- 過去の施業履歴（実測図）が集められない箇所については実踏調査を行うことで対応予定
- 施業が一定終わったタイミングで認証を受け、購入希望者からの問い合わせに対応できるようにした
- 地域貢献/まちづくりに関心の高い企業を見つけ、クレジット取引に関する協定を締結
- 特定のクレジット購入者とは、クレジット収益使途を一緒に検討

実体験から失敗・学び

販売先確保に苦勞した。自治体はそもそも企業と顔を合わせる機会も少なく、こちらから提案していくことが難しい。一方で、地域と関係を持ちたい企業は多いからこそ、関係性を築く機会があれば積極的に活用し、**企業側にとってはCSR等地域貢献の観点でメリットがあることを説明し、森林吸収系J-クレジットを付加価値とともに売りこむのがよいのではない**か

上伊那森林組合 (1/2)

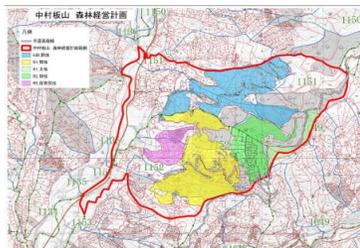
上伊那森林組合は、森林所有者との長年の信頼関係により合意形成を進め、分収林でクレジット創出中

プロジェクト対象地の基本情報

プロジェクト実施者 (+共同実施者)	■ 上伊那森林組合
事業所等の所在	■ 長野県伊那市
プロジェクト対象の 森林の所在地	■ 長野県伊那市
プロジェクト対象の 森林の所有形態	■ 私有林、生産森林組合所有林、社寺林

【プロジェクト対象地の地図】

【プロジェクト対象の森林の現況】



※PJ計画書から抜粋

樹種別面積(ha)	施業面積(ha)	施業年度
人工林		
スギ	3.10 間伐	2.81 2018,2019年度
		未施業 0.29
ヒノキ	3.23 間伐	1.82 2018,2019年度
		未施業 1.41
アカマツ	16.70 間伐	11.87 2018,2019年度
		主伐 0.44 2019年度
		未施業 4.39
カラマツ	53.30 間伐	41.83 2018,2019年度
		主伐 4.20 2019年度
		未施業 7.27
その他	0.27 間伐	0.27 2018,2019年度
		未施業 0.00
天然林その他		
アカマツ	26.59 間伐	22.57 2018,2019年度
		主伐 0.86 2019年度
		未施業 3.16
その他	22.02 間伐	13.07 2018,2019年度
		主伐 0.88 2019年度
		未施業 8.07
合計		125.21

※PJ計画書から抜粋

クレジット創出・活用の概要

きっかけ

- 2020年10月の政府によるカーボンニュートラル宣言を受け、今後森林吸収系クレジットの注目度が更に上がると期待して創出に取り組んだ

【認証対象期間中の施業内容】

※PJ計画書から抜粋

施業種	施業樹種	年度別施業予定面積(ha)	施業予定年度
間伐	スギ	0.09	
	ヒノキ	0.35	
	アカマツ	3.76	
	カラマツ	1.19	
	その他	0.79	
	合計	6.18	2027年度
主伐	スギ	0.00	
	ヒノキ	0.00	
	アカマツ	0.00	
	カラマツ	0.00	
	その他	0.00	
	合計	0.00	
造林 (2020年度 植林地の下刈)	スギ	0.00	
	ヒノキ	0.00	
	アカマツ	0.00	
	カラマツ	5.00	2023、2024、2025年度
	その他	0.00	
	合計	5.00	

認証対象期間/
クレジット認証
見込み量・
認証量/販売量

- 認証対象期間:2023年4月1日 ~ 2039年3月31日
- 認証見込み: 4,923t-CO2
- 認証量: (認証前のため実績なし)
- 販売量: (認証前のため実績なし)

主な販売先/
購入目的/
販売価格

- 販売先/購入目的
 - 販売実績なし (ターゲット選定中)
- 販売価格
 - 15,000円/t-CO2 (税抜)

クレジット収益の
活用方法

- (認証前のため実績なし)

収益分配

- 売上を組合と所有者で分け、所有者に還元する分を所有者の所有面積で按分

上伊那森林組合 (2/2)

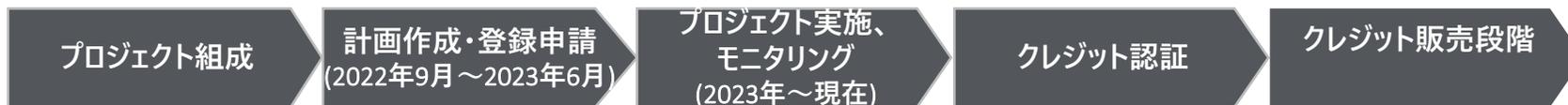
自治体

森林組合

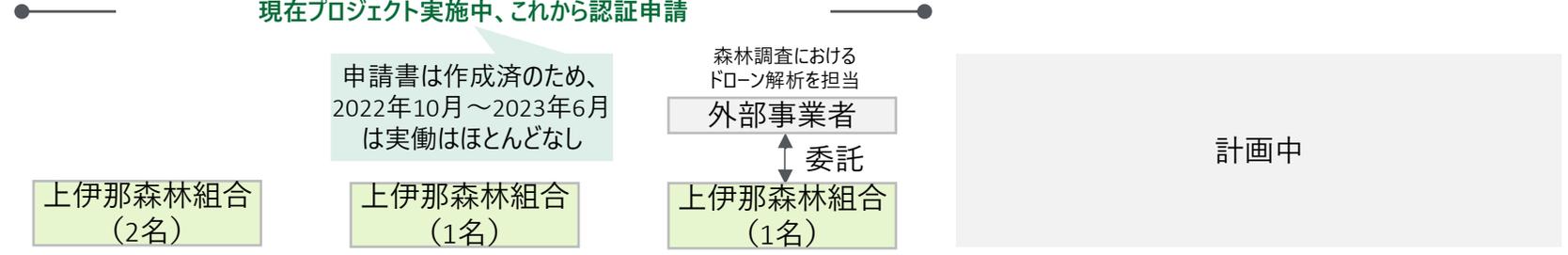
企業

プロジェクト登録日
2023年9月29日

審査費用：100万円*は今後の見込みを記載



実施体制



費用

<ul style="list-style-type: none"> 特になし 	<ul style="list-style-type: none"> 審査費用：90万円 (うち60万円は費用支援を活用) 	<ul style="list-style-type: none"> 審査費用：100万円* (うち90万円は費用支援) 外部委託費 (コンサル)：20万円 	計画中
--	--	--	-----

課題や苦勞した点

<ul style="list-style-type: none"> クレジットが新しい概念であることに加え、収益を得るのが数年先であるため、関係者の合意形成に苦勞した 対象候補地が多い一方、制度不案内のため、対象地選定に苦勞した 	<ul style="list-style-type: none"> 妥当性審査では悩むような指摘事項はなかった 審査費用の支援が、予算上限に達してしまい、自費審査を決定したが、審査機関から期限間近のため、断われた 	<ul style="list-style-type: none"> 現在モニタリング実施中 (2024年1月時点) 私有林で所有者の人数も多く、対象地が広範に散らばっている中でモニタリングプロットの選定に苦勞した 	計画中
---	--	--	-----

解決方法や工夫

<ul style="list-style-type: none"> 森林所有者向けに説明会を実施し、制度を理解してもらえるように努めた。 地元の取り纏め役 (生林組合長) の意識が高く、協力が得やすい団地を選定 	<ul style="list-style-type: none"> 審査費用支援を確実に受けるために、年度当初 (2023年6月頃) に申請時期を調整した (もともとは、その前年の秋～冬にプロジェクト登録を予定していた) 	<ul style="list-style-type: none"> 信州大学発のベンチャー企業に委託して、ドローン解析を実施予定 解析をR言語の汎用ソフトを使い社内処理することで、本来高額なドローン解析経費を圧縮する計画 	<ul style="list-style-type: none"> 試みに認証1年目で認証を受ける予定。その後の認証タイミングは、そのときの販売状況をみて、判断することを想定 CO2排出量の算定式を活用して、業種や売上から、クレジットにニーズのありそうな企業を選定中 クレジットのPRの為にHPを刷新。取組の先進性や地域還元の観点を強調している
--	---	---	--

実体験から失敗・学び

<ul style="list-style-type: none"> 地元説明会を開いたが、高齢の方が多く、複雑なJ-クレジットの制度を正しく伝えることができたかは自信がない。最終的には、地元との長年の信頼関係が合意形成に重要だと感じた。 プロジェクト登録時に、認証対象期間中の計画的間伐対象森林の有無で適用条件3の適否が変わる点は、計画的間伐対象森林という普段の森林整備ではあまり馴染みがない森林分類が関わってくるため、注意が必要だと思う。

山国川流域森林組合（1/2）

山林所有者からの要望でクレジット創出へ。地域金融機関と連携し販売先を確保した創出事例

プロジェクト対象地の基本情報

プロジェクト実施者 (+共同実施者)	■ 山国川流域森林組合
事業所等の所在	■ 大分県中津市山国町
プロジェクト対象の 森林の所在地	■ 大分県中津市山国町
プロジェクト対象の 森林の所有形態	■ 私有林

【プロジェクト対象地の地図】



※PJ計画書から抜粋

【プロジェクト対象の森林の現況】

樹種別面積(ha)		施業履歴別面積(ha)		施業年度
人工林	スギ	間伐	0.00	
		未施業	96.67	
	ヒノキ	0.00		
		間伐	1.49	
天然林(その他広葉樹)			11.90	
その他			26.82	
合計			136.88	

※PJ計画書から抜粋

クレジット創出・活用の概要

きっかけ

- 相続を機に山林を所有した方から、クレジット創出について提言を受け、取り組みを決意

【認証対象期間中の施業内容】

※PJ計画書から抜粋

施業種		年度別施業予定面積(ha)				
		2021	2022	2023	2024	2025
間伐	スギ	12.89	32.51	0	0	0
	ヒノキ	0	0	0	0	0
主伐	スギ	0	0	0	0	0
	ヒノキ	0	0	0	0	0
造林	スギ	0	0	0	0	0
	ヒノキ	0	0	0	0	0
その他施業		0	0	0	0	0
合計		12.89	32.51	0.00	0.00	0.00

認証対象期間/ クレジット認証 見込み量・ 認証量/販売量

- 認証対象期間:2021年4月1日～2029年3月31日
- 認証見込み:1,843 t-CO₂
- 認証量:112 t-CO₂
- 販売量:112 t-CO₂

主な販売先/ 購入目的/ 販売価格

- 販売先
 - 西部ガス株式会社
- 販売価格
 - 非公開

クレジット収益の 活用方法

- すべて森林整備や災害復旧事業に充当

収益分配

- 売上を組合と所有者で按分せず、森林所有者の森林整備にすべて充当

山国川流域森林組合 (2/2)

自治体

森林組合

企業

プロジェクト登録日
2022年3月31日

クレジット認証日
2023年7月25日



他業務と並行しながら
2か月程度で実施

組合単独で実施

購入企業紹介

地銀

連携

組合 (3名)

実施体制

組合 (3名)

組合 (3名)

組合 (3名)

組合 (2名)

費用

(人件費：24万円)

- 審査費用（全額費用支援）：実質負担なし（人件費：6万円）

(人件費：12万円)

- 審査費用（全額費用支援）：非公開（人件費：6万円）

- 販売手数料：非公開

課題や
苦労した点

- 長年整備されていない地域だった為、まず山林調査から実施

- **旧様式と知らずに記入**を進め、申請直前で気づき、やり直した
- 妥当性審査では、対象地の林齢が近かったこともあり、数か所の軽微な修正があった程度

- 地形的に測量が難しい地域もあり、プロット選定に苦労した
- **災害で被害を受けた地域はPJ対象地から除外**せざるを得なかった

- 災害復旧が進まず、**クレジット創出量が想定より大幅に減少**した
- J-クレジット事務局による審査費用支援が締め切られてしまい、費用支援を活用できなかった

- 特になし

解決方法
や工夫

- 航空写真やドローンを活用し、効率的に現状把握に努めた

- 作業は不明点が生じる都度、制度事務局に問い合わせ、確認しつつ進めた
- 審査費用支援を受けられるよう、**申請時期を調整**した

- 間伐の**補助金申請時に活用した測量図面を再活用**することで、効率的に書類作成を進めた
- 審査費用支援が利用できなかったが、地銀が融資してくれた（以降も本事業について連携）

- 豪雨災害等があり間伐面積が少なくクレジット創出量が少なかった経験を踏まえ、**今後は数年間の間伐面積をまとめて認証を受けたい**

- 地銀と買い取り販売の形式で連携。西部ガスへ全クレジット販売することができた
- 森林所有者の高齢化が進んでいるので、同組合内でJ-クレジット創出は明るい話題となった

実体験から
失敗・学び

- 今回は森林所有者1名の森（140ha程度）で申請したため、申請した面積が小さく、吸収量が少なくクレジット創出量を確保できなかった。申請の手間や審査費用等の経費を考えれば、ある程度森林整備を実施した地域を入れて申請したほうがよかった。

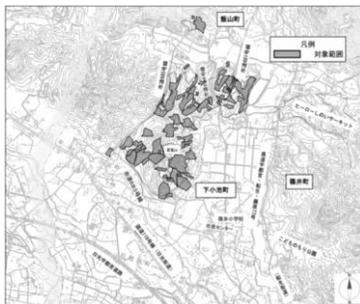
東武鉄道株式会社 (1/2)

東武鉄道では、自社社有林の活用が課題であり、環境保全活動および山林保護費用補填のためにクレジット創出を開始

プロジェクト対象地の基本情報

プロジェクト実施者 (+共同実施者)	■ 東武鉄道株式会社
事業所等の所在	■ 東京都墨田区
プロジェクト対象の 森林の所在地	■ 栃木県宇都宮市
プロジェクト対象の 森林の所有形態	■ 社有林

【プロジェクト対象地の地図】



※PJ計画書から抜粋

【プロジェクト対象の森林の現況】

齢級 (2021)	面積 (Ha)		立木材積 (m3)	
	スギ	ヒノキ	スギ	ヒノキ
6	0.00	0.00	0	0
7	0.00	0.09	0	13
8	0.00	1.46	0	251
9	2.09	1.80	403	632
10	2.88	1.59	847	197
11	5.64	11.87	2,514	2,669
12	4.24	7.35	1,628	1,462
13	6.77	2.70	2,815	666
14	0.80	5.57	276	1,336
15	1.16	1.76	433	530
16	0.45	0.82	142	242
17	0.89	0.30	367	107
18	0.84	0.62	347	168
19	0.06	0.49	24	134
20	0.00	0.11	0	30
21	0.35	0.00	146	0
22	0.00	0.00	0	0
計	26.17	36.53	9,942	8,437
合計	62.70		18,379	

※PJ計画書から抜粋

クレジット創出・活用の概要

きっかけ	■ 自社社有林を活用した環境保全活動と山林保護費用の充当を目的として、J-クレジット創出の取組を開始
------	--

【認証対象期間中の施業内容】

- 計画区は11～14齢級のスギ・ヒノキが面積の多くを占めており、現在は概ね利用可能な径級に達している。今後搬出間伐を10～15年間隔で数回実施し、その後、利用目的に応じて主伐を実施する
- 主伐後はスギ・ヒノキを植栽し、資源の循環利用に努める
- 適宜、森林の整備、パトロールを行っている

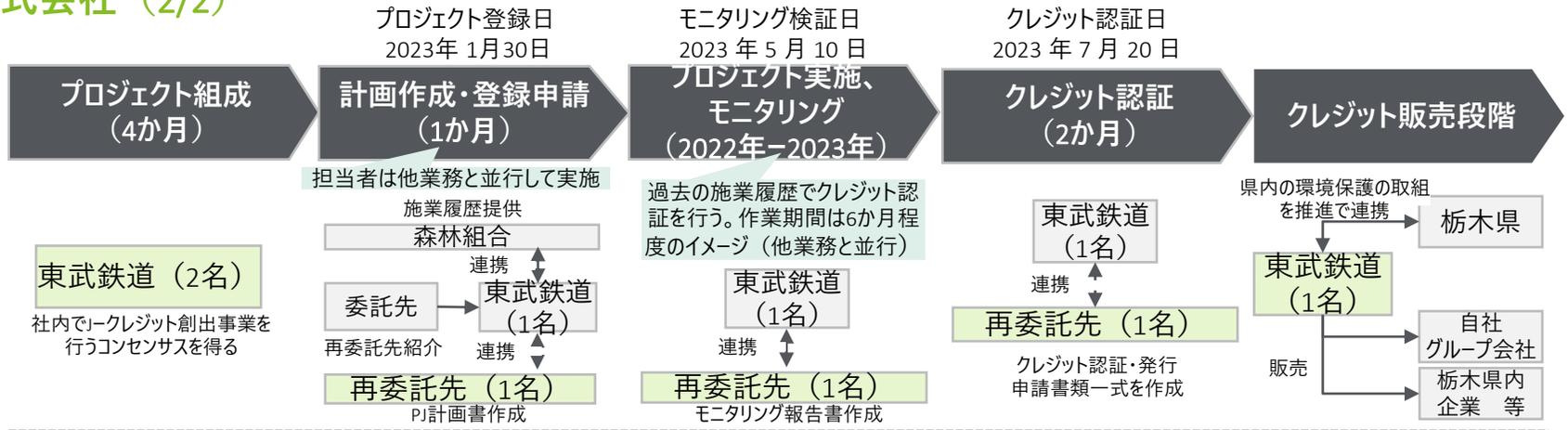
認証対象期間/ クレジット認証 見込み量・ 認証量/販売量	<ul style="list-style-type: none"> ■ 認証対象期間：2022年4月1日～2037年3月31日 ■ 見込み：4,791 t-CO2 ■ 認証量：280t-CO2(2024年2月時点) ■ 販売量：約120t-CO2(2024年2月時点、見込み含)
--	--

主な販売先・ 購入目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 販売先/購入目的 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 株式会社日本旅行-自社商品「赤い風船」で、カーボンオフセットできるプラン・旅行を販売する為 ➢ 栃木県内企業-カーボンオフセットの為（購入見込み） ➢ 東武タワースカイツリー株式会社-同上（購入見込み） ➢ 株式会社東武ホテルマネジメント-同上（購入見込み）
----------------	--

クレジット収益の 活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自社社有林の森林整備費用 ■ 栃木県内で創出された他社のJ-クレジット購入費 - 沿線地域への還元の為
------------------	--

東武鉄道株式会社 (2/2)

自治体 森林組合 企業



費用	プロジェクト組成 (4か月)	計画作成・登録申請 (1か月)	プロジェクト実施、モニタリング (2022年-2023年)	クレジット認証 (2か月)	クレジット販売段階
	・ 特になし	・ 外部委託費 (コンサル) : 非公開 ・ 審査費用 : 非公開	・ 外部委託費 (コンサル) : 非公開	・ 審査費用 : 非公開	・ 特になし

課題や苦勞した点	プロジェクト組成 (4か月)	計画作成・登録申請 (1か月)	プロジェクト実施、モニタリング (2022年-2023年)	クレジット認証 (2か月)	クレジット販売段階
	<ul style="list-style-type: none"> J-VERの未販売分があるにも関わらず、新たにJ-クレジットを創出することについての理解 自社単独での創出に必要な経験の不足 	<ul style="list-style-type: none"> 一部対象地が第三者土地の施業と同時に行われたため、当社土地のみの測量データが用意できず、対象面積から外された 	<ul style="list-style-type: none"> Excel数値の一部修正等はあったものの、ほとんど指摘を受けなかった 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 	<ul style="list-style-type: none"> J-クレジットの認知度が低いため、その概念や制度説明が必要 販売先は、グループ企業や一般企業から引き合いがあるものの、販売先拡大に努めている

解決方法や工夫	プロジェクト組成 (4か月)	計画作成・登録申請 (1か月)	プロジェクト実施、モニタリング (2022年-2023年)	クレジット認証 (2か月)	クレジット販売段階
	<ul style="list-style-type: none"> J-クレジットは「J-VERよりも高い流通性を見込めること、長期的視野では投資回収できる見込みであること」を説明 J-クレジット事務局にコンサルを紹介してもらった 	<ul style="list-style-type: none"> 今後の施業時には、当社土地のみの測量を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度(2022年度)施業分のクレジット認証を受ける 今後は、数年に1度の認証申請を予定 	<ul style="list-style-type: none"> 東証の取引市場開設をきっかけに話す。基本は制度概要から説明 自社のCSR活動としてPRに活用するほか、栃木県と協業し、環境保護の取組の促進を検討

実体験から失敗・学び

- J-クレジット自体の認知度が低いため、社内外の担当者に対して都度その説明を行う必要があるが、2023年10月に東京証券取引所のカーボンプレジット市場が開設されたことや、環境経営に敏感な企業が増えていることから、J-クレジットへの理解が得られやすくなってきている。
- 鉄道が環境に優しいエコな交通手段であることと併せて、自社社有林におけるJ-クレジット創出や間伐材の利用を提示することで、社内外に向けて効果的にPRすることができている。

須山木材株式会社 (1/2)

ークレジットを中心に、森林・地元企業・消費者全員にとっての正の循環が生まれ、林業の活性化と地域経済に貢献

プロジェクト対象地の基本情報

プロジェクト実施者 (+共同実施者)	■ 須山木材株式会社
事業所等の所在	■ 島根県出雲市白枝町
プロジェクト対象の 森林の所在地	■ 島根県出雲市
プロジェクト対象の 森林の所有形態	■ 社有林

【プロジェクト対象の森林の現況】

※PJ計画書から抜粋

年齢	人				天		面積計(ha)
	アカマツ	スギ	ヒノキ	広	アカマツ	広	
1		1.24					1.24
6		3.67	2.18			4.33	10.18
7	2.5	14.29	17.59	0.25			34.63
8	42.24	49.06	39.56				130.86
9	0.42	1.28				0.4	2.1
10	32.02	0.61	1.53			4.32	38.48
11	7.03	2.94	1.09		0.89		11.95
12	5.74	1.24	0.75			3.93	11.66
13		0.22	0.91			13.08	14.21
15						4.04	4.04
16		0.04					0.04
総計	89.95	74.59	63.61	0.25	0.89	30.1	259.39

クレジット創出・活用の概要

きっかけ

- 社長が欧州出張にて、カーボンクレジットに関する知見を獲得。日本でも同様の潮流を見込み、地銀と協働でクレジット創出に取り組んだ

【認証対象期間中の施業内容】

※PJ計画書をもとに
トーマツが作成

間伐の方法

- 間伐の選木にあたっては、初回間伐では①有害な木②欠陥の多い木③特異な木を中心に選木する。2回目間伐以降は、収入が見込めるように選木する。なお、高性能林業機械等により間伐を行う場合は、伐採の形状を列状にし、効率的な搬出を目指すこととします。この際、伐採後の風害、雪害等を十分に考慮し、伐採列幅・伐採率を決定します。

間伐時期

間伐時期	樹種	
	スギ	ヒノキ
初回	16年～20年	17年～21年
2回目	33年～37年	27年～31年
3回目	47年～51年	43年～47年

間伐本数率

間伐本数率	樹種	
	スギ	ヒノキ
初回	28%	19%
2回目	28%	19%
3回目	43%	27%

認証対象期間/ クレジット認証 見込み量・ 認証量/販売量

- 認証対象期間:2016年4月1日 ～ 2024年3月31日
- 認証見込み:10,342 t-CO2
- 認証量:7,214t-CO2 (2024年2月時点)
- 販売量:711t-CO2 (2024年2月時点)

主な販売先/ 購入目的/ 販売価格

- 販売先/購入目的
 - 地元の小売事業者- 自社商品への付加価値(環境配慮) 向上の為
- 販売価格
 - 8,000円/t-CO2 (税抜)
 - ※最低購入単価10t～

クレジット収益の 活用方法

- 林道の拡張等、林業活性化に資する追加的予算として活用

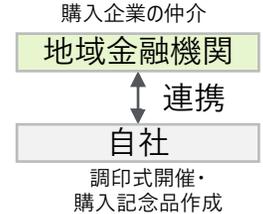
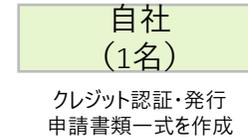
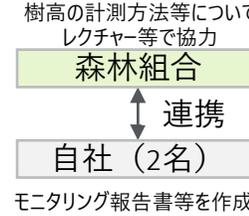
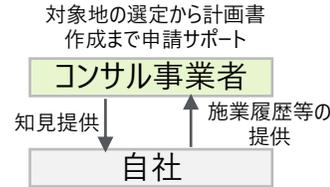
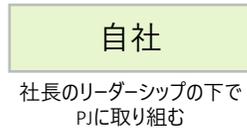
プロジェクト登録日
2017年2月21日

クレジット認証日
2018年3月22日



約3年間

実施体制



費用

- 外部委託費（コンサル県の補助あり）非公開
- 審査費用：30万円

（間伐等森林管理に関する委託契約の範囲で森林組合に対応いただいた）

- 審査費用（全額費用支援）：220万円

（人件費：7万円）

課題や苦勞した点

- 初の取組の為、まず**制度理解から始めた**。どの程度煩雑な手続きがあるのか、**認証が通るか等、取組前は不安があった**

- コンサルに委託したため、比較的スムーズに進んだ
- 妥当性確認では、**対象地のプロットの選定根拠について質問を受けた**

- 吸収量の計算等、複雑な書類作成に苦勞した。規定集を読み解きながら取り組んだ
- 審査機関からは、**樹高や直径の測り方について確認を受けた**

- 特になし

- 当初は、うまくメリットのPRが出来ず、売買契約がまとまらない、取引先が見つからない等の苦勞があった

解決方法や工夫

- 計画段階においてはコンサルを利用し、コンサルと一緒に進める中で、社内にJ-クレジットに関する**知見を蓄積**するように努めた

- コンサルに施業実績を見てもらい対象地も選定してもらおうとともに、申請手続きや現地視察や審査機関からの質問対応等フォローしてもらった

- 森林組合から樹高の測り方等もレクチャーを受け、**自分たちで審査機関からの質問等に対応できるように準備した**

- クレジットの残高次第だが、毎年実施すると事務手続きや審査費用など発生するので、**まとめて認証申請を行っている**

- 地銀に仲介してもらうことで、幅広い業種の事業者に効率的にアプローチが出来た
- 売買契約の調印式を企画し、購入者の社会的メリットをアピール。メディアに取り上げられ、地元の産業も活性化した

実体験から失敗・学び

- 製造業だけではなく小売業者も森林吸収系J-クレジットを購入する。**小売事業者はJ-クレジットを購入することで、環境への先進的な取組事業者として対外的にPRでき**、また、環境に配慮したい顧客層を取り込むこともできる等、メリットが多い。
- クレジット購入事業者からの要望で、**森林の視察旅行を企画し地元の飲食店や観光業も巻き込んだ**。このことにより、林業の活性化だけでなく地域還元効果があった

End of Materials

山の炭素吸収応援プロジェクト ポータルサイト自治体ページ作成入力フォーム

	設問	回答・選択肢
1	自治体名(例:XX県XX町)	
2	所在地(例:東京都千代田区丸の内3-2-3)	
3	問い合わせ先 部署名・担当者名(例:XXX市 森林環境課)	
4	問い合わせ先 電話番号(例:0000-00-0000(代表))	
5	問い合わせ先 メールアドレス(例: shinrinkankyo@city.XXX.XX.XX)	
6	問い合わせ先 その他(例:問い合わせフォームURL、専用サイトURL等)	
7	<p>貴地域の森林の概要についてご記載ください(箇条書き不可、文字数目安:300~400文字) サイトにおいては、自治体HPの該当箇所へのリンクを張ることも可能です。</p> <p>【例文】 本町は〇〇県の山稜地帯に位置し、都市圏の生活を支える〇〇川の源流の町であり、〇〇国立公園には独特の植物相も見られるなど貴重な自然が残されている。また、町の総面積の〇割が森林であるなど豊富な森林資源を有している。県平均よりも高い人工林割合であるが、過疎化などによる働き手の不足、不在所有者の森林に対する関心の低下などにより適切に整備されていない人工林も見受けられ、産業振興や森林の多面的機能の低下などへの影響が懸念されている。放置された竹林も問題となっており、美しい里山景観の形成を阻害している。このような課題を解決し、自然と人間社会の共生を実現するため、森林整備に向けて〇〇計画を策定し、包括連携協定の締結や木質バイオマスの利用促進などの取組を実施している。</p> <p>※本登録フォーム送信後に、事務局より森林面積のグラフ作成用ファイルが送信されます</p>	
8	貴自治体で、企業との連携により取り組んでいる(取り組みたい)課題について選択してください(複数回答可)	植林／人工林の間伐等／里山(広葉樹林)の整備／生物多様性保全／J-クレジット創出／J-クレジット販売／地元産材の利活用／企業版ふるさと納税／ネーミングライツ
9	企業との連携にあたっての貴地域のPR・強みをご記載ください(箇条書き不可、文字数目安:300~400文字)	
10	掲載したいWEBページのリンクがあればお知らせください。	
11	企業と連携を図りたい取組について具体的な内容をご記載ください(箇条書き不可、文字数目安:300~400文字)	
12	<p>企業と連携した森林整備や資金確保の実績があればご記載ください(文字数目安:300~400文字) サイトにおいては、自治体HPの該当箇所へのリンクを張ることも可能です。</p>	
13	<p>企業と連携することで資金協力以外の取り組みに発展した事例があればご記載ください(文字数目安:300~400文字) サイトにおいては、自治体HPの該当箇所へのリンクを張ることも可能です。</p>	
14	ページ内の連絡先掲載について、同意をお願いします。その際、改めて個人情報等の記載がないか、ご確認をお願いします。	
15	<p>受付後にアカウントと操作マニュアルを送付します。各自でグループマップの設定、ロゴや画像の貼付けなどを行ってください</p> <p>【登録推奨】</p> <p>① ヘッダー画像(各自治体の代表的な風景等) ② 都道府県章・市町村章 ③ 記事内掲載画像(企業との連携実績写真、地域内の山林の写真等、4~8枚程度)</p>	

山の炭素吸収応援プロジェクト ポータルサイト企業ページ作成入力フォーム

	設問	回答・選択肢
1	企業名(例:XX株式会社)	
2	所在地(例:東京都千代田区丸の内3-2-3)	
3	問い合わせ先 部署名・担当者名(例:XXX部)	
4	問い合わせ先 電話番号(例:0000-00-0000(代表))	
5	問い合わせ先 メールアドレス(例: shinrinkankyo@city.XXX.XX.XX)	
6	問い合わせ先 その他(例:問い合わせフォームURL、専用サイトURL等)	
7	【炭素吸収の取組実装】 炭素吸収に関連する取り組み概要を入力ください。取組内容はクレジットの仲介なども含みます。文字数制限はありませんが、200~400文字を一つの目安としてください。	
8	【今後の取組意向】 貴社で、自治体との連携により取り組んでいる(取り組みたい)課題について選択してください(複数回答可)	植林/人工林の間伐等/里山(広葉樹林)の整備/生物多様性保全/J-クレジット創出/J-クレジット販売/地元産材の利活用/森林・林業の効率化に関わる製品・サービスの開発・実証/企業版ふるさと納税/
9	今後の取組意向を入力ください	
10	自治体との連携にあたっての貴社のPR・強みをご記載ください (箇条書き不可、文字数目安:300~400文字)	
11	掲載したいWEBページのリンクがあればお知らせください。	
12	自治体と連携した森林整備や森林整備のための資金確保の実績があればご入力ください(文字数目安:300~400文字) サイトにおいては、自治体HPの該当箇所へのリンクを張ることも可能です。	
13	自治体と連携することで資金協力以外の取り組みに発展した事例があればご記載ください(文字数目安:300~400文字) サイトにおいては、自治体HPの該当箇所へのリンクを張ることも可能です。	
14	ページ内の連絡先掲載について、同意をお願いします。 その際、改めて個人情報等の記載がないか、ご確認をお願いします。	
15	受付後にアカウントと操作マニュアルを送付します。各自でゲーグルマップの設定、ロゴや画像の貼付けなどを行ってください 【登録推奨】 ① ヘッダー画像(企業ロゴ、または代表的な画像等) ② 企業ロゴ ③ 記事内掲載画像(企業との連携実績写真、地域内の山林の写真等、4~8枚程度)	

山の炭素吸収応援プロジェクト 会員ガイドライン

yamano-tanso.maff.go.jp

2024年3月15日 版

事務局用

山の炭素吸収応援プロジェクト

会員ガイドライン（事務局用） もくじ

1. 本番環境とテスト用環境	・・・	2
1-1. 2つの環境の違い	・・・	3
1-2. テスト用環境のベーシック認証	・・・	3
2. ポータルサイトの運用について	・・・	4
2-1. アカウント取得から記事作成まで（新規の自治体・企業）	・・・	5
3. 管理画面について	・・・	6
3-1. ログイン	・・・	7
3-2. ログアウト	・・・	9
3-3. プロフィールを編集する	・・・	9
4. 自治体情報の更新方法	・・・	11
4-1. 自治体情報を登録・編集する	・・・	12
5. 企業情報の更新方法	・・・	21
5-1. 企業情報を登録・編集する	・・・	22
6. 事例の更新方法	・・・	29
6-1. 事例を登録・編集する	・・・	30
7. お知らせの更新方法	・・・	37
7-1. お知らせを登録・編集する	・・・	38
8. 固定ページの更新方法	・・・	42
8-1. 固定ページを編集する	・・・	43
9. 不明点や困った際の問い合わせ先	・・・	45

1. 本番環境とテスト用環境

1. 本番環境とテスト用環境

1-1. 2つの環境の違い

本ポータルサイトには、2つの環境があります。

A. 本番環境

<https://yamano-tanso.maff.go.jp> (2024/03/15時点では未開設)
一般に公開されているWebサイトで、すべての方がアクセス可能です。

B. テスト用環境

<https://dev.mercury.vc/>

一般には公開されていないWebサイトとなります。

関係者のみが使用し、本番環境に変更を加える前に、テストをするための環境です。

更新作業に慣れるまでは、テスト用環境で作業後、表示確認を行ってから本番環境に改め
て反映して頂く手順をオススメします。

1-2. テスト用環境のベーシック認証

テスト用環境には、外部の方に閲覧されないように、ベーシック認証というセキュリティ対策がされています。



ログイン
https://dev.mercury.vc

ユーザー名

パスワード

キャンセル ログイン

テスト用環境にアクセスした時に、上記のような画面で、ユーザー名とパスワードを聞かれた場合、

ユーザー名 : yamanotanso_demo

パスワード : portal_2024

と入力して、ログインできます。

こちらのユーザー名とパスワードは、外部の方には教えないようにお願いします。

2.ポータルサイトの運用について

2.ポータルサイトの運用について

2-1. アカウント取得から記事作成まで（新規の自治体・企業）

アカウント取得前に、必ず以下URLまたはQRコードより、利用規約・およびプライバシーポリシーをお読みください。

<https://yamano-tanso.maff.go.jp/privacy-policy/>



本ポータルサイトに情報を掲載される場合は、利用規約・プライバシーポリシーの内容にご了承いただいたものとさせていただきます。

以下の流れでアカウントを取得し、情報をポータルサイトに掲載してください。

(1) アカウント作成に必要な情報を用意 ……………（各自治体・企業）

「メールアドレス」「自治体（企業）名」をサイト管理者にご連絡ください。



(2) アカウントの発行 ……………（サイト管理者）

管理者より、アカウントに関するメールが送信されます。

メールの内容に従って、管理画面にログインしてください。

管理画面については、本マニュアルの第3章をご参照ください。



(3) 自治体・企業情報の登録・更新 ……………（各自治体・企業）

自治体・企業の情報を登録し、公開します。

公開後も、変更したい内容があれば、ログインして更新が可能です。

更新方法については、本マニュアルの第4章・第5章をご参照ください。



(4) 事例の掲載 ……………（各自治体・企業）

各自治体・企業ごとに、事例を作成・公開できます。

公開後も、変更したい内容があれば、ログインして更新が可能です。

更新方法については、本マニュアルの第6章をご参照ください。

3. 管理画面について

3.管理画面について

3-1.ログイン

①下記URLよりログインページにアクセスします。

【本番環境】

2024/03/15 時点で未定

【テスト用環境】

https://dev.mercury.vc/login_20476

ユーザー名またはメールアドレス・パスワード・画面に表示されたひらがな4文字を入力してログインします（ひらがなは、ロボットの不正ログインを防ぐためのセキュリティ対策で、文字列は毎回変わります）

WordPress logo

ユーザー名またはメールアドレス

パスワード

くぶつ

上に表示された文字を入力してください。

ログイン状態を保存する

パスワードをお忘れですか？

← 【Staging】山の炭素吸収応援プロジェクトポータルサイトへ移動

[プライバシーポリシー・利用規約](#)

日本語

※パスワードを忘れてしまった場合※

ログインページ下部の「パスワードをお忘れですか？」をクリックします。
登録したメールアドレスを入力して、パスワードの変更手続きが可能です。
手続きができない場合は、管理者にお問い合わせください。

②管理画面

ログインに成功すると、下図のような管理画面が表示されます。

画面左のメニュー「投稿」「固定ページ」「自治体」「企業」「事例」から、各コンテンツの新規作成や編集が可能です。

The screenshot displays the WordPress dashboard for a staging site. The top navigation bar includes the site name, a user profile icon, and a language selector. The left sidebar contains a menu with categories like '投稿' (Posts), 'メディア' (Media), '固定ページ' (Pages), '自治体' (Municipalities), '企業' (Companies), '事例' (Cases), 'お問い合わせ' (Contact Us), 'プロフィール' (Profile), and 'メニューを開じる' (Open Menu). The main content area is titled 'ダッシュボード' (Dashboard) and is divided into three columns. The first column, '概要' (Overview), shows statistics for posts (1), fixed pages (10), and comments (1), along with the WordPress version (6.4.3) and a recent activity log entry. The second column, 'クイックドラフト' (Quick Draft), provides a form for creating a new post with fields for title and content, and a '下書き保存' (Save Draft) button. The third column, 'WordPress イベントとニュース' (WordPress Events and News), lists upcoming events such as '八王子 WordPress Meetup 2024年3月度「WordPress サイトのバックアップしてありますか？」' and 'WordCamp Asia 2024 を振り返る / Recap of WordCamp Asia 2024 with guests Meetup - Tokyo, Japan'. At the bottom of this column, there are links for 'WordPress 6.5 ベータ 3', 'WordPress 6.5 ベータ 2', and '船強会 | WordCamp | ニュース'.

3-2. ログアウト

画面右上のユーザー名にカーソルを合わせると、メニューが開きますので、「ログアウト」をクリックします。更新作業終了後は、ログアウトをしてください。



3-3. プロフィールを編集する

①画面右上のユーザー名にカーソルを合わせると、メニューが開きますので、「プロフィールを編集」を選択、または左メニューから「プロフィール」をクリックします。



- ②「名」「姓」「メールアドレス」「パスワード」等が変更可能です。
ユーザー名やニックネームは変更しないでください。

名前

ユーザー名 ユーザー名は変更できません。

名

姓

ニックネーム (必須) ここは変更しない。

ブログ上の表示名

連絡先情報

メール (必須)
変更すると、新しいメールアドレスに確認メールが送信されます。承認されるまで、新しいメールアドレスは有効化されません。

サイト

あなたについて

プロフィール情報

プロフィールに添える簡単な自己紹介を書き入れてみましょう。この情報はテンプレートを編集すればサイトに表示できます。

- ③「パスワード」が変更可能です。セキュリティを高めるため、ユーザー名やニックネームと同じ文字列は設定しないでください。

アカウント管理

新しいパスワード

新しいパスワードを設定

「新しいパスワードを設定」でランダムに生成されたパスワードが表示されます。「隠す」をクリックすると「.....」で表示されます。「キャンセル」をクリックすると生成されたパスワードがキャンセルされ、元の画面に戻ります。再度「パスワードを生成する」で新たなパスワードが生成されます。任意のパスワードも入力可能です。

パスワード

強力

4. 自治体情報の更新方法

4.自治体情報の登録・更新方法

管理画面の左側にあるメニューから「自治体一覧」をクリックします。

新しく作る場合は「新規追加」を、編集する場合は、表示された一覧から自治体の名前をクリックします（自分以外の自治体ページは編集できません）

4-1.自治体情報を登録・編集する

「自治体名称」を記入します。

「カバー画像」「ロゴ」「所在地」「Googleマップ」「一覧ページ用テキスト」「エリア」「（取り組んでいる）課題」を記入します。

【Google マップの欄について】

以下リンク先で、自治体の住所を調べます。林野庁を例にご説明します。

<https://www.google.com/maps/>

住所が見つかったら、「共有」をクリックします。



林野庁

3.1 ★★★★★ (15)
政府機関

概要

クチコミ

基本情報



ルート・乗換



保存



付近を検索



モバイルデバイスに送信



共有

「地図を埋め込む」を選び「HTMLをコピー」ボタンをクリックします。

(左側の <iframe~ というプログラムがコピーされます。)



「Googleマップ」にペースト (Ctrl + V) して、URLを記入します。

Googleマップ

<https://maps.app.goo.gl/HZQsVUqJ6QHhk9CC7>

「問い合わせ先-部署」「問い合わせ先-担当者」「問い合わせ先-電話番号」
「問い合わせ先-FAX」「問い合わせ先-URL」「問い合わせ先-メールアドレス」
を記入します。

自治体	
自治体情報	問い合わせ先-部署
問い合わせ情報	<input type="text" value="農林課"/>
森林の概要	問い合わせ先-担当者
取り組んでいる課題	<input type="text" value="鈴木"/>
企業との連携を図りたい取組	問い合わせ先-電話番号
企業との連携に当たってのPR, 強み	<input type="text" value="00-0000-0000"/>
企業と連携した森林整備や森林整備のための資金確保の実績	問い合わせ先-FAX
企業と連携することで資金協力以外の取組に発展した事例	<input type="text" value="00-0000-0000"/>
	問い合わせ-URL
	<input type="text" value="https://www.rinya.maff.go.jp/"/>
	問い合わせ-メールアドレス
	<input type="text" value="sample@mail.go.jp"/>

各項目について、問い合わせ先の情報が無い場合は、省略も可能です。

「森林の概要」について、「説明文」「画像」を設定します。
「説明文」については、
「Ctrl + B」太字、「Ctrl + U」下線、「Ctrl + I」斜体などの設定ができます。
欄上のボタンから、画像追加やリンク設定（鎖マーク）も可能です。

自治体

自治体情報

問い合わせ情報

森林の概要

取り組んでいる課題

企業との連携を図りたい取組

企業との連携に当たったPR、強み

企業と連携した森林整備や森林整備のための資金確保の実績

企業と連携することで資金協力以外の取組に発展した事例

説明文 **文中に画像を追加**

メディアを追加

太字やリスト、リンク設定などのツール

大見出し (h3)

B *I* U **“ ”** **≡** **≡** **≡** **🔗** **🗑️** **📄**

説明文を記入します。説明文を記入します。説明文を記入します。

太字にしたり、下線をつけたり、*斜体*にしたり、

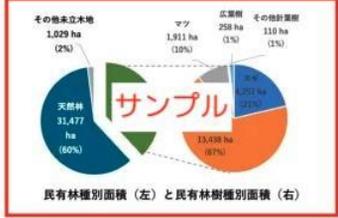
リストを作ったり、

- リスト1
- リスト2
- リスト3

リンクを挿入したり、画像を挿入したりできます。



画像



別途Excelにて作成後アップロード

「森林の概要」の「画像」は、森林の面積など、所定のデータをグラフ化して掲載するものです。
アカウントの取得後、入力及びグラフ化を行うExcelを、事務局よりお送りしますので、そちらのファイルを使用して作成をお願いします。

「企業と連携した森林整備や森林整備のための資金確保の実績」について、「説明文」「画像」「紹介する連携事例」を設定します。

「説明文」は、「森林の概要」等と同様に、文字の装飾や画像追加やリンク設定が可能です。

自治体

自治体情報	説明文
問い合わせ情報	<input type="button" value="メディアを追加"/>
森林の概要	大見出し(h3) B <i>I</i> <u>≡</u> <u>≡</u> “ ≡ ≡ ≡   
取り組んでいる課題	説明文を記入します。説明文を記入します。説明文を記入します。
企業との連携を図りたい取組	太字にしたり、 <u>下線をつけたり</u> 、 <i>斜体</i> にしたり、
企業との連携に当たってのPR, 強み	リストを作ったり、
企業と連携した森林整備や森林整備のための資金確保の実績	<ul style="list-style-type: none">• リスト1• リスト2• リスト3
企業と連携することで資金協力以外の取組に発展した事例	リンクを挿入 したり、画像を挿入したりできます。
	
	画像
	画像が選択されていません <input type="button" value="画像を追加"/>
	紹介する連携事例
	<input type="text" value="https://dev.mercury.vc/case"/>

「画像」に載せたい画像が無い場合は、省略も可能です。

「紹介する連携事例」は、この項目に表示されるボタンからのリンク先です。作成した事例のURLや、プレスリリースのURL等をおすすめします。

また、現時点で載せる内容が無い場合は「説明文」「画像」「紹介する連携事例」をいずれも空欄にすることで、この項目が非表示になります。

「企業と連携することで資金協力以外の取組に発展した事例」について、「説明文」「画像」「紹介する連携事例」を設定します。

「説明文」は、「森林の概要」等と同様に、文字の装飾や画像追加やリンク設定が可能です。

自治体

自治体情報

問い合わせ情報

森林の概要

取り組んでいる課題

企業との連携を図りたい取組

企業との連携に当たってのPR, 強み

企業と連携した森林整備や森林整備のための資金確保の実績

企業と連携することで資金協力以外の取組に発展した事例

説明文

メディアを追加

ビジュアル テキスト

段落

B I   “    

説明文を記入します。説明文を記入します。説明文を記入します。

太字にしたり、下線をつけたり、*斜体*にしたり、

リストを作ったり、

- リスト1
- リスト2
- リスト3

リンクを挿入したり、画像を挿入したりできます。



P

画像



紹介する連携事例

<https://dev.mercury.vc/case>

「画像」に載せたい画像が無い場合は、省略も可能です。

「紹介する連携事例」は、この項目に表示されるボタンからのリンク先です。作成した事例のURLや、プレスリリースのURL等をおすすめします。

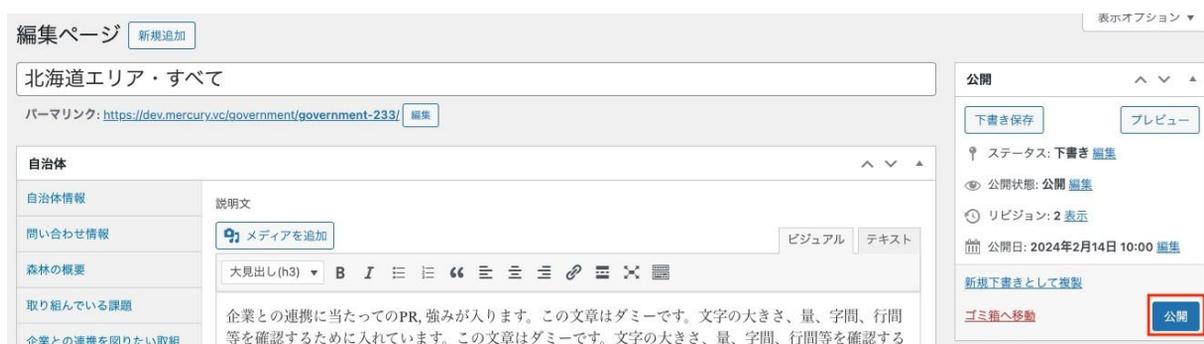
また、現時点で載せる内容が無い場合は「説明文」「画像」「紹介する連携事例」をいずれも空欄にすることで、この項目が非表示になります。

更新終了後、画面右上の「下書き保存」をクリックします。

「プレビュー」をクリックすると、登録した内容をポータルサイトのデザイン上で見られます。内容に間違いが無いかをご確認下さい。



内容に間違いがあれば、該当箇所を修正してください。



内容に間違いがなければ、画面右上にある

「公開」（新規の場合）

または

「更新」（更新の場合）

ボタンをクリックして公開します。

5. 企業情報の更新方法

5. 企業情報の登録・更新方法

管理画面の左側にあるメニューから「企業一覧」をクリックします。

新しく作る場合は「新規追加」を、編集する場合は、表示された一覧から企業の名前をクリックします（自分の企業以外のページは編集できません）

タイトル	投稿者	エリア	課題	日付
テスト企業 - 下書き	mercury	関東エリア	植林、人工林の開伐等	最終更新日 2024年3月8日 2:29 PM
株式会社Carbon EX	SuzukiHideaki	関東エリア	J-クレジット創出、J-クレジット販売	公開済み 2024年2月26日 11:20 AM
e-dash株式会社	mercury	関東エリア	J-クレジット販売、その他	公開済み 2024年2月26日 11:15 AM

5-1. 企業情報を登録・編集する

「企業名称」を記入します。

企業を追加

テスト企業

パーマリンク: <https://dev.mercury.vc/company/company-571/> 編集

「カバー画像」「ロゴ」「イメージ画像」「所在地」「Googleマップ」「一覧ページ用テキスト」「エリア」「（取り組んでいる）課題」を記入します。

カバー画像
推奨サイズ: 1920*1080px

ロゴ
Logoipsum

イメージ画像

URL
<https://www.rinya.maff.go.jp/>

所在地
東京都千代田区霞が関1丁目2-1

Googleマップ
<https://maps.app.goo.gl/H1ZQ9vUqJ6QHk9CC7>

一覧ページ用テキスト
企業の一覧ページ用テキストが入ります。

エリア
よく使うもの
 北海道エリア
 東北エリア
 中部エリア
 関東エリア
 近畿エリア
 中国エリア
 四国エリア
 九州エリア

課題
よく使うもの
 植林
 人工林の開伐等
 里山（広葉樹林）の整備
 生物多様性保全
 J-クレジット創出
 J-クレジット販売
 地産産材の利活用
 企業版ふるさと納税

「イメージ画像」に載せたい画像が無い場合は、省略も可能です。

「Googleマップ」の指定方法は、○ページをご覧ください。

「問い合わせ先-部署」「問い合わせ先-担当者」「問い合わせ先-電話番号」
「問い合わせ先-FAX」「問い合わせ先-URL」「問い合わせ先-メールアドレス」
を記入します。

企業	
企業情報	問い合わせ先-部署
問い合わせ情報	営業部
取組概要	問い合わせ先-担当者
今後の取組意向	田中
自治体との連携に当たってのPR, 強み	問い合わせ先-電話番号
自治体と連携した森林整備や森林整備のための資金確保の実績	00-0000-0000
自治体と連携することで資金協力以外の取組に発展した事例	問い合わせ先-FAX
	00-0000-0000
	問い合わせ-URL
	https://www.rinya.maff.go.jp/
	問い合わせ-メールアドレス
	sample@mail.go.jp

各項目について、問い合わせ先の情報が無い場合は、省略も可能です。

「取組概要」について、「見出し」「説明文」「画像」を設定します。
「説明文」については、
「Ctrl + B」太字、「Ctrl + U」下線、「Ctrl + I」斜体などの設定ができます。
欄上のボタンから、画像追加やリンク設定（鎖マーク）も可能です。

企業 ^ v ▲

企業情報

問い合わせ情報

取組概要

見出し

炭素吸収の取組実績

説明文 文中に画像を追加

メディアを追加 太字やリスト、リンク設定などのツール ビジュアル テキスト

段落 B I                                                  

説明文を記入します。説明文を記入します。説明文を記入します。

太字にしたり、下線をつけたり、*斜体にしたり*、

リストを作ったり、

- リスト1
- リスト2
- リスト3

リンクを挿入したり、画像を挿入したりできます。



P

画像



「画像」に載せたい画像が無い場合は、省略も可能です。

「自治体と連携することで資金協力以外の取組に発展した事例」について「説明文」「画像」「紹介する連携事例」を設定します。

企業

企業情報

問い合わせ情報

取組概要

今後の取組意向

自治体との連携に当たってのPR、強み

自治体と連携した森林整備や森林整備のための資金確保の実績

自治体と連携することで資金協力以外の取組に発展した事例

説明文

メディアを追加

ビジュアル テキスト

段落

B I

説明文を記入します。説明文を記入します。説明文を記入します。

太字にしたり、下線をつけたり、斜体にしたり、

リストを作ったり、

- リスト1
- リスト2
- リスト3

リンクを挿入したり、画像を挿入したりできます。



画像

画像が選択されていません 画像を追加

紹介する連携事例

<https://dev.mercury.vc/case>

「画像」に載せたい画像が無い場合は、省略も可能です。

「紹介する連携事例」は、この項目に表示されるボタンからのリンク先です。作成した事例のURLや、プレスリリースのURL等をおすすめします。

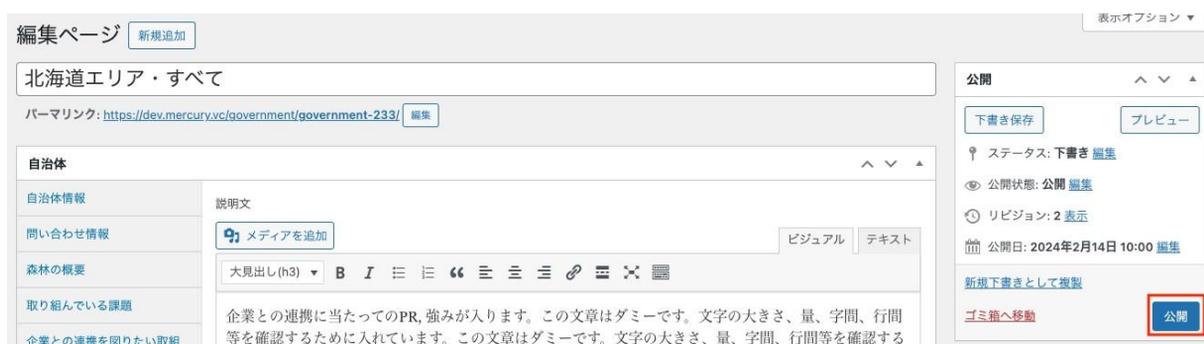
また、現時点で載せる内容が無い場合は「説明文」「画像」「紹介する連携事例」をいずれも空欄にすることで、この項目が非表示になります。

更新終了後、画面右上の「下書き保存」をクリックします。

「プレビュー」をクリックすると、登録した内容をポータルサイトのデザイン上で見られます。内容に間違いが無いかをご確認下さい。



内容に間違いがあれば、該当箇所を修正してください。



内容に間違いがなければ、画面右上にある

「公開」（新規の場合）

または

「更新」（更新の場合）

ボタンをクリックして公開します。

6. 事例の更新方法

6. 事例の登録・更新方法

管理画面の左側にあるメニューから「事例一覧」をクリックします。

新しく作る場合は「新規追加」を、編集する場合は、表示された一覧から事例タイトルをクリックします（自分たち以外の事例ページは編集できません）



The screenshot shows the 'Enterprise' management interface. On the left is a navigation menu with 'Enterprise' selected. The main area has a 'New Addition' button and a table of cases. The table has columns for 'Title', 'Author', 'Area', 'Topic', and 'Date'. One row is highlighted with a red box around the title 'テスト企業 - 下書き'.

タイトル	投稿者	エリア	課題	日付
テスト企業 - 下書き	mercury	関東エリア	植林、人工林の開伐等	最終更新日 2024年3月8日 2:29 PM
株式会社Carbon EX	SuzukiHideaki	関東エリア	J-クレジット創出、J-クレジット販売	公開済み 2024年2月26日 11:20 AM
e-dash株式会社	mercury	関東エリア	J-クレジット販売、その他	公開済み 2024年2月26日 11:15 AM

6-1. 事例を登録・編集する

「事例タイトル」を記入します。



The screenshot shows the 'Add Case' form. The title field contains 'テスト事例'. Below the form is a permalink: <https://dev.mercury.vc/case/case-573/> with an 'Edit' button.

「自治体名または企業名」「メインビジュアル」「一覧ページ用のテキスト」を記入・設定します。



The screenshot shows the 'Case' edit form. The 'Basic Information' section has a field for 'Municipality Name or Company Name' containing 'テスト企業'. The 'Main Visual' section has a field for 'Main Visual' with a recommended size of 1920*1080px and a preview image of a forest. The 'List Page Text' section has a field for 'List Page Text' containing '事例一覧ページ用のテキストが入ります。'.

「エリア」「課題」を選択します。

エリア

エリア よく使うもの

- 北海道エリア
- 東北エリア
- 中部エリア
- 関東エリア
- 近畿エリア
- 中国エリア
- 四国エリア
- 九州エリア

[+新規カテゴリーを追加](#)

課題

課題 よく使うもの

- 植林
- 人工林の間伐等
- 里山（広葉樹林）の整備
- 生物多様性保全
- J-クレジット創出
- J-クレジット販売
- 地元産材の利活用
- 森林・林業の効率化に関わる製

[+新規カテゴリーを追加](#)

【注意】

「問い合わせ情報」は、2024年3月15日時点では使用しません。
使用する運用方法となった場合は、マニュアルを更新してお知らせ致します。

事例	
基本情報	問い合わせ先-部署
問い合わせ情報	<input type="text"/>
連携の取組概要	問い合わせ先-担当者
連携先の企業(自治体)と結びついたきっかけ	<input type="text"/>
取り組みを進める上での実務プロセス	問い合わせ先-電話番号
取組の成果/今後の見込み	<input type="text"/>
	問い合わせ先-FAX
	<input type="text"/>
	問い合わせ-URL
	<input type="text"/>
	問い合わせ-メールアドレス
	<input type="text"/>

「連携の取組概要」について「説明文」「画像」を設定します。

事例

基本情報

問い合わせ情報

連携の取組概要

連携先の企業(自治体)と結びついたきっかけ

取り組みを進める上での実務プロセス

取組の成果/今後の見込み

説明文

メディアを追加

ビジュアル テキスト

段落

B I        

説明文を記入します。説明文を記入します。説明文を記入します。

太字にしたり、下線をつけたり、*斜体*にしたり、

リストを作ったり、

- リスト1
- リスト2
- リスト3

リンクを挿入したり、画像を挿入したりできます。



P

画像



「画像」に載せたい画像が無い場合は、省略も可能です。

「取り組みを進める上での実務プロセス」について「説明文」「画像」を設定します。

事例

基本情報	説明文
問い合わせ情報	メディアを追加 ビジュアル テキスト
連携の取組概要	段落 B <i>I</i> <u>≡</u> <u>≡</u> “ ” ≡ ≡ ≡   
連携先の企業(自治体)と結びつけたきっかけ	説明文を記入します。説明文を記入します。説明文を記入します。 太字にしたり、 <u>下線</u> をつけたり、 <i>斜体</i> にしたり、 リストを作ったり、 <ul style="list-style-type: none">• リスト1• リスト2• リスト3 <u>リンクを挿入</u> したり、 <u>画像</u> を挿入したりできます。 
取り組みを進める上での実務プロセス	
取組の成果 / 今後の見込み	
	画像 画像が選択されていません 画像を追加

「画像」に載せたい画像が無い場合は、省略も可能です。

「取組の成果 / 今後の見込み」について「説明文」「画像」を設定します。

事例

基本情報

問い合わせ情報

連携の取組概要

連携先の企業(自治体)と結びつけたきっかけ

取り組みを進める上での実務プロセス

取組の成果 / 今後の見込み

説明文

メディアを追加

ビジュアル テキスト

段落 B I ☰ ☷ “ ☰ ☷ ☷ 🔗 ☰ ✕ 📄

説明文を記入します。説明文を記入します。説明文を記入します。

太字にしたり、下線をつけたり、*斜体*にしたり、

リストを作ったり、

- リスト1
- リスト2
- リスト3

リンクを挿入したり、画像を挿入したりできます。



P

画像

画像が選択されていません [画像を追加](#)

「画像」に載せたい画像が無い場合は、省略も可能です。

更新終了後、画面右上の「下書き保存」をクリックします。

「プレビュー」をクリックすると、登録した内容をポータルサイトのデザイン上で見られます。内容に間違いが無いかをご確認下さい。



内容に間違いがあれば、該当箇所を修正してください。



内容に間違いがなければ、画面右上にある

「公開」（新規の場合）

または

「更新」（更新の場合）

ボタンをクリックして公開します。

7. お知らせの更新方法

7. お知らせの登録・更新方法

管理画面の左側にあるメニューから「**投稿一覧**」をクリックします。

新しく作る場合は「**新規投稿を追加**」を、編集する場合は、表示された一覧からお知らせのタイトルをクリックします。



7-1. お知らせを登録・編集する

お知らせのタイトルと本文を記入します。

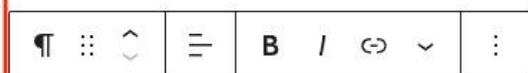
投稿テスト

お知らせのタイトル

テキストが入ります。テキストが入ります。テキストが入ります。テキストが入ります。

お知らせの本文

太字にしたり、斜体にしたり、



文字の装飾やリンクなど

リンクを挿入したりできます。

本文には、文字の装飾やリンクの挿入が可能です。

右下の+ボタンから「画像」を選ぶことで、文中に画像を挿入できます。

投稿テスト

テキストが入ります。テキストが入ります。テキストが入ります。

太字にしたり、斜体にしたり、

ブロックを選択するには「/」を入力

[リンクを挿入したり](#)できます。



画像をアップロードするか、メディアライブラリから選択します。

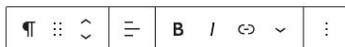


画像が本文中に挿入されます。

投稿テスト

テキストが入ります。テキストが入ります。テキストが入ります。テキストが入ります。

太字にしたり、斜体にしたり、



[リンクを挿入したり](#)できます。

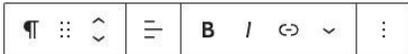


「カテゴリー」を「イベント」か「お知らせ」から選びます。

投稿テスト

テキストが入ります。テキストが入ります。テキストが入ります。テキストが入ります。

太字にしたり、斜体にしたり、



[リンクを挿入したり](#)できます。



投稿 ブロック ×

概要 ^

表示状態 公開

公開 今すぐ

URL dev.mercury.vc/?p=575

ブログのトップに固定

レビュー待ち

Copy to a new draft

ゴミ箱へ移動

カテゴリー ^

イベント

お知らせ

[新規カテゴリーを追加](#)

アイキャッチ画像 ^

アイキャッチ画像を設定

「関連ニュース」には、公開済みのお知らせ記事から、3件までを表示することができます。

関連ニュース ^ v ▲

関連ニュース-01

選択 ▲

令和5年度森林シンポジウムを開催します

選択 ▼

関連ニュース-03

選択 ▼

更新終了後、画面右上の「下書き保存」をクリックします。

「プレビュー」をクリックすると、登録した内容をポータルサイトのデザイン上で見られます。内容に間違いが無いかをご確認下さい。



内容に間違いがあれば、該当箇所を修正してください。

内容に間違いがなければ、画面右上にある

「公開」（新規の場合）

または

「更新」（更新の場合）

ボタンをクリックして公開します。

8. 固定ページの更新方法

8. 固定ページの更新方法

管理画面の左側にあるメニューから「固定ページ」をクリックします。
トップページや「山の炭素吸収応援プロジェクトとは?」ページなどを編集する場合は、表示された一覧からタイトルをクリックします。

The screenshot shows the WordPress admin dashboard for a site titled "[Staging] 山の炭素吸収応援プロジェクトポータルサイト". The left sidebar menu has "固定ページ" (Fixed Pages) selected. The main content area displays a list of fixed pages. Two entries are highlighted with red boxes: "TOP - フロントページ" and "山の炭素吸収応援プロジェクトとは?".

タイトル	投稿者	日付
TOP - フロントページ	mercury	公開済み 2024年1月25日 9:36 AM
お問い合わせ	mercury	公開済み 2024年2月20日 4:45 PM
- お問い合わせ (確認)	mercury	公開済み 2024年2月21日 1:19 PM
- お問い合わせ (送信完了)	mercury	公開済み 2024年2月21日 1:52 PM
お知らせ - 投稿ページ	mercury	公開済み 2024年2月14日 4:11 PM
サンプルページ	mercury	公開済み 2024年1月12日 2:22 PM
プライバシーポリシー・利用規約 - プライバシーポリシーページ	mercury	公開済み 2024年2月20日 5:05 PM
リンク集	mercury	公開済み 2024年2月23日 4:19 PM
参加したい方へ	mercury	公開済み 2024年2月22日 12:51 AM
山の炭素吸収応援プロジェクトとは?	mercury	公開済み 2024年2月15日 4:07 PM

8-1. 固定ページを編集する

各ページの入力欄に従い、テキストや画像の更新や公開を行って下さい。

The screenshot shows the "Edit Page" screen for the "TOP - フロントページ". The main content area is divided into sections: "メインの見出し" (Main heading), "サブの見出し" (Sub heading), "文章" (Text), and "背景画像_PC" (Background image). The text and image input fields are highlighted with red boxes.

トップページコンテンツ

メインの見出し

自治体を探す
地域の森と企業をつなぐ
共創ポータル

企業を探す

山の炭素吸収応援プロジェクトとは?
サブの見出し
未来の森のために、いま、できることがある。

連携事例紹介

リンク集
文章
「山の炭素吸収応援プロジェクト」では
自治体と企業の連携による豊かな森づくりと、
CO2吸収による脱炭素社会づくりを応援しています

背景画像_PC
推奨サイズ 1920*1080px

9. 不明点や困った際問い合わせ先

9. 不明点や困った際の問い合わせ先

ポータルサイトや更新方法に関する不明点やお困りごとは、制作事業者までお問い合わせください。

ポータルサイト制作事業者

マーキュリープロジェクトオフィス株式会社

<https://www.mercury-cafe.com/>

営業時間：10時～19時（土日祝・夏季休業期間・年末年始休業期間を除く）

担当：鈴木 雄太

電話番号：050-5538-5906（鈴木 携帯）, 050-3142-1518（会社）

FAX：03-5204-9202

メールアドレス：yuta@apps.mercury.bz（鈴木）, jpninfo@apps.mercury.bz（会社）

山の炭素吸収応援プロジェクト 会員ガイドライン

yamano-tanso.maff.go.jp

2024年3月15日 版

自治体用

山の炭素吸収応援プロジェクト

会員ガイドライン（自治体用） もくじ

1. 本番環境とテスト用環境	・・・	2
1-1. 2つの環境の違い	・・・	3
1-2. テスト用環境のベーシック認証	・・・	3
2. ポータルサイトの運用について	・・・	4
2-1. アカウント取得から記事作成まで（新規の自治体）	・・・	5
3. 管理画面について	・・・	6
3-1. ログイン	・・・	7
3-2. ログアウト	・・・	9
3-3. プロフィールを編集する	・・・	9
4. 自治体情報の更新方法	・・・	11
4-1. 自治体情報を編集する	・・・	12
5. 事例の更新方法	・・・	21
5-1. 事例を編集する	・・・	22
6. 不明点や困った際の問い合わせ先	・・・	29

1. 本番環境とテスト用環境

1. 本番環境とテスト用環境

1-1. 2つの環境の違い

本ポータルサイトには、2つの環境があります。

A. 本番環境

<https://yamano-tanso.maff.go.jp> (2024/03/15時点では未開設)
一般に公開されているWebサイトで、すべての方がアクセス可能です。

B. テスト用環境

<https://dev.mercury.vc/>

一般には公開されていないWebサイトとなります。

関係者のみが使用し、本番環境に変更を加える前に、テストをするための環境です。

更新作業に慣れるまでは、テスト用環境で作業後、表示確認を行ってから本番環境に改め
て反映して頂く手順をオススメします。

1-2. テスト用環境のベーシック認証

テスト用環境には、外部の方に閲覧されないように、ベーシック認証というセキュリティ対策がされています。

ログイン
https://dev.mercury.vc
ユーザー名
パスワード
キャンセル ログイン

テスト用環境にアクセスした時に、上記のような画面で、ユーザー名とパスワードを聞かれた場合、

ユーザー名 : yamanotanso_demo

パスワード : portal_2024

と入力して、ログインできます。

こちらのユーザー名とパスワードは、外部の方には教えないようにお願いします。

2.ポータルサイトの運用について

2.ポータルサイトの運用について

2-1. アカウント取得から記事作成まで（新規の自治体）

アカウント取得前に、必ず以下URLまたはQRコードより、利用規約・およびプライバシーポリシーをお読みください。

<https://yamano-tanso.maff.go.jp/privacy-policy/>



本ポータルサイトに情報を掲載される場合は、利用規約・プライバシーポリシーの内容にご了承いただいたものとさせていただきます。

以下の流れでアカウントを取得し、情報をポータルサイトに掲載してください。

(1) アカウント作成に必要な情報を用意 ……………（各自治体）

アカウント作成に必要な情報をポータルサイトの参加者申請フォームにご入力ください。



(2) アカウントの発行 ………（サイト管理者）

管理者より、アカウントに関するメールが送信されます。
メールの内容に従って、管理画面にログインしてください。
管理画面については、本マニュアルの第3章をご参照ください。



(3) 自治体情報の更新 ……………（各自治体）

自治体の情報を更新し、公開します。
公開後も、変更したい内容があれば、ログインして更新が可能です。
更新方法については、本マニュアルの第4章をご参照ください。



(4) 事例の掲載 ……………（各自治体）

事務局で作成した事例について、各自治体ごとに事例を編集できます。
公開後も、変更したい内容があれば、ログインして更新が可能です。
更新方法については、本マニュアルの第5章をご参照ください。

3. 管理画面について

3.管理画面について

3-1.ログイン

①下記URLよりログインページにアクセスします。

【本番環境】

2024/03/15 時点で未定

【テスト用環境】

https://dev.mercury.vc/login_20476

ユーザー名またはメールアドレス・パスワード・画面に表示されたひらがな4文字を入力してログインします（ひらがなは、ロボットの不正ログインを防ぐためのセキュリティ対策で、文字列は毎回変わります）

ユーザー名またはメールアドレス

パスワード

ふゆつ

上に表示された文字を入力してください。

ログイン状態を保存する

パスワードをお忘れですか？

← 【Staging】山の炭素吸収応援プロジェクトポータルサイトへ移動

[プライバシーポリシー](#)・[利用規約](#)

日本語

※パスワードを忘れてしまった場合※

ログインページ下部の「パスワードをお忘れですか？」をクリックします。
登録したメールアドレスを入力して、パスワードの変更手続きが可能です。
手続きができない場合は、管理者にお問い合わせください。

②管理画面

ログインに成功すると、下図のような管理画面が表示されます。

画面左のメニュー「自治体」「事例」から、各コンテンツの新規作成や編集が可能です。

The screenshot displays the WordPress dashboard for a staging site. The top navigation bar includes the site name '山の炭素吸収応援プロジェクトポータルサイト' and the user name 'こんにちは、テスト投稿者 さん'. The left sidebar menu contains the following items: 'ダッシュボード', '投稿', 'メディア', '自治体', '企業', '事例', 'お問い合わせ', 'プロフィール', and 'メニューを閉じる'. The main dashboard area is titled 'ダッシュボード' and features several widgets:

- 概要 (Overview):** Shows '1件の投稿' (1 post) and '10件の固定ページ' (10 fixed pages). Below this, it indicates 'WordPress 6.4.3 (yamano-tanso.maff テーマ)'.
- アクティビティ (Activity):** Under '最近公開' (Recently Published), it shows a post from '2月15日 4:55 PM' with the text '令和5年度森林シンポジウムを開催します'.
- クイックドラフト (Quick Draft):** Includes a 'タイトル' (Title) field, a 'コンテンツ' (Content) field with the prompt 'アイデアを書き留めてみましょう。' (Let's jot down ideas.), and a '下書き保存' (Save Draft) button.
- WordPress イベントとニュース (WordPress Events and News):** Lists upcoming events with dates and times:
 - 八王子 WordPress Meetup 2024年3月度「WordPress サイトのバックアップしてありますか?」 (March 9, 2024, 2:00 PM GMT+9)
 - ゲストとともに WordCamp Asia 2024 を振り返ろう/ Recap of WordCamp Asia 2024 with guests (March 12, 2024, 7:00 PM GMT+9)
 - 第17回横浜 WordPress Meetup 交流会 (March 17, 2024, 2:00 PM GMT+9)

3-2. ログアウト

画面右上のユーザー名にカーソルを合わせると、メニューが開きますので、「ログアウト」をクリックします。更新作業終了後は、ログアウトをしてください。



3-3. プロフィールを編集する

①画面右上のユーザー名にカーソルを合わせると、メニューが開きますので、「プロフィールを編集」を選択、または左メニューから「プロフィール」をクリックします。



- ②「名」「姓」「メールアドレス」「パスワード」等が変更可能です。
ユーザー名やニックネームは変更しないでください。

名前

ユーザー名 ユーザー名は変更できません。

名

姓

ニックネーム (必須) ここは変更しない。

ブログ上の表示名

連絡先情報

メール (必須)
変更すると、新しいメールアドレスに確認メールが送信されます。承認されるまで、新しいメールアドレスは有効化されません。

サイト

あなたについて

プロフィール情報

プロフィールに添える簡単な自己紹介を書き入れてみましょう。この情報はテンプレートを編集すればサイトに表示できます。

- ③「パスワード」が変更可能です。セキュリティを高めるため、ユーザー名やニックネームと同じ文字列は設定しないでください。

アカウント管理

新しいパスワード

新しいパスワードを設定

「新しいパスワードを設定」でランダムに生成されたパスワードが表示されます。「隠す」をクリックすると「.....」で表示されます。「キャンセル」をクリックすると生成されたパスワードがキャンセルされ、元の画面に戻ります。再度「パスワードを生成する」で新たなパスワードが生成されます。任意のパスワードも入力可能です。

パスワード

強力

4. 自治体情報の更新方法

4.自治体情報の更新方法

管理画面の左側にあるメニューから「自治体一覧」をクリックします。

編集する場合は、表示された一覧から自治体の名前をクリックします（自分以外の自治体ページは編集できません）

タイトル	投稿者	エリア	課題	日付
テスト自治体 - 下書き	テスト投稿者	関東エリア	植林	最終更新日 2024年3月4日 9:52 AM
広島県北広島町	mercury	中国エリア	植林、里山（広葉樹林）の整備、生物多様性保全、地元産材の利活用、その他	公開済み 2024年2月26日 11:34 AM
北海道エリア・すべて - 下書き	mercury	北海道エリア	植林、人工林の間伐等、里山（広葉樹林）の整備、生物多様性保全、J-クレジット創出、J-クレジット販売、地元産材の利活用、企業版ふるさと納税、その他	最終更新日 2024年2月14日 10:00 AM

4-1.自治体情報を編集する

「自治体名称」を記入します。

編集ページ [新規追加](#)

自治体名称

パーマリンク: <https://dev.mercury.vc/government/government-562/> [編集](#)

「カバー画像」「ロゴ」「所在地」「Googleマップ」「一覧ページ用テキスト」「エリア」「（取り組んでいる）課題」を記入します。

自治体

自治体情報

カバー画像
推奨サイズ 1920*1080

問い合わせ情報

森林の概要

取り組んでいる課題

企業との連携を図りたい取組

企業との連携に当たってのPR、強み

企業と連携した森林整備や森林整備のための資金確保の実績

企業と連携することで資金協力以外の取組に発展した事例

ロゴ

所在地

東京都千代田区霞が関1丁目2-1

Googleマップ

<https://maps.app.goo.gl/HZQsVUqJ6QHk9CC7>

一覧ページ用テキスト

自治体の一覧ページ用テキストが入ります。

ステータス: 下書き [編集](#)

公開状態: 公開 [編集](#)

リビジョン: 2 [表示](#)

公開日: 2024年3月4日 09:52 [編集](#)

[ゴミ箱へ移動](#) [公開](#)

エリア

エリア よく使うもの

- 関東エリア
- 北海道エリア
- 東北エリア
- 中部エリア
- 近畿エリア
- 中国エリア
- 四国エリア
- 九州エリア

課題

課題 よく使うもの

- 植林
- 人工林の間伐等
- 里山（広葉樹林）の整備
- 生物多様性保全
- J-クレジット創出
- J-クレジット販売
- 地元産材の利活用
- 企業版ふるさと納税

【Google マップの欄について】

以下リンク先で、自治体の住所を調べます。林野庁を例にご説明します。

<https://www.google.com/maps/>

住所が見つかったら、「共有」をクリックします。



林野庁

3.1 ★★★★★ (15)
政府機関

概要

クチコミ

基本情報



ルート・乗換



保存



付近を検索



モバイルデバイスに送信



共有

「地図を埋め込む」を選び「HTMLをコピー」ボタンをクリックします。
(左側の <iframe~ というプログラムがコピーされます。)

共有

リンクを送信する

地図を埋め込む

中 ▾

<iframe src="https://www.google.com/maps/embed?pb=!1m18!1m12!1m3"

HTML をコピー

「Googleマップ」にペースト (Ctrl + V) して、URLを記入します。

Googleマップ

<https://maps.app.goo.gl/HZQsVUqJ6QHhk9CC7>

「問い合わせ先-部署」「問い合わせ先-担当者」「問い合わせ先-電話番号」
「問い合わせ先-FAX」「問い合わせ先-URL」「問い合わせ先-メールアドレス」
を記入します。

自治体 ^ v ▲	
自治体情報	問い合わせ先-部署
問い合わせ情報	<input type="text" value="農林課"/>
森林の概要	問い合わせ先-担当者
取り組んでいる課題	<input type="text" value="鈴木"/>
企業との連携を図りたい取組	問い合わせ先-電話番号
企業との連携に当たってのPR, 強み	<input type="text" value="00-0000-0000"/>
企業と連携した森林整備や森林整備のための資金確保の実績	問い合わせ先-FAX
企業と連携することで資金協力以外の取組に発展した事例	<input type="text" value="00-0000-0000"/>
	問い合わせ-URL
	<input type="text" value="https://www.rinya.maff.go.jp/"/>
	問い合わせ-メールアドレス
	<input type="text" value="sample@mail.go.jp"/>

各項目について、問い合わせ先の情報が無い場合は、省略も可能です。

「取り組んでいる課題」について、「説明文」を設定します。
最初に選んだ「課題」の詳細が、企業に向けて伝わる文章の作成をおすすめします。
「森林の概要」等と同様に、文字の装飾や画像追加やリンク設定が可能です。

自治体

自治体情報	説明文
問い合わせ情報	<input type="button" value="メディアを追加"/>
森林の概要	ビジュアル テキスト
取り組んでいる課題	段落 B I 三 三 “ 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三
企業との連携を図りたい取組	説明文を記入します。説明文を記入します。説明文を記入します。
企業との連携に当たったのPR, 強み	太字にしたり、 <u>下線をつけたり</u> 、 <i>斜体</i> にしたり、
企業と連携した森林整備や森林整備のための資金確保の実績	リストを作ったり、
企業と連携することで資金協力以外の取組に発展した事例	<ul style="list-style-type: none">• リスト1• リスト2• リスト3
	<u>リンクを挿入</u> したり、画像を挿入したりできます。
	
	P

「企業との連携を図りたい取組」について、「説明文」「画像」を設定します。
「森林の概要」等と同様に、文字の装飾や画像追加やリンク設定が可能です。

自治体

自治体情報	説明文
問い合わせ情報	<input type="button" value="メディアを追加"/>
森林の概要	ビジュアル テキスト
取り組んでいる課題	段落 B I 三 三 “ 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三
企業との連携を図りたい取組	説明文を記入します。説明文を記入します。説明文を記入します。
企業との連携に当たったのPR, 強み	太字にしたり、 <u>下線をつけたり</u> 、 <i>斜体</i> にしたり、
企業と連携した森林整備や森林整備のための資金確保の実績	リストを作ったり、
企業と連携することで資金協力以外の取組に発展した事例	<ul style="list-style-type: none">• リスト1• リスト2• リスト3
	<u>リンクを挿入</u> したり、画像を挿入したりできます。
	
	P

画像

画像が選択されていません

「画像」に載せたい画像が無い場合は、省略も可能です。

「企業との連携に当たってのPR, 強み」について、「説明文」「画像」を設定します。「森林の概要」等と同様に、文字の装飾や画像追加やリンク設定が可能です。

自治体	
自治体情報	説明文
問い合わせ情報	<input type="button" value="メディアを追加"/> ビジュアル テキスト
森林の概要	段落 B <i>I</i> ☰ ☷ “ ☰ ☷ ☷ 🔗 ☰ ☷ ☰
取り組んでいる課題	説明文を記入します。説明文を記入します。説明文を記入します。
企業との連携を図りたい取組	太字にしたり、 <u>下線</u> をつけたり、 <i>斜体</i> にしたり、
企業との連携に当たってのPR, 強み	リストを作ったり、
企業と連携した森林整備や森林整備のための資金確保の実績	<ul style="list-style-type: none">• リスト1• リスト2• リスト3
企業と連携することで資金協力以外の取組に発展した事例	<u>リンクを挿入</u> したり、画像を挿入したりできます。
	
	P
	画像
	画像が選択されていません <input type="button" value="画像を追加"/>

「画像」に載せたい画像が無い場合は、省略も可能です。

また、現時点で載せる内容が無い場合は「説明文」と「画像」の両方を空欄にすることで、この項目が非表示になります。

「企業と連携することで資金協力以外の取組に発展した事例」について、「説明文」「画像」「紹介する連携事例」を設定します。

「説明文」は、「森林の概要」等と同様に、文字の装飾や画像追加やリンク設定が可能です。

自治体

自治体情報

問い合わせ情報

森林の概要

取り組んでいる課題

企業との連携を図りたい取組

企業との連携に当たってのPR, 強み

企業と連携した森林整備や森林整備のための資金確保の実績

企業と連携することで資金協力以外の取組に発展した事例

説明文

メディアを追加

ビジュアル テキスト

段落

B I   “    

説明文を記入します。説明文を記入します。説明文を記入します。

太字にしたり、下線をつけたり、*斜体*にしたり、

リストを作ったり、

- リスト1
- リスト2
- リスト3

リンクを挿入したり、画像を挿入したりできます。



P

画像



紹介する連携事例

<https://dev.mercury.vc/case>

「画像」に載せたい画像が無い場合は、省略も可能です。

「紹介する連携事例」は、この項目に表示されるボタンからのリンク先です。作成した事例のURLや、プレスリリースのURL等をおすすめします。

また、現時点で載せる内容が無い場合は「説明文」「画像」「紹介する連携事例」をいずれも空欄にすることで、この項目が非表示になります。

更新終了後、画面右上の「下書き保存」をクリックします。

「プレビュー」をクリックすると、登録した内容をポータルサイトのデザイン上で見られます。内容に間違いが無いかをご確認下さい。



内容に間違いがあれば、該当箇所を修正してください。



内容に間違いがなければ、画面右上にある

「更新」（更新の場合）

ボタンをクリックして公開します。

5. 事例の更新方法

5. 事例の更新方法

管理画面の左側にあるメニューから「事例一覧」をクリックします。

登録者の事例情報（事前に事務局が作成）を編集する場合は、表示された一覧から事例タイトルをクリックします（自分たち以外の事例ページは編集できません）

The screenshot shows the 'Enterprise' management interface. On the left is a navigation menu with 'Enterprise' selected. The main area displays a table of cases. The first row, 'テスト企業 - 下書き', is highlighted with a red box. The table columns are: Title, Author, Area, Topic, and Date. Below the table are filters for 'All (7)', 'Published (6)', 'Draft (1)', and 'Trash (9)', along with a search bar and a '7 items' indicator.

タイトル	投稿者	エリア	課題	日付
テスト企業 - 下書き	mercury	関東エリア	植林、人工林の開伐等	最終更新日 2024年3月8日 2:29 PM
株式会社Carbon EX	SuzukiHideaki	関東エリア	J-クレジット創出、J-クレジット販売	公開済み 2024年2月26日 11:20 AM
e-dash株式会社	mercury	関東エリア	J-クレジット販売、その他	公開済み 2024年2月26日 11:15 AM

5-1. 事例を編集する

「事例タイトル」を記入します。

The screenshot shows the 'Add Case' form. The 'Title' field contains 'テスト事例' and is highlighted with a red box. Below the form, a permanent link is shown: <https://dev.mercury.vc/case/case-573/> with an 'Edit' button.

「自治体名または企業名」「メインビジュアル」「一覧ページ用のテキスト」を記入・設定します。

The screenshot shows the 'Case' edit form. The 'Basic Information' section is expanded. The 'Title' field contains 'テスト企業' and is highlighted with a red box. The 'Main Visual' section shows a placeholder image of a forest, also highlighted with a red box. The 'List Page Text' section contains the text '事例一覧ページ用のテキストが入ります。' and is highlighted with a red box.

「エリア」「課題」を選択します。

エリア

エリア よく使うもの

- 北海道エリア
- 東北エリア
- 中部エリア
- 関東エリア
- 近畿エリア
- 中国エリア
- 四国エリア
- 九州エリア

[+新規カテゴリーを追加](#)

課題

課題 よく使うもの

- 植林
- 人工林の間伐等
- 里山（広葉樹林）の整備
- 生物多様性保全
- J-クレジット創出
- J-クレジット販売
- 地元産材の利活用
- 森林・林業の効率化に関わる製

[+新規カテゴリーを追加](#)

【注意】

「問い合わせ情報」は、2024年3月15日時点では使用しません。
使用する運用方法となった場合は、マニュアルを更新してお知らせ致します。

事例	
基本情報	問い合わせ先-部署
問い合わせ情報	<input type="text"/>
連携の取組概要	問い合わせ先-担当者
連携先の企業(自治体)と結びつきたきっかけ	<input type="text"/>
取り組みを進める上での実務プロセス	問い合わせ先-電話番号
取組の成果/今後の見込み	<input type="text"/>
	問い合わせ先-FAX
	<input type="text"/>
	問い合わせ-URL
	<input type="text"/>
	問い合わせ-メールアドレス
	<input type="text"/>

「連携の取組概要」について「説明文」「画像」を設定します。

事例

基本情報

問い合わせ情報

連携の取組概要

連携先の企業(自治体)と結びついたきっかけ

取り組みを進める上での実務プロセス

取組の成果/今後の見込み

説明文

メディアを追加

ビジュアル テキスト

段落

B I        

説明文を記入します。説明文を記入します。説明文を記入します。

太字にしたり、下線をつけたり、*斜体*にしたり、

リストを作ったり、

- リスト1
- リスト2
- リスト3

リンクを挿入したり、画像を挿入したりできます。



P

画像



「画像」に載せたい画像が無い場合は、省略も可能です。

「連携先の企業と結びつけたきっかけ」について「説明文」「画像」を設定します。

事例



基本情報	説明文		
問い合わせ情報	メディアを追加	ビジュアル	テキスト
連携の取組概要	段落	B <i>I</i>	
連携先の企業(自治体)と結びつけたきっかけ	<p>説明文を記入します。説明文を記入します。説明文を記入します。</p> <p>太字にしたり、<u>下線をつけたり</u>、<i>斜体</i>にしたり、</p> <p>リストを作ったり、</p> <ul style="list-style-type: none">• リスト1• リスト2• リスト3 <p><u>リンクを挿入</u>したり、<u>画像を挿入</u>したりできます。</p> 		
取り組みを進める上での実務プロセス	P		
取組の成果 / 今後の見込み	P		
	画像	画像が選択されていません 画像を追加	

「画像」に載せたい画像が無い場合は、省略も可能です。

更新終了後、画面右上の「下書き保存」をクリックします。

「プレビュー」をクリックすると、登録した内容をポータルサイトのデザイン上で見られます。内容に間違いが無いかをご確認下さい。



内容に間違いがあれば、該当箇所を修正してください。



内容に間違いがなければ、画面右上にある

「更新」（更新の場合）

ボタンをクリックして公開します。

6. 不明点や困った際問い合わせ先

6. 不明点や困った際の問い合わせ先

ポータルサイトや更新方法に関する不明点やお困りごとは、事務局までお問い合わせください。

山の炭素吸収応援プロジェクト事務局

メールアドレス：forestry_carbon@tohmatsumi.co.jp

山の炭素吸収応援プロジェクト 会員ガイドライン

yamano-tanso.maff.go.jp

2024年3月15日 版

企業用

山の炭素吸収応援プロジェクト

会員ガイドライン（企業用） もくじ

1. 本番環境とテスト用環境	・・・	2
1-1. 2つの環境の違い	・・・	3
1-2. テスト用環境のベーシック認証	・・・	3
2. ポータルサイトの運用について	・・・	4
2-1. アカウント取得から記事作成まで（新規の企業）	・・・	5
3. 管理画面について	・・・	6
3-1. ログイン	・・・	7
3-2. ログアウト	・・・	9
3-3. プロフィールを編集する	・・・	9
4. 企業情報の更新方法	・・・	11
4-1. 企業情報を編集する	・・・	12
5. 事例の更新方法	・・・	20
5-1. 事例を編集する	・・・	21
6. 不明点や困った際の問い合わせ先	・・・	28

1. 本番環境とテスト用環境

1. 本番環境とテスト用環境

1-1. 2つの環境の違い

本ポータルサイトには、2つの環境があります。

A. 本番環境

<https://yamano-tanso.maff.go.jp> (2024/03/15時点では未開設)
一般に公開されているWebサイトで、すべての方がアクセス可能です。

B. テスト用環境

<https://dev.mercury.vc/>

一般には公開されていないWebサイトとなります。

関係者のみが使用し、本番環境に変更を加える前に、テストをするための環境です。

更新作業に慣れるまでは、テスト用環境で作業後、表示確認を行ってから本番環境に改めで反映して頂く手順をオススメします。

1-2. テスト用環境のベーシック認証

テスト用環境には、外部の方に閲覧されないように、ベーシック認証というセキュリティ対策がされています。



ログイン
https://dev.mercury.vc

ユーザー名

パスワード

キャンセル ログイン

テスト用環境にアクセスした時に、上記のような画面で、ユーザー名とパスワードを聞かれた場合、

ユーザー名 : yamanotanso_demo

パスワード : portal_2024

と入力して、ログインできます。

こちらのユーザー名とパスワードは、外部の方には教えないようにお願いします。

2.ポータルサイトの運用について

2.ポータルサイトの運用について

2-1. アカウント取得から記事作成まで（新規の企業）

アカウント取得前に、必ず以下URLまたはQRコードより、利用規約・およびプライバシーポリシーをお読みください。

<https://yamano-tanso.maff.go.jp/privacy-policy/>



本ポータルサイトに情報を掲載される場合は、利用規約・プライバシーポリシーの内容にご了承いただいたものとさせていただきます。

以下の流れでアカウントを取得し、情報をポータルサイトに掲載してください。

(1) アカウント作成に必要な情報を用意 ……………（各企業）

アカウント作成に必要な情報をポータルサイトの参加者申請フォームにご入力ください。



(2) アカウントの発行 ……………（サイト管理者）

管理者より、アカウントに関するメールが送信されます。
メールの内容に従って、管理画面にログインしてください。
管理画面については、本マニュアルの第3章をご参照ください。



(3) 企業情報の更新 ……………（各企業）

企業の情報を更新し、公開します。
公開後も、変更したい内容があれば、ログインして更新が可能です。
更新方法については、本マニュアルの第4章をご参照ください。



(4) 事例の掲載 ……………（各企業）

事務局で作成した事例について、各企業ごとに事例を編集できます。
公開後も、変更したい内容があれば、ログインして更新が可能です。
更新方法については、本マニュアルの第6章をご参照ください。

3. 管理画面について

3.管理画面について

3-1.ログイン

①下記URLよりログインページにアクセスします。

【本番環境】

2024/03/15 時点で未定

【テスト用環境】

https://dev.mercury.vc/login_20476

ユーザー名またはメールアドレス・パスワード・画面に表示されたひらがな4文字を入力してログインします（ひらがなは、ロボットの不正ログインを防ぐためのセキュリティ対策で、文字列は毎回変わります）

ユーザー名またはメールアドレス

パスワード

くぶつ
上に表示された文字を入力してください。

ログイン状態を保存する

パスワードをお忘れですか？

← 【Staging】山の炭素吸収応援プロジェクトポータルサイトへ移動

[プライバシーポリシー・利用規約](#)

日本語

※パスワードを忘れてしまった場合※

ログインページ下部の「パスワードをお忘れですか？」をクリックします。
登録したメールアドレスを入力して、パスワードの変更手続きが可能です。
手続きができない場合は、管理者にお問い合わせください。

②管理画面

ログインに成功すると、下図のような管理画面が表示されます。

画面左のメニュー「企業」「事例」から、各コンテンツの新規作成や編集が可能です。

The screenshot shows the WordPress dashboard for a staging site. The top navigation bar includes the site name, a user profile icon, and a language selector. The left sidebar contains a menu with icons for various dashboard sections. The main content area is titled 'ダッシュボード' and is organized into several widgets. The '概要' widget provides a quick overview of site statistics. The 'クイックドラフト' widget allows for creating a new post quickly. The 'WordPress イベントとニュース' widget lists upcoming events and news items, including meetups and conferences.

3-2. ログアウト

画面右上のユーザー名にカーソルを合わせると、メニューが開きますので、「ログアウト」をクリックします。更新作業終了後は、ログアウトをしてください。



3-3. プロフィールを編集する

①画面右上のユーザー名にカーソルを合わせると、メニューが開きますので、「プロフィールを編集」を選択、または左メニューから「プロフィール」をクリックします。



- ②「名」「姓」「メールアドレス」「パスワード」等が変更可能です。
ユーザー名やニックネームは変更しないでください。

名前

ユーザー名 ユーザー名は変更できません。

名

姓

ニックネーム (必須) ここは変更しない。

ブログ上の表示名

連絡先情報

メール (必須)
変更すると、新しいメールアドレスに確認メールが送信されます。承認されるまで、新しいメールアドレスは有効化されません。

サイト

あなたについて

プロフィール情報

プロフィールに添える簡単な自己紹介を書き入れてみましょう。この情報はテンプレートを編集すればサイトに表示できます。

- ③「パスワード」が変更可能です。セキュリティを高めるため、ユーザー名やニックネームと同じ文字列は設定しないでください。

アカウント管理

新しいパスワード

新しいパスワードを設定

「新しいパスワードを設定」でランダムに生成されたパスワードが表示されます。「隠す」をクリックすると「.....」で表示されます。「キャンセル」をクリックすると生成されたパスワードがキャンセルされ、元の画面に戻ります。再度「パスワードを生成する」で新たなパスワードが生成されます。任意のパスワードも入力可能です。

パスワード

強力

4. 企業情報の更新方法

4. 企業情報の更新方法

管理画面の左側にあるメニューから「企業一覧」をクリックします。

編集する場合は、表示された一覧から企業の名前をクリックします（自分の企業以外のページは編集できません）

タイトル	投稿者	エリア	課題	日付
テスト企業 - 下書き	mercury	関東エリア	植林、人工林の開伐等	最終更新日 2024年3月8日 2:29 PM
株式会社Carbon EX	SuzukiHideaki	関東エリア	J-クレジット創出、J-クレジット販売	公開済み 2024年2月26日 11:20 AM
e-dash株式会社	mercury	関東エリア	J-クレジット販売、その他	公開済み 2024年2月26日 11:15 AM

4-1. 企業情報を編集する

「企業名称」を記入します。

企業を追加

テスト企業

パーマリンク: <https://dev.mercury.vc/company/company-571/> 編集

「カバー画像」「ロゴ」「イメージ画像」「所在地」「Googleマップ」「一覧ページ用テキスト」「エリア」「（取り組んでいる）課題」を記入します。

企業

企業情報

問い合わせ情報

取組概要

今後の取組意向

自治体との連携に当たってのPR、強み

自治体と連携した森林整備や森林整備のための資金確保の実績

自治体と連携することで資金協力以外の取組に発展した事例

カバー画像
推奨サイズ: 1920*1080px

ロゴ

イメージ画像

URL
<https://www.rinya.maff.go.jp/>

所在地
東京都千代田区霞が関1丁目2-1

Googleマップ
<https://maps.app.goo.gl/H1ZQ9VUqJ6QHk9CC7>

一覧ページ用テキスト
企業の一覧ページ用テキストが入ります。

エリア | よく使うもの

- 北海道エリア
- 東北エリア
- 中部エリア
- 関東エリア
- 近畿エリア
- 中国エリア
- 四国エリア
- 九州エリア

+新規カテゴリを追加

課題 | よく使うもの

- 植林
- 人工林の開伐等
- 里山（広葉樹林）の整備
- 生物多様性保全
- J-クレジット創出
- J-クレジット販売
- 地産産材の利活用
- 企業版ふるさと納税

+新規カテゴリを追加

アイキャッチ画像

アイキャッチ画像を設定

「イメージ画像」に載せたい画像が無い場合は、省略も可能です。

「Googleマップ」の指定方法は、○ページをご覧ください。

【Google マップの欄について】

以下リンク先で、企業の住所を調べます。林野庁を例にご説明します。

<https://www.google.com/maps/>

住所が見つかったら、「共有」をクリックします。



林野庁

3.1 ★★★★★ (15)
政府機関

概要

クチコミ

基本情報



ルート・乗換



保存



付近を検索



モバイルデバイスに送信



共有

「地図を埋め込む」を選び「HTMLをコピー」ボタンをクリックします。
(左側の <iframe~ というプログラムがコピーされます。)

共有



リンクを送信する

地図を埋め込む

中 ▾

<iframe src="https://www.google.com/maps/embed?pb=!1m18!1m12!1m3

HTML をコピー

「Googleマップ」にペースト (Ctrl + V) して、URLを記入します。

Googleマップ

<https://maps.app.goo.gl/HZQsVUqJ6QHhk9CC7>

「問い合わせ先-部署」「問い合わせ先-担当者」「問い合わせ先-電話番号」
「問い合わせ先-FAX」「問い合わせ先-URL」「問い合わせ先-メールアドレス」
を記入します。

企業	
企業情報	問い合わせ先-部署
問い合わせ情報	営業部
取組概要	問い合わせ先-担当者
今後の取組意向	田中
自治体との連携に当たってのPR, 強み	問い合わせ先-電話番号
自治体と連携した森林整備や森林整備のための資金確保の実績	00-0000-0000
自治体と連携することで資金協力以外の取組に発展した事例	問い合わせ先-FAX
	00-0000-0000
	問い合わせ-URL
	https://www.rinya.maff.go.jp/
	問い合わせ-メールアドレス
	sample@mail.go.jp

各項目について、問い合わせ先の情報が無い場合は、省略も可能です。

「取組概要」について、「見出し」「説明文」「画像」を設定します。
「説明文」については、
「Ctrl + B」太字、「Ctrl + U」下線、「Ctrl + I」斜体などの設定ができます。
欄上のボタンから、画像追加やリンク設定（鎖マーク）も可能です。

企業 ^ v ▲

企業情報

問い合わせ情報

取組概要

見出し

炭素吸収の取組実績

説明文 文中に画像を追加

メディアを追加 太字やリスト、リンク設定などのツール ビジュアル テキスト

段落 B I                                               

説明文を記入します。説明文を記入します。説明文を記入します。

太字にしたり、下線をつけたり、*斜体にしたり*、

リストを作ったり、

- リスト1
- リスト2
- リスト3

リンクを挿入したり、画像を挿入したりできます。



P

画像



「画像」に載せたい画像が無い場合は、省略も可能です。

「自治体と連携することで資金協力以外の取組に発展した事例」について「説明文」「画像」「紹介する連携事例」を設定します。

企業

企業情報

問い合わせ情報

取組概要

今後の取組意向

自治体との連携に当たったPR、強み

自治体と連携した森林整備や森林整備のための資金確保の実績

自治体と連携することで資金協力以外の取組に発展した事例

説明文

メディアを追加

ビジュアル テキスト

段落

B I

説明文を記入します。説明文を記入します。説明文を記入します。

太字にしたり、下線をつけたり、斜体にしたり、

リストを作ったり、

- リスト1
- リスト2
- リスト3

リンクを挿入したり、画像を挿入したりできます。



画像

画像が選択されていません 画像を追加

紹介する連携事例

<https://dev.mercury.vc/case>

「画像」に載せたい画像が無い場合は、省略も可能です。

「紹介する連携事例」は、この項目に表示されるボタンからのリンク先です。作成した事例のURLや、プレスリリースのURL等をおすすめします。

また、現時点で載せる内容が無い場合は「説明文」「画像」「紹介する連携事例」をいずれも空欄にすることで、この項目が非表示になります。

更新終了後、画面右上の「下書き保存」をクリックします。

「プレビュー」をクリックすると、登録した内容をポータルサイトのデザイン上で見られます。内容に間違いが無いかをご確認下さい。



内容に間違いがあれば、該当箇所を修正してください。



内容に間違いがなければ、画面右上にある「更新」（更新の場合）ボタンをクリックして公開します。

5. 事例の更新方法

5. 事例の更新方法

管理画面の左側にあるメニューから「事例一覧」をクリックします。

登録者の事例情報（事前に事務局が作成）を編集する場合は、表示された一覧から事例タイトルをクリックします（自分たち以外の事例ページは編集できません）

The screenshot shows a web interface for managing enterprises. On the left is a dark sidebar with a menu where '企業一覧' (Enterprise List) is highlighted. The main content area is titled '企業' (Enterprise) and includes a '新規追加' (New Add) button. Below the title is a notification about ACF rendering. There are filters for 'すべて (7) | 所有 (6) | 公開済み (6) | 下書き (1) | ゴミ箱 (9)' and a search bar. A table lists several cases with columns for 'タイトル' (Title), '投稿者' (Author), 'エリア' (Area), '課題' (Issue), and '日付' (Date). The first row, 'テスト企業 - 下書き' (Test Enterprise - Draft), is highlighted with a red box.

5-1. 事例を編集する

「事例タイトル」を記入します。

The screenshot shows the '事例を追加' (Add Case) form. A text input field contains 'テスト事例' (Test Case), which is highlighted with a red box. Below the field is a URL: 'パーマリンク: <https://dev.mercury.vc/case/case-573/> 編集'.

「企業名」「メインビジュアル」「一覧ページ用のテキスト」を記入・設定します。

The screenshot shows the '事例' (Case) edit form. The '基本情報' (Basic Information) section is expanded. The '自治体名または企業名' (Municipality Name or Company Name) field contains 'テスト企業' (Test Enterprise), highlighted with a red box. The 'メインビジュアル' (Main Visual) section shows a placeholder image of a forest, also highlighted with a red box. The '一覧ページ用テキスト' (List Page Text) field contains the text '事例一覧ページ用のテキストが入ります。' (Text for the case list page is entered here.), highlighted with a red box.

「エリア」「課題」を選択します。

エリア

エリア よく使うもの

- 北海道エリア
- 東北エリア
- 中部エリア
- 関東エリア
- 近畿エリア
- 中国エリア
- 四国エリア
- 九州エリア

[+新規カテゴリーを追加](#)

課題

課題 よく使うもの

- 植林
- 人工林の間伐等
- 里山（広葉樹林）の整備
- 生物多様性保全
- J-クレジット創出
- J-クレジット販売
- 地元産材の利活用
- 森林・林業の効率化に関わる製

[+新規カテゴリーを追加](#)

【注意】

「問い合わせ情報」は、2024年3月15日時点では使用しません。
使用する運用方法となった場合は、マニュアルを更新してお知らせ致します。

事例	
基本情報	問い合わせ先-部署
問い合わせ情報	<input type="text"/>
連携の取組概要	問い合わせ先-担当者
連携先の企業(自治体)と結びつきたきっかけ	<input type="text"/>
取り組みを進める上での実務プロセス	問い合わせ先-電話番号
取組の成果 / 今後の見込み	<input type="text"/>
	問い合わせ先-FAX
	<input type="text"/>
	問い合わせ-URL
	<input type="text"/>
	問い合わせ-メールアドレス
	<input type="text"/>

「連携の取組概要」について「説明文」「画像」を設定します。

事例

基本情報

問い合わせ情報

連携の取組概要

連携先の企業(自治体)と結びついたきっかけ

取り組みを進める上での実務プロセス

取組の成果/今後の見込み

説明文

メディアを追加

ビジュアル テキスト

段落

B I         

説明文を記入します。説明文を記入します。説明文を記入します。

太字にしたり、下線をつけたり、*斜体*にしたり、

リストを作ったり、

- リスト1
- リスト2
- リスト3

リンクを挿入したり、画像を挿入したりできます。



P

画像



「画像」に載せたい画像が無い場合は、省略も可能です。

「取り組みを進める上での実務プロセス」について「説明文」「画像」を設定します。

事例

基本情報	説明文
問い合わせ情報	メディアを追加 ビジュアル テキスト
連携の取組概要	段落 B <i>I</i> <u>≡</u> <u>≡</u> “ ≡ ≡ ≡ 🔗 ✕ 📷
連携先の企業(自治体)と結びついたきっかけ	説明文を記入します。説明文を記入します。説明文を記入します。
取り組みを進める上での実務プロセス	太字にしたり、 <u>下線</u> をつけたり、 <i>斜体</i> にしたり、
取組の成果 / 今後の見込み	リストを作ったり、
	<ul style="list-style-type: none">• リスト1• リスト2• リスト3
	リンクを挿入 したり、 画像を挿入 したりできます。
	
	P 
	画像
	画像が選択されていません 画像を追加

「画像」に載せたい画像が無い場合は、省略も可能です。

更新終了後、画面右上の「下書き保存」をクリックします。

「プレビュー」をクリックすると、登録した内容をポータルサイトのデザイン上で見られます。内容に間違いが無いかをご確認下さい。



内容に間違いがあれば、該当箇所を修正してください。



内容に間違いがなければ、画面右上にある「更新」（更新の場合）ボタンをクリックして公開します。

6. 不明点や困った際問い合わせ先

6. 不明点や困った際の問い合わせ先

ポータルサイトや更新方法に関する不明点やお困りごとは、事務局までお問い合わせください。

山の炭素吸収応援プロジェクト事務局

メールアドレス：forestry_carbon@tohmatsumi.co.jp